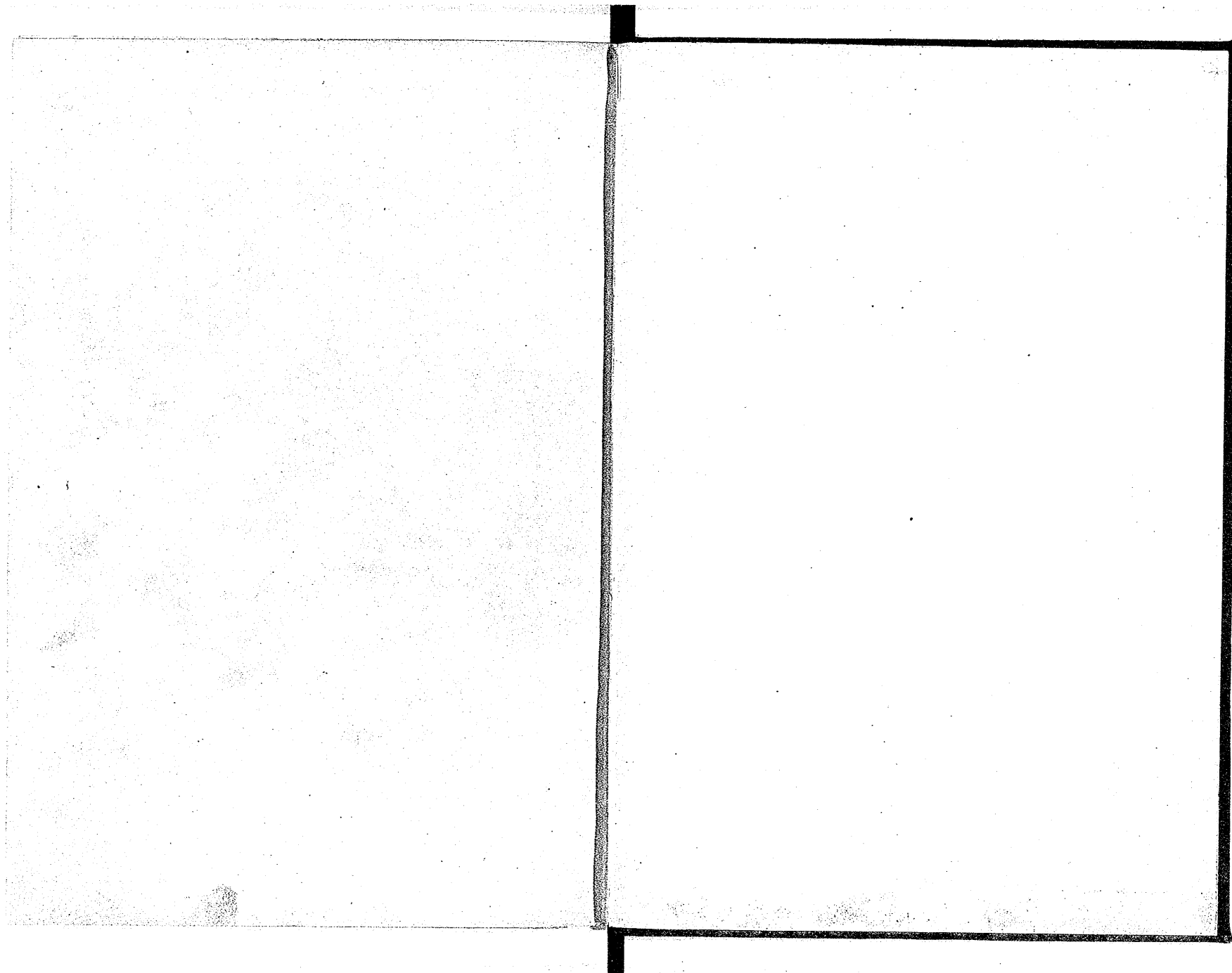




K220.28

24



## 序言

日露戦争後は我が邦の地位に一大變動を及ぼせり。新日本の世界的立脚地を説明せんには、在來の地理教科書に見るが如き順序と組織とにては、到底その目的を達すること能はざるに至れり。茲を以て本會は前きに告白したる如く、從來版を重ねたる教科書とは全然別種の地理書を編纂し、茲に本邦の部を刊行するに至れり。

從來の教科書皆陸上の記載を爲すに専らにして、海洋の記事は僅にこれに附隨せしむるを例とせり。本書は此の點に於て全然その立脚を異にし、從來の特長として自然と人文との關係の密接なる所以を知らしむるの趣旨に従ひ、各地方毎に氣候、自然と産業、人口都會交通等の特説したるの外、新に北部日本、西部日本の次に、海の日本の一篇を設け、更に之を大平洋面、日本内海、日本海、東海の各章に分ちて、海洋の爲めに特殊の記述を爲せり。

滿韓方面の新關係は我が大陸建設の基礎を置きたるものにして、將來の國民には殊によくその重要な所以を知らしむるの要あり。茲を以て本會はアジア洲の部に於て、該方面を一括して詳密に識得せしめんことを期し、本書に於ては遼東租借地の概略を記するにとどめたり。

更に一言を要するは、近來中等學校の地理教授が徒らに分量の少なきを欲して、漸く

その本領を忘却するに至らざるかの傾勢ありと信すること之れなり。蓋し本科の如く事實の記載多き學科にありては、教材の取捨其の當を得ず、排列其の宜しきを得ざれば、教授は徒らに繁雜に流れて、豫期したる効果を收め得べからざるに至るは、往々見る處の流弊なりとす。是に於て本會は最も材料の取捨排列に力を盡くし、且つ各事項の記載には一々番號を附して分類的に説明するの法を用ひ、教授終れる後は直に總括的略表となして生徒に示し得るの方法を採りたる、と同時に中等教育に於ける地理教授の本領は斷じて放棄せざらんことを勉めたり。

本書の圖表統計は主として日本帝國第二十四統計年鑑により、往々斬新なる報告に基きて明治三十九年十一月に至るまでの新事實を載せたり。又鐵道は從來官設線と私設線とを區別する例なれども、一地方の交通を目的とするものの外は、總て國有とするの政策となりて、着々買収せられつつある状態なるを以て、官線若くは局線等の語を冠せしめざることとなせり。

本書の結構は本會の定むる所にしてその所定に基き、草野甚太郎氏は主として執筆の任に當られ、本莊太一郎氏は教材の取捨排列につきて詳密なる批判を加へられたり、その他各種専門學士の助成亦尠しとせず、特に記して感謝の意を表す。

明治三十九年十二月

### 地理教授研究會

## 新日本中等地理 本邦の部

### 目 次

#### 結 語

方位・經緯度

氣候帶

大洲と大洋

地球儀地圖

#### 總 說

領土國民

地勢

一、山系火山脈

二、河平野

氣候

|        |    |
|--------|----|
| 一、氣溫   | 八  |
| 二、風雨   | 九  |
| 天產     | 一〇 |
| 一、植物   | 一〇 |
| 二、動物   | 一〇 |
| 三、礦產   | 一一 |
| 地方誌    | 一二 |
| 北部日本   | 一二 |
| 一、首府東京 | 一二 |
| 二、關東地方 | 一五 |
| 東京府    | 一九 |
| 神奈川縣   | 二〇 |
| 埼玉縣    | 二一 |
| 千葉縣    | 二二 |
| 茨城縣    | 二三 |

|         |    |
|---------|----|
| 栃木縣     | 二五 |
| 群馬縣     | 二六 |
| 三、奥羽地方  | 二七 |
| 宮城縣     | 三二 |
| 福島縣     | 三四 |
| 岩手縣     | 三五 |
| 山形縣     | 三六 |
| 秋田縣     | 三七 |
| 青森縣     | 三九 |
| 四、北海道   | 四〇 |
| 五、樺太    | 四七 |
| 六、甲信越地方 | 五〇 |
| 山梨縣     | 五三 |
| 長野縣     | 五四 |
| 新潟縣     | 五六 |

|         |    |
|---------|----|
| 七、東海地方  | 五八 |
| 静岡縣     | 六三 |
| 愛知縣     | 六四 |
| 三重縣     | 六六 |
| 岐阜縣     | 六七 |
| 西部日本    | 七〇 |
| 一、西部中心地 | 七〇 |
| 二、近畿地方  | 七四 |
| 大阪府     | 七九 |
| 京都府     | 八〇 |
| 滋賀縣     | 八一 |
| 奈良縣     | 八二 |
| 和歌山縣    | 八三 |
| 兵庫縣     | 八四 |
| 三、北陸地方  | 八六 |

|        |     |
|--------|-----|
| 福井縣    | 八九  |
| 石川縣    | 九〇  |
| 富山縣    | 九一  |
| 四、中國地方 | 九二  |
| 廣島縣    | 九六  |
| 岡山縣    | 九七  |
| 鳥取縣    | 九九  |
| 島根縣    | 九九  |
| 山口縣    | 一〇〇 |
| 五、四國地方 | 一〇二 |
| 德島縣    | 一〇四 |
| 香川縣    | 一〇五 |
| 愛媛縣    | 一〇七 |
| 高知縣    | 一〇七 |
| 六、九州地方 | 一〇八 |

|         |    |
|---------|----|
| 福岡縣     | 一四 |
| 佐賀縣     | 一五 |
| 長崎縣     | 一六 |
| 熊本縣     | 一七 |
| 大分縣     | 一九 |
| 宮崎縣     | 二〇 |
| 鹿兒島縣    | 二〇 |
| 七、沖繩縣   | 二二 |
| 八、臺灣    | 二三 |
| 九、遼東租借地 | 二九 |
| 海の日本    | 三一 |
| 一、太平洋   | 三一 |
| 二、日本内海  | 三六 |
| 三、日本海東海 | 三九 |
| 括論      | 四四 |

目次終

|      |    |
|------|----|
| 産業   | 四四 |
| 一、農業 | 四四 |
| 二、林業 | 四四 |
| 三、牧畜 | 四五 |
| 四、礦業 | 四五 |
| 五、漁業 | 四五 |
| 六、工業 | 四六 |
| 七、商業 | 四六 |
| 交通   | 四七 |
| 人口族制 | 四八 |
| 教育   | 四九 |
| 神社宗教 | 五〇 |
| 政體   | 五一 |
| 軍備   | 五二 |

# 新日本中等地理 本邦之部

## 緒 説

地球の圓きこととは船の出入東の西の各地方の時刻の差を以て知るに便し

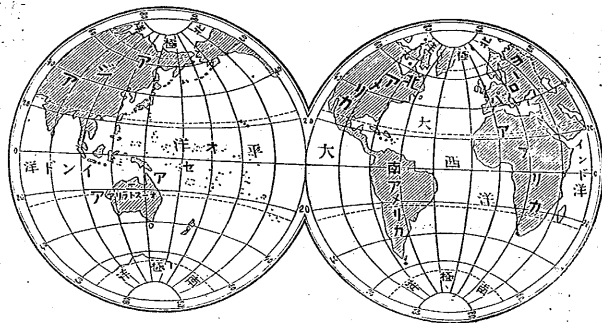
この緯度のふ子午線と本初

方位・經緯度 地球は一の球體にして、その表面の位置を表はすには方位と經緯度とによる。正午に太陽のある方を南とし、同時に物の影の指す方を北とす。この南北線と正十字形に交る線をひけば、その兩端は東西を指す。東西南北はこれを四方位といふ。又四方位の間に北東南南西北西等の方位あり。

今地上に南北の線をひきて、これを限りなく延せば、その兩端は地球の南極北極に達すべし。これを經線といふ。經線にて地表を三百六十に等分すれば、その一部を一經度といふ。經度はイギリス國グリニチ天文臺を通過する經線を零度とし、それより東西に數へて各百八十度に至る。又經線と正十字形をなして東西に通する線をひくときはこれを緯線といふ。

第一圖  
六大洲  
及五  
氣候帯

尚ほ精しく  
地面の位置  
を分ち示す  
に位置を分  
ち示す  
例に文を添  
へてその位  
置を示す



ふ、南北兩極よりの中間にひける緯線は即ち赤道なり。又赤道の南北を緯線にて各九十に等分すれば、その一部を一緯度といふ。緯度は赤道より南北に數へて各九十度に至る。

今緯度にて帝國及び東京天文臺の位置を示さば左の如し。

|    |         |    |            |
|----|---------|----|------------|
| 北緯 | 千島アライト島 | 北緯 | 五一度        |
| 南緯 | 臺灣南緯    | 同  | 二一度        |
| 東端 | 千島シムシユ島 | 東端 | 一五六度       |
| 西端 | 澎湖列島    | 同  | 一一九度       |
| 東京 | 天文臺     | 北緯 | 三五度三九分一六秒  |
|    |         | 東緯 | 一三九度四四分三〇秒 |

**氣候帯** 氣候は緯度の高低に従つて異なるを常とす。赤道の南北各二十三度半までの地を熱帶更にそれより各六十六度半までを溫帶、又溫帶より兩極までを寒帶といふ。溫帶は最も人文の發達に適す。帝國の大部分は北溫帶にあり。

**大洲と大洋** 地球の表面は水陸二部に分れ、

地圖は北を  
上とするな  
常に北を  
示せば必然  
線は特矢に  
示したるに  
方角を知る  
べし

水面は陸地よりも大にして、その面積三と一との割合をなす。陸地はわれ等が生活する所にて、アジア(亞洲)、ヨーロッパ(歐洲)、北アメリカ(北美)、南アメリカ(南米)、オセアニア(大洋洲)、アフリカの六大洲あり。水面はわれ等に最も便利なる交通路にて、大平、大西、印度の三大洋、及び南北兩極洋の別あり。我が國は大平洋の中にありて、アジア洲唯一の島帝國なり。

**地球儀地圖** 地球の形體及びその表面の有様を表はしたるものを地球儀といひ、地球表面の全部又はその一部分の有様を平面上に表はしたるものを地圖といふ。何れも經緯度その他、地面の高低、山河、都邑、交通路等をいろいろの記號を用ひて描きたるものなれば、地理を學ぶには缺くべからざるものなり。

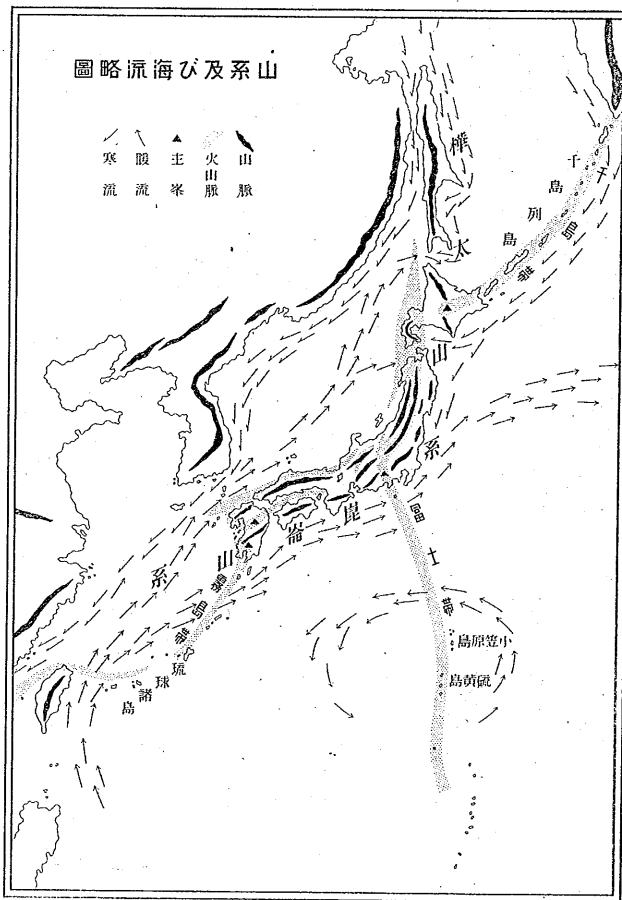
總說

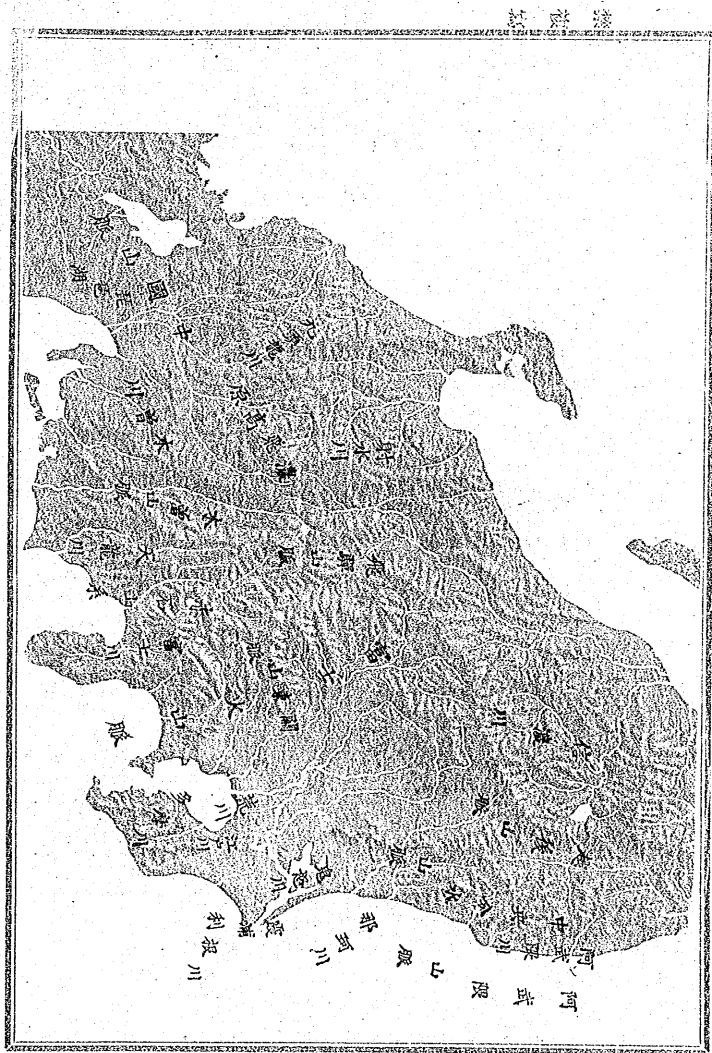
人口密度は  
一平方里に  
一、千八百  
餘人、世界  
中最稠密の  
國の一なり

**領土・國民**　帝國の領土は本州・四國・九州・北州とこれに屬する五百有餘の小島とより成れる日本群島、並びに臺灣・樺太<sup>カラ</sup>、その南部及び附近の小島より成り、面積約二萬九千方里あり、更にこれに保護國・韓及び清國・遼東半島中の租借地を加ふるときは、總面積凡そ四萬二千方里となる。オホツク海・日本海・東海及び北大平洋の西部一面は主として、我が海上權の支配する所なり。國民は古來萬世一系の天皇を戴ける大和民族にて、その他、北州・樺太に住するアイヌ族、臺灣に住する臺灣人及び蕃人あり、總數五千餘萬に達す。

**地勢**　帝國の全長千二百里を超ゆれども、その幅は最も

山系及海流略圖





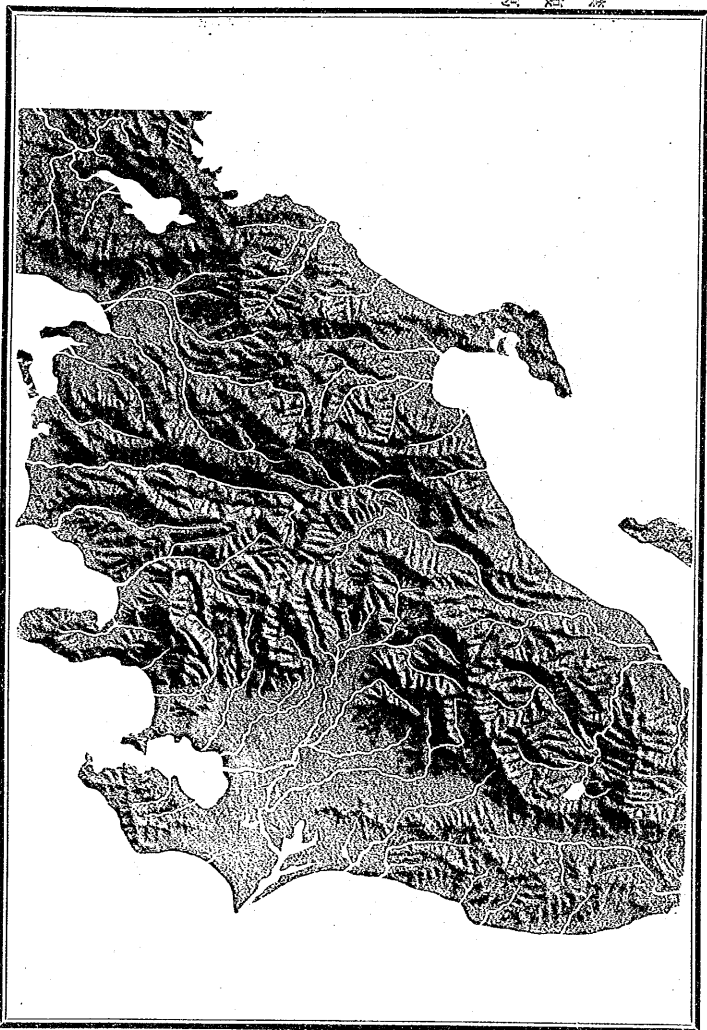
廣き所にて、百里に過ぎず。内地は山多くして、諸川の流域を限り、平野を分つ。

一、山系火山脈 帝國の地體は樺太・崑崙・臺灣の三大山系及び富士・千島・霧島・那須・阿蘇の五大火山脈によりて成る。<sup>(1)</sup> 樺太山系は樺太島に起りて、始と南北に連り、北州を経て、本州中部に至る。北州に東北・日高、本州に北上・阿武隈、中央分水・關東等の諸山脈あり。<sup>(2)</sup> 那須火山脈は中央分水山脈中に起り、千島火山脈は千島列島を貫きて、北州の中央部に達し、樺太山系に交る。<sup>(3)</sup> 崑崙山系は支那崑崙山系の續きにて、南西より北東に向ひて九州・四國及び本州の西半部に連り、富士火山脈によりて、樺太山系に接す。九州には九州南部山脈・筑紫山脈・四國には、四國山脈、本州には紀伊・赤石・飛驒・中國の諸山脈あり。<sup>(4)</sup> 阿蘇火山脈は筑紫九州南部兩山脈の間に起り、又

阿武隈山脈  
中興川  
越後山脈  
信濃川  
富士山脈  
火國山脈  
赤石山系  
天龍川  
水曾山脈  
木曾川  
高尾川  
中興川  
國毛湖  
山毛湖

三  
山  
系  
火  
山  
脈  
阿  
蘇  
火  
山  
脈  
千  
島  
火  
山  
脈  
樺  
太  
火  
山  
脈

樺太島



廣き所にて、百里に過ぎず。内地は山多くして、諸川の流域を限り、平野を分つ。

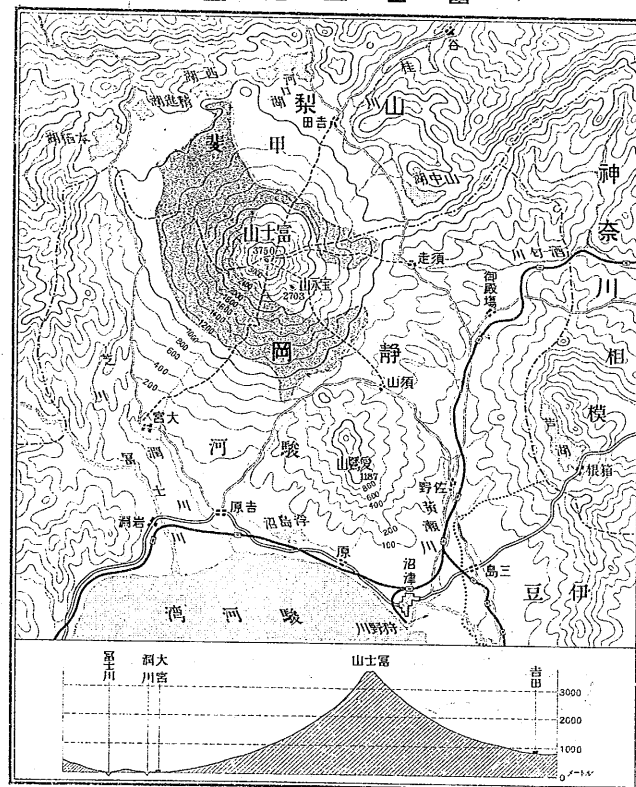
一、山系・火山脈 帝國の地體は樺太・崑崙・臺灣の三大山系及び富士・千島・霧島・那須・阿蘇の五大火山脈によりて成る。<sup>(1)</sup> 樺太山系は樺太島に起りて、始と南北に連り、北州を経て、本州中部に至る。北州に東北・日高・本州に北上・阿武隈・中央分水關東等の諸山脈あり。<sup>(2)</sup> 那須火山脈は中央分水山脈中に起り、千島火山脈は千島列島を貫きて、北州の中央部に達し、樺太山系に交る。<sup>(3)</sup> 崑崙山系は支那崑崙山系の續きにて、南西より北東に向ひて九州四國及び本州の西半部に連り、富士火山脈によりて、樺太山系に接す。九州には九州南部山脈・筑紫山脈・四國には、四國山脈・本州には紀伊・赤石・飛驒・中國の諸山脈あり。<sup>(4)</sup> 阿蘇火山脈は筑紫・九州南部兩山脈の間に起り、又

數本約百九十九  
名山は約百九十九  
岩群は約百九十九  
のむ三は約百九十九  
この地風景は約百九十九  
れ多霧のなを占む  
基等温のなを占む  
昔泉美占む

平地は約百九十九  
段地は約百九十九  
とされ山と段地  
い持た丘あ  
ふにるにりき  
盆地四臺は  
地地ま方地一低河

霧島火山脈は九州南部山脈に交りて起り、南西に連りて臺灣に達す。これに接して琉球島脈あり。  
樺太崑崙二大山系の相會する本州中央部には、秀麗無比の富士山あり。高さ一萬二千四百尺にして、富士火山脈はその南北に通じ、北は日本海に達し、南は大平洋に入りて豆南諸島を貫く。その東に接して、小笠原島脈あり。  
臺灣山系は臺灣島の東に偏りて、南北に走る。中部に帝國最高の新高山あり。海拔一萬三千二百尺に達す。  
二、河平野 帝國は幅狹く、分水山脈概ね嶮しきを以て、河の流れ急にして速く、河口に砂洲あり。雨期には洪水を起し易し。されど山脈間の平野を流れて、國中の大河を成し、通船灌漑の便をなすものありて、その沿岸には大都會起れり。大平洋面の大河には本州に帝國最大の關東平野を流るる利

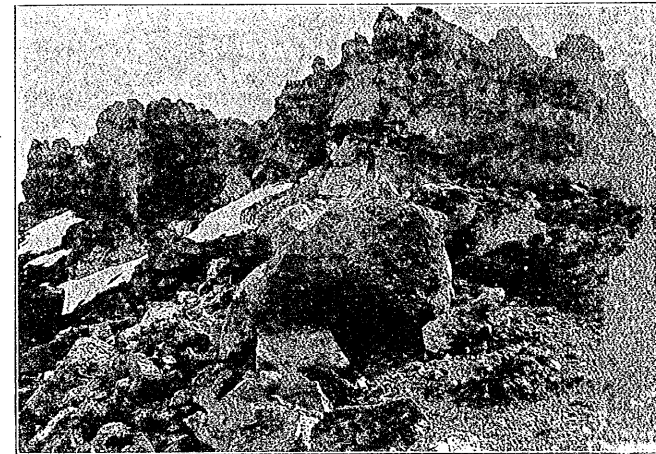
富士山之圖



記号  
火口 高低線 河川 湖 森林帶 國界 縣界 登山道 道路 微道 村落



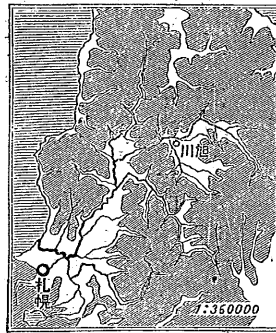
富士全景



富士山頂剣ヶ峰

平野は都  
會の發達  
に適す

第二圖  
石狩川と  
その平野



根川地味最も肥えたる濃尾平野を流るる木曾川及び四國に吉野川あり。關東平野に東京・前橋・水戸・宇都宮・濃尾平野に名古屋・岐阜・吉野川口に近く徳島の都會あり。日本内海に注ぐ淀川は畿内平野を流る。大阪・京都の二大都この平野にあり。

利根川 八二里 七〇里 六〇二方里  
淀川 二〇 一七 二八三

日本海面の大河には本州に善光寺平・越後平野を貫流する信濃川あり、長野・新潟その沿岸に位す。北州には旭川・高原・石狩平原を貫流する石狩川あり、旭川・札幌を沿岸著名の都會とす。九州の大河筑後川は東海に注ぐ、沿岸の筑紫平野に佐賀・久留米あり。臺灣には臺灣海峡に注ぐ淡水河あり。臺灣の首都臺北その沿岸

に位す。

富士火山脈にて帝國を二大部に別ち、その北を北日本、西を西日本といふ。又大平洋に面する凸面を表日本、日本海に面する凹面を裏日本と稱す。

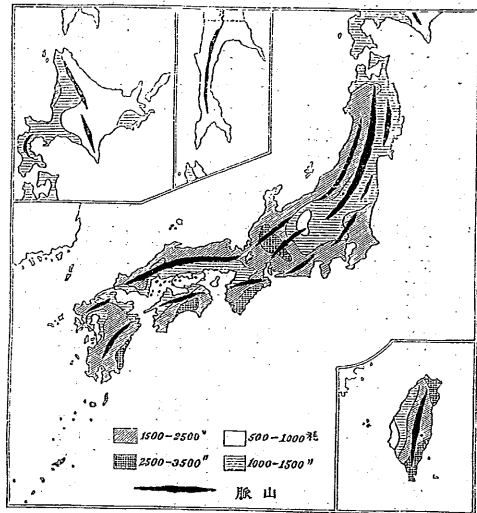
|      |                     |                       |
|------|---------------------|-----------------------|
| 一、山系 | 北日本                 | 西日本                   |
| 二、大河 | 樺太山系<br>北に走る        | 崑崙山系<br>西に走る          |
| 三、平野 | 多し                  | 少し                    |
| 四、人口 | 大なり                 | 小なり                   |
| 五、文化 | 北の方粗<br>東京を中心<br>とす | 概ね密<br>大阪、京都を<br>中心とす |

氣候 一、氣溫 我が邦大部は溫帶に位するを以て、同緯

度に當れる大陸の諸地方に比すれば、氣候溫和にて、夏冬の溫差少し。されど、土地南北に延びて、地勢複雑し、且つ大陸及び近海海流の影響を受けて、各地の溫度に大差を生ず。熱帶に入れる臺灣南部と、北州内地とに寒暖の極度を見る。東京灣、伊勢海並びに日本内海附近は中和の氣候にして、夏冬溫度の差最も少なし。

|      |    |      |
|------|----|------|
| 最高溫度 | 臺東 | 三七、九 |
| 最低溫度 | 上川 | 二四、〇 |
|      | 東京 | 二八、〇 |
|      |    | 二四、一 |

第三圖  
帝國の雨  
量



二、風雨 夏季に多き

南東風は、大洋面各地の雨量を大にして、植物の生育を盛ならしめ、冬季に多き北西風は、大陸面各地に深雪を降らす。春秋の頃は、この兩風の交替期にて、降雨殊に多く、六月の梅雨、初秋の颶風、大雨等最も著し。又琉球・小笠原及び臺灣の平地には、年中雪なく、植物の成長四時止まず。本州北端より北州にかけては、一年の雪降日百日以上に及ぶ。雨量は臺灣の北東部、九

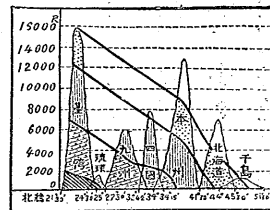
雨量  
金澤 六八  
新潟 五八  
長野 五五  
味野 七

第四圖  
帝國の森  
林帶

州の南東部、四國の南部、紀伊の南部、能登半島等の後ろに大山脈を控へて、暖流の上を吹き来る海風を受くる所に多く、寒流に洗はるる奥羽・北州の東部、山脈に圍まれたる日本内海・本州中部高原等は最も少し。

**天産 一、植物** 溫熱二帶に跨るを以て、樹種多く、その主要なるもののみにても五十種を下らず。山林の地積亦廣大なり。臺灣の平地及び琉球小笠原島は熱帶林にて、榕樹・檳榔・あり。北州の大部及び本州の高山地方は寒帶林にて、蝦夷松・榎等多し。九州・四國・本州の南部は暖帶林にて、櫟・椎・杉・松あり。臺灣には樟多し。本州の北部及び北州南西部は溫帶林にて、杉・檜あり。公孫樹は各地に存す。

**二、動物** 陸産は九州・奥羽に熊あり。四國に



は猿多し。臺灣の水牛は農耕に利あり。近畿中國の溪間には山椒魚を産す。海獸は北海に臘虎・鯨豚等あり。鯨は多く黒潮に游泳す。又沿海到る處魚族に豊かなり。

**三、礦産** 我が邦は地體の變動著しく、且つ火山國なるが故に礦産多し。殊に銅・石炭に富む。金・銅・鐵・石油亦尠からず。

## 地方誌

### 北部日本

北部日本は東京を中心として、關東・奥羽・北海・樺太・甲信越の五地方に分れ、東海・北陸の兩地方により西部日本と連絡す。

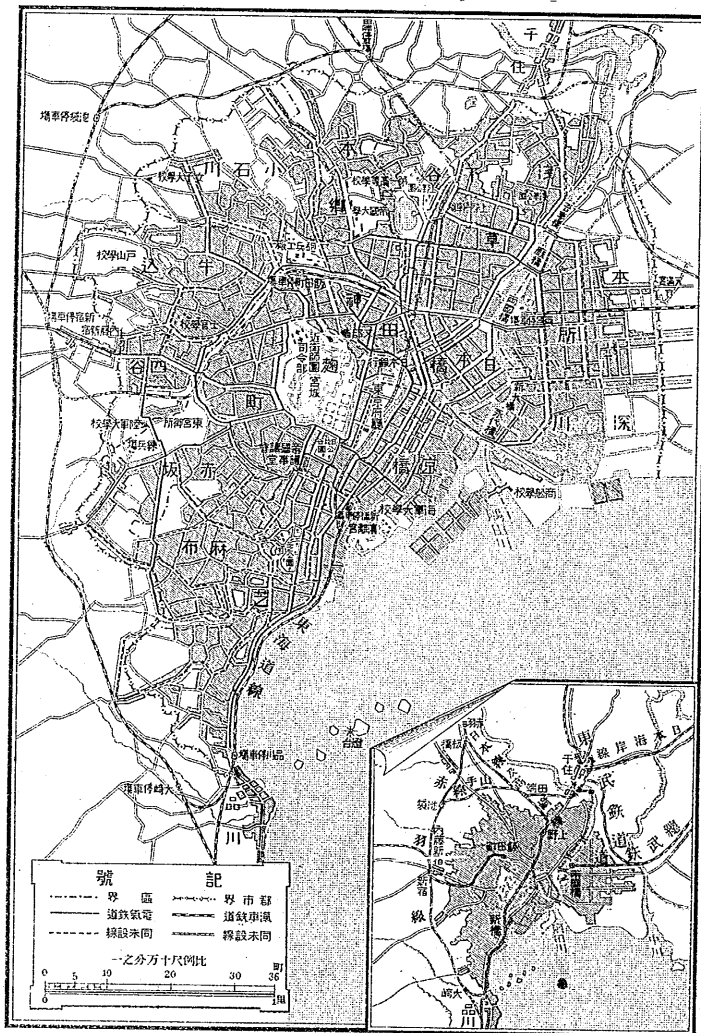
### 一、首府東京

幕府家康の  
しるべき  
六十年間  
江戸の繁  
大都會  
の今世  
の繁華

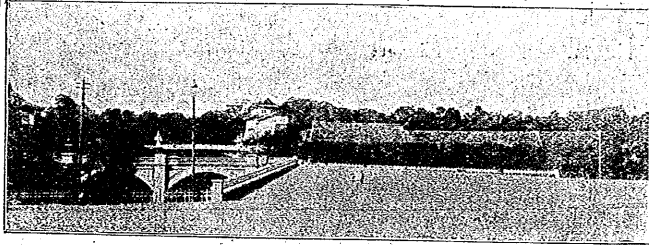
東京は關東平野の南部に位し、隅田川に跨り、東京灣に臨む。全國の首府にして、人口百八十萬あり。市街は十五區に分れ、又地形上、山、手、下町の別あり。電話、電燈、電氣鐵道の便市内に普し。

宮城は市の中央に位し、その附近に近衛師團第一師團の司令部あり。政治の中心地として、内閣その他中央政府の諸官

東京市街圖



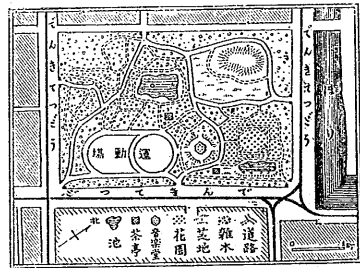
第五圖  
宮城の  
重橋に  
左右二  
リ



省及び各國大使館・公使館あり。<sup>(一)</sup>又學藝教育の中心地にて、東京帝國大學・東京高等師範學校・陸海軍大學校、その他高等專門の諸學校・帝國圖書館・皇室博物館あり。學生の數五萬を超え、清・韓・シ・アム・印度の遊學生亦漸く多く、書籍雜誌の出版いよいよ盛なり。<sup>(二)</sup>工業地としては官設工場の大なるもの多く、綿・絲・紙・革・麥酒・時計・醫術・理化學の器械製造盛なり。<sup>(三)</sup>又交通運輸の機關たる鐵道の起點地として、四停車場あり。新橋より發する東海道線は、畿内地方に、中央東線は飯田町より起りて、甲信地方に達し、總武鐵道線は兩國より

東照宮  
増上寺  
靖國神社  
淺草寺  
第六圖  
日比谷公園

起りて千葉縣に通ず。日本線鐵道は上野より起りて、東北地方及び中仙道地方に通ず。電氣鐵道は横濱に達し、電話は遙に廣島・長崎及び宇都宮等に通ず。海運は隅田川口水淺けれども、品川・横濱と相俟ちて、内外諸港との交通盛なり。<sup>(本)</sup>本市はまた以上の交通區域に於ける貨物の大集散地にて、日本銀行その他銀行會社の數甚だ多し。都人の飲料水は玉川上水に仰ぎ、遊覽の地としては上野・淺草・芝・九段等、著名の社寺を有する公園あり。日比谷は模範的公園と稱せらる。首府の門口たる横濱は東京の南半時間程に位す。開港以來繁榮となり、人口三十二萬あり。輸出茶の再製、輸出向漆



大船の安全に  
泊るのし  
交通の便  
あり  
の積り  
の貨物  
ななる  
要件なり

器の製造盛に、税關正金銀行・日本郵船會社・東洋汽船會社及び歐米汽船會社等の支店あり。近年防波堤を設け、港底を浚へ、稍、良港となりしが、尙ほ税關埋立地を擴げ、倉庫起重機等陸上設備の完成を速ならしむる計畫あり。

## 二、關東地方

**地勢** 本州表日本の中部を占め、西に關東越後兩山脈ありて、甲武信嶽・帝釋山<sup>タインゼン</sup>を起し、那須火山脈・阿武隈山脈北に連りて、白根・赤城・男體・那須の諸火山及び八溝山<sup>ヤハ</sup>聳ゆ。これより南の大部は利根川の流域にて、その平地六百里に亙り荒川・多摩川・馬入川・那珂川の流域と連りて、關東の大平原を成す。

海岸は東に犬吠岬<sup>イヌボエ</sup>ありて、鹿島洋と九十九里濱とを分ち、南

は嶮しき房總三浦の兩半島突出して、東京灣を擁す。

**氣候** 概ね溫和なり、北部の地方及び男體山に近き足尾

を氣溫最低の地とす。東岸地方

溫度

雪日數

霧日數

は霧多く、内地は晴天多し。霞浦

熊谷 三四・七 銚子 七 銚子 二五  
足尾 六四 前橋 〇

には冬季寒き筑波風あり。

足尾 〇 足尾 六四 前橋 〇

**自然と産業**

諸川中流の域は高臺を成して畠多く、麥の産出多きこと他にその比を見ず。下流域の低地には水田開け、霞浦・北浦・印旛沼等は利根川に連接して、灌溉交通の利多し。米産多額に上る。域内桑園亦その間に開け、繭蠶絲の産隨一に居り、機業の盛なること近畿地方に次ぐ。水産は半島地なる千葉縣に最も盛にして、九十九里濱・鹿島洋は帝國重要漁場の一とす。河湖の淡水魚亦都人の食膳に上る。

**人口都會**

この地方は産業盛に交通の便よろしく、且つ

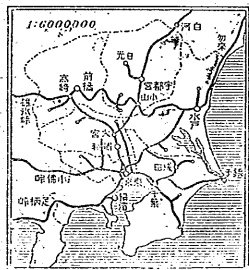
一、方里人口  
四、六一三

帝國の首都を有するを以て、人口最も稠密なり。都會は東京を初めとし、横濱・水戸・宇都宮・前橋・高崎の五市あり。人口一萬以上の町三十に及ぶ。

**交通**

東京を大中心地とし、道路は日本橋を以て各地への里程元標とす。鐵道もまた東京の四方より起る。東海道線は横須賀線を分ちて、關東西境の關門たる箱根の北を廻り、中央東線は川越・青梅兩鐵道線を連ね、八王子を経て甲信地方を連絡す。日本線は中仙道・兩毛・水戸・日光の諸線を連ね、宇都宮を経て奥羽に入り、中仙道線は上武・下仁田兩鐵道線を連ね、高崎に至りて信越線と連絡す。日本海岸線は成田・龍ヶ崎・水戸鐵道及び水戸線を連絡し、水戸を経て關

第七圖  
關東地方  
の鐵道線



東北部の關門勿來を通過す。その他總武鐵道線は成田・房總兩鐵道線を、兩毛線は佐野鐵道線を連絡す。水運は東京灣沿岸及び霞浦・北浦・利根川に汽船の便あり。

沿革府縣制 域内八ヶ國に分れ、關東八州の稱あり、古來勇武を以て名あり、源賴朝はじめて、新府を鎌倉に開きて天下に號令し、北條氏を経て足利氏



に至り、政治の中心を畿内に移したる後は、その一族をして鎌倉を鎮めたり、戰國の頃、後北條氏小田原に據り、上杉氏は越後より出でてこれと對抗せり、豐臣氏天下を一統するに及びて、徳川氏をここに封せり、次いで徳川氏幕府を江戸に開きてより再び政治の中心ここに移れり、維新前水戸・前橋・佐倉・小田原等の諸藩あり、現今一府六縣に分つ。

第八圖  
關東地方  
管轄區域

| 府縣名 | 管轄區域        | 廳所在地 | その人口  |
|-----|-------------|------|-------|
| 東京府 | 武藏の一部・豆南諸島  | 東京市  | 一八二、〇 |
| 神奈川 | 相模・武藏の一部    | 横浜市  | 三三、〇  |
| 埼玉  | 武藏の一部       | 浦和市  | 七     |
| 千葉  | 上總・安房・下總の一部 | 千葉市  | 二、九   |
| 茨城  | 常陸下總の一部     | 水戸市  | 三、七   |
| 栃木  | 上野          | 宇都宮市 | 三、六   |
| 群馬  | 下野          | 前橋市  | 四、二   |

**東京府** 關東地方の門口東京灣に臨める地方なり。西部

の山地を除く外は、東京市水道の源たる多摩川及び荒川の沿岸地にて、古の武藏野の一部なり。又豆南諸島を合せ、管する府縣中面積最も狭く、人口最も密なる地方の一にて、東京の周圍には品川・内藤・新宿・千住等の市街連り、概ね鐵道電車の便あり。紙革・摺附木及び海苔の産額多く、工場用石炭の消費額亦大なり。

品川は東京の南にありてガラス・煉瓦等の製造所あり、船の

一万里人口  
二二九七二

横須賀造船所  
大船渠  
一〇〇呎  
薩摩大船渠  
〇〇呎  
建國大船渠  
九〇呎  
十九年  
臨幸  
水陸交通  
せられたり

出入多し。千住は東京の北に位し、荒川に沿ふ。野菜の市場あり、羅沙紙等の製造盛なり。八王子は多摩川上流域養蠶機業の中心地にて、織物の産多く、染織學校の設あり。  
**神奈川縣** 馬入川縣の中部を南流し、大山その西に聳ゆ。西境には箱根足柄の連山あり。大山の斜面地には、葉煙草を産し、秦野をその集散地とす。その南には蜜柑を産す。東部の平地は三浦半島の丘陵に盡き、その東岸には横濱横須賀軍港並に浦賀港あり。南方相模洋沿岸は氣候溫和、海水浴に適し、鎌倉大磯小田原間に別荘旅館の設多し。縣内人口の密なること東京大阪の二府に次ぐ。水産の利亦大なり。  
横須賀は第一海軍區鎮守府の在る所にて、造船所海軍機關學校あり。觀音崎に砲臺をおきて東京灣を警備す。鎌倉は久しく武家政治の中心たりし所にて、名所舊蹟神社佛閣

鎌倉宮  
鶴岡八幡宮  
建長寺  
圓覺寺  
長谷大佛

第九圖  
箱根山地

の存するもの多し。小田原は東に酒匂川を帶び、西に箱根を控へたる要害の地なり。東海道國府津驛との間に電車鐵道あり。南西熱海まで人車鐵道を通ず。箱根は休火山にて、山上の蘆湖畔に離宮あり。山中七湯の名高く、都人の保養地たり。箱根峠は足柄峠と相待ちて東海道の要害をなし、古湖邊に關門の設ありしが、今は足柄峠の附近に鐵道を通ず。



**埼玉縣** 西部には關東山脈の秩父諸山起伏して、大宮盆地を成す。この盆地は大宮を中心として、桑園開け、秩父絹を産す。これより東は關東平野の一部にて乾燥なる臺地より下りて、江戸川沿岸の低地となる。低地は米産多く臺地は

第一多○額圖  
全一國九萬七千六百八十八  
埼玉一五二一  
茨城一二七



畑桑園に富み、麥の産額は茨城縣と共に府縣の首位を占む。藍の産亦多し。養蠶・製絲・織物業は到處盛に行はれ、小都邑各地に發達す。

浦和町は縣治の中心地なれども、東京に近接するを以て、都會を成すに至らず。その北の大宮には日本線鐵道の大工場あり。熊谷は穀物・織物の取引多し。川越は絹織物・甘藷の産に富む。

**千葉縣** 南部は房總半島の丘陵地、北部は下總平原にて、縣界に利根川・江戸川を帶び、印旛沼・手賀沼を湛へ、水田の廣きこと關東第一とす。内部の水利不便の地には、習志野・小金原・三里塚等の廣野あり。習志野は陸軍の大演習地、三里塚には下總御料牧場あり。小金原は明治の初年概ねこれを開墾せり。都會は千葉・佐倉・銚子を著名なるものとす。半島

部には海水浴に名高き北條・館山・誕生寺を以て名高き小湊等あり。漁業は鰺漁を第一とし、水産の利府縣一二に位す。江戸川沿岸の野田・利根川口の銚子は醬油を産し、東京に輸出す。その産額府縣第一に居る。

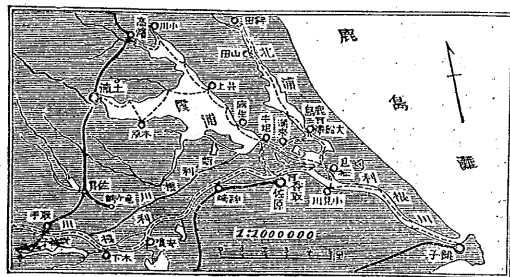
千葉町は縣治の中心地にて、醫學專門學校あり。佐原は有名なる地學者伊能忠敬の出でし所、利根川水運の中心地にて、酒・醬油を産す。香取神宮はその東里許にあり。千葉・佐原の間に位する成田は、不動堂を以てその名高く、成田鐵道の起點地なり。銚子は醬油・鰺節を産し、利根川水運の起點にて、利根運河を経て、江戸川に通じ、東京に達する汽船の往復あり。犬吠岬は本州の東端にて、有名なる燈臺あり。

**茨城縣** 中部には平野の間に聳ゆる筑波山あり。これより北は山多く、那珂川・久慈川その間を流る。北境平潟附近

第一  
利根川  
下流汽船  
及汽船  
圖

に石炭、太田附近に大理石、筑波附近に花崗石等の礦産あり。  
南部は利根川の流域にて、鬼怒川、霞浦、北浦、浪逆浦等の河湖相連り、沿岸地方水田廣く、水運の便よろし。平野の間に水戸、石岡、土浦、結城等の市町あり。  
臺地は概ね畑にて、麥、大豆、蕎麥、煙草の産額何れも府縣の一二に位す。沿海は鯉、鰻、鯨の漁獲あり。霞浦は鯉、鰻、眞珠を産す。

水戸市は那珂川を帶び、北境勿來を控へて、濱街道の要路に當る。徳川氏が親藩を封ぜし地なり。市内に弘道館あり。本邦三公園の一と稱せらるる常磐公園は市の西にあり。



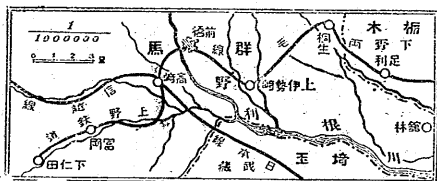
特産は、  
若くは、  
種々、  
事情は、  
事繁、  
會原、  
一因、  
りな

て、千波沼を控ふ。湊は磯濱、平磯の漁場を控へたる市場にて、水戸市との間に汽船を通ず。石岡は酒醬油の産多く、土浦は霞浦に臨みて、水陸交通の便を兼ね、市況盛なり。北浦沿岸の鹿島は鹿島神社を以て、その名高く、筑波山には山階宮殿下の設立せられたる氣象觀測所あり。結城は紬を名産とす。

**栃木縣** 北境に那須、高原等の火山あり。那須、鹽原等の温泉を以てその名高し。裾野は高原地にて、薪炭を産す。開墾の業亦大に進めり。西境には男體、白根等の火山聳え、男體山麓には日光廟、その附近に世界有数の足尾銅山あり。山中各一都會を發達せしむ。中部以南は利根流域の平地廣く大麻、桑を植ゑ、養蠶機業盛なり。鹿沼、栃木、田沼、足利、佐野等の都會あり。中部以北は煙草の産多し。

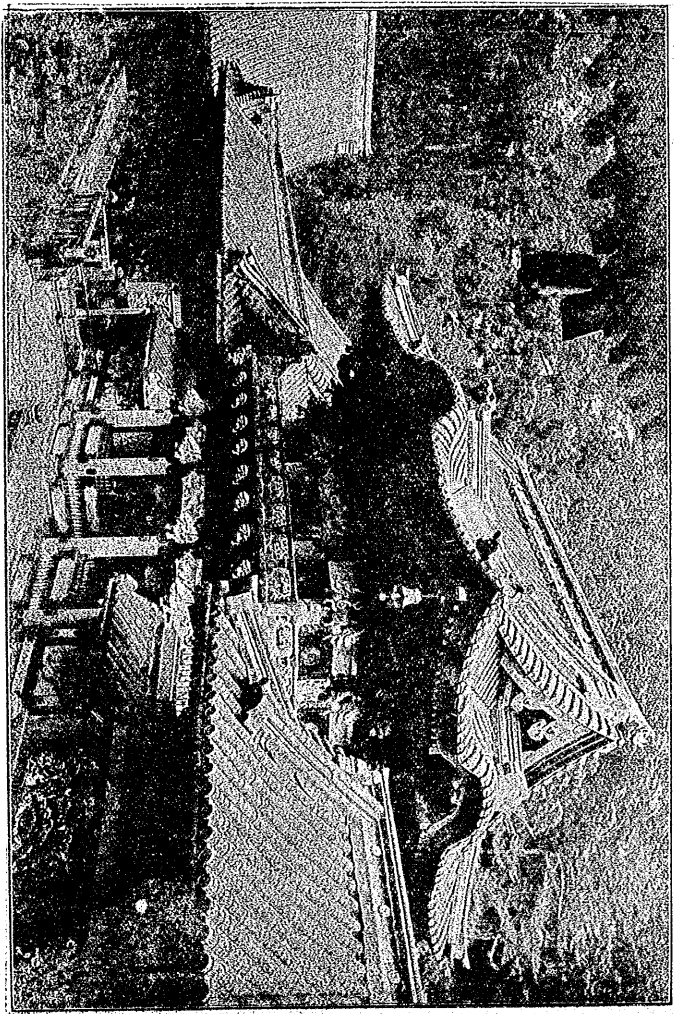
北峰峠の北境に  
三上杉の關あり  
關東の東に  
出づる路に

第一  
二關東  
地方圖  
物



宇都宮市は縣治の中心地にて、日光線鐵道の分岐點に當る。鹿沼は大麻の産地にて、製麻工場あり。日光は日光廟の結構、中禪寺湖の幽邃、華嚴瀑の壯觀によりて、遊覽の客絶えず。中禪寺湖には鮭、鱒の養魚行はる。栃木は生絲、木材の取引多し。足利は著名の機業地にて、又有名なる足利學校あり。佐野は鑄物を特産とす。

**群馬縣** 那須火山脈諸所に起り、東西の境に各白根の活火山あり。西境に淺間の活火山中部に赤城、榛名、妙義の三山聳ゆ。伊香保、草津の温泉、磯部の礦泉等あり。縣内平地は北境に發する利根川の中流沿岸に過ぎず。人口は關東中最も粗なり。されど養蠶の盛なること



日光の東照宮 門と参道

下、總・御料・牧場・外山・支放の牧場（北の東六里にあり）

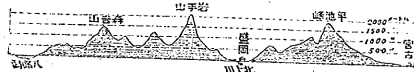


は府縣中ただ長野縣に譲るのみ。機業は京都・福井に次ぐ。前橋市は生絲取引の大大市場にて關東・越後間の要路にあたる。桐生は有名の機業地にて、その起源頗る遠く、精良なる織物の産地として、京都と併稱せらる。伊勢崎も亦機業地として、名あり。高崎市は鐵道四通の地、生絲の製造取引多し。西方の富岡には洋式製絲の大工場あり。安中は碓氷峠を控へて、古來關東交通の一要地たり。

### 三、奥羽地方

**地勢** 本州の東北部なるを以て、又東北地方とも云ふ。  
(1) 中央なる分水山脈その中部を南北に走りて、那須・磐梯・岩手・八甲田等の那須火山脈に屬する諸火山を戴き、地勢を大平洋面と日本海面とに分つ。(2) 大平洋の海岸に近く磐城高

第一三圖  
奥羽地方  
断面圖



原を成せる阿武隈山脈、陸中高原を成せる北上山脈ありて、  
靈山・早池峰等聳え、中央分水山脈との間に阿武隈川・北上川  
の細長き縦谷を作る。兩河口の間は即ち仙臺平原なり。又  
日本海面には岩木山・鳥海山・月山を戴ける岩木火山脈斷續  
して數個の盆地を作り、最上川・御物川・能代川・岩木  
川これを灌漑す。  
沿岸 一、東に牡鹿半島あり、仙臺灣を擁す。これよ  
り南の磐城の海岸及び八戸以北の陸奥の東岸は、  
概ね砂濱なれども、その中間に位する陸中の海岸  
は鋸齒狀の小灣多くして、殆ど平地なし。二、西岸  
は八郎潟を擁する男鹿半島ある外、出入少なく、砂  
濱多けれども、酒田・土崎・船川・能代の諸港ありて、各  
盆地の門口を成す。三、北部には斗南・津輕の兩半

土地の開  
拓は味の  
地味に左  
右氣候に  
せらる

島突出して、陸奥灣を擁し津輕海峽を隔てて北州に對す。青  
森港その内にあり、奥羽地方唯一の開港場なり。

**氣候** 關東に比すれば甚だ寒く、平均温度は福島を最高  
とし、青森を最低とす。冬季一般に降雪多く、殆ど雨を見ず。積  
雪道路を没し、橇を通ず。又西岸及び北岸には暖流ありて、  
水蒸氣に富み、北西風の衝にあたる。東岸は寒・暖二流の會點  
にあたり、西岸よりも温度  
稍、低けれども、降雪は却て  
少く、霧多し。

**自然と産業**

一、中部以東は一般に地味瘠せて、田畝開け  
ず。粟・稗の外耕作し難き所あり。二、仙臺平原及び西部の盆  
地は地味肥えて米産多し。されども氣候寒冷なるを以て、一  
關以北は茶竹に乏しく、農業の勞苦は關東地方の比にあら

平均温度

寒暖の極

雪日數

霧日數

|    |      |    |      |    |      |    |    |
|----|------|----|------|----|------|----|----|
| 福島 | 一二・七 | 山形 | 三五・五 | 福島 | 六七   | 石巻 | 六三 |
| 青森 | 九・四  | 青森 | 二六・〇 | 青森 | 一〇・五 | 秋田 | 八  |

ず。往往凶作を見る。三、南部三縣は蠶業盛大にて、北部三縣は森林に富む。鑛業、牧馬は中部の地方に盛なり。

| 面積      | 人口   | 田    | 畑    | 米產額  | 蠶    | 蠶絲   | 機臺   | 馬    |
|---------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| 奥羽 一六、一 | 一〇、二 | 一五、一 | 一二、五 | 一二、八 | 一六、九 | 一三、二 | 五、六  | 二五、八 |
| 關東 七六   | 一九、〇 | 一二、五 | 一九、〇 | 一三八  | 二七、九 | 二六、六 | 一九、〇 | 一五、一 |

(數字はすべて全國を百としたる比にて示す但し樺太は算入せず以下これに倣ふ)

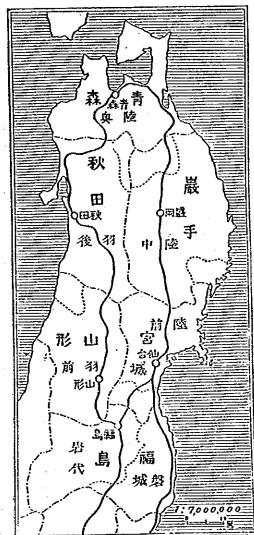
**人口都會** 面積は關東に倍すれども、人口は却てその半に過ぎず。東海岸は都會極めて少く、西岸には稍多し。阿武隈川最上川の沿岸最もよく發達せり。仙臺、若松、盛岡、山形、米澤、秋田、弘前、青森の八市を各地方の中心地とす。

縦谷は交通の便に横谷は交通の便に

**交通** 一、鐵道は二大幹線あり、日本線及び奥羽線これなり。日本線は白河より、阿武隈、北上、二大川の縦谷を通じ、福島、仙臺、盛岡を連ねて青森に至る。又南部に日本海岸線の一部あり。又岩越鐵道は郡山に起りて、若松市の北に達す。奥

縦谷は交通の便に横谷は交通の便に

羽線は福島に起り、概ね出羽街道に沿ひ、諸川流域の盆地を縫ひて、北の方米澤、山形、秋田、弘前を経、青森に達す。各盆地を限れる山地は傾斜急にして、板谷、院内、碓關附近に隧道多し。二、海運は神戸、小樽間の東廻線、西廻線の航路あり。東岸の荻濱、西岸の酒田、土崎、能代を寄港地とす。青森は又函、樽航路の起點にて、津輕、下北の兩半島より函館に海底電信線を通ず。又函館、青森間に電話の便あり。



第一四圖 奥羽地方

**沿革府縣制** 古磐城岩代、陸前、陸中、陸奥を單に陸奥と稱し、羽前、羽後を出羽と稱せり。前九年、後三年の役後、藤原清衡、陸奥の鎮守府將軍となりて、平泉に居り、遂に出羽を合す。源頼

朝は葛西清重を奥州奉行となし、南部伊達相馬の諸族その部下より起れり。戦國の時伊達氏獨り強大なりしが、秀吉これを降して伊達氏以下の封を定め、上杉景勝を會津に封せり、後上杉氏は徳川氏のために米澤に徙さる。仙臺若松秋田盛岡米澤等の諸藩あり、明治元年陸奥出羽を分ちて七國とせり。現今六縣の分轄なり。

| 縣名 |   | 管轄區域           | 廳所在地 | その人口 |
|----|---|----------------|------|------|
| 宮城 | 城 | 陸前・大部・磐城の一部    | 仙臺市  | 九三   |
| 福島 | 島 | 岩代・磐城の大部       | 福島町  | 二七   |
| 岩手 | 手 | 陸前・大部・陸前・陸奥の一部 | 盛岡市  | 三一   |
| 山形 | 形 | 羽前・羽後の一部       | 山形市  | 三八   |
| 秋田 | 田 | 羽後の大部・陸前・陸奥の一部 | 秋田市  | 三二   |
| 青森 | 森 | 陸奥の大部          | 青森市  | 三四   |

**宮城縣** 一、仙臺平野及び北上川沿岸は地味肥え、仙臺米の産地なり。名取川その中部を流れ、奥羽の中心市場たる仙臺市これに跨り、東北鹽竈港を控ふ。又牡鹿半島の西岸に荻濱港、北上川口に石巻港あり。北上川は岩手縣に汽船を通じ、

第一五圖  
松島全景

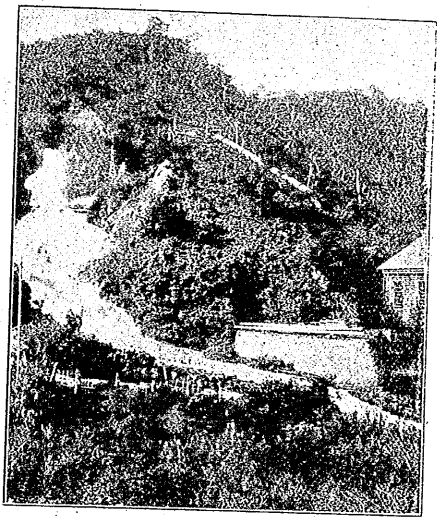


又野蒜運河、東名運河に由りて、松島灣にも通ず。阿武隈川口より鹽竈に至るまでは、伊達政宗の設計に成れる貞山堀あり、河海水運の利大なり。鹽竈は松島遊覽の要地とす。牡鹿半島南端の金華山附近は鮪鯉鯨の漁利あり。二、西部の火山脈地方は溫泉多く、鬼首の間、歇泉はその名高し。その附近は牧馬盛にて、鍛冶屋澤には軍馬補充部あり。仙臺市は伊達政宗の築城以來東北の大都となり、現今第二師團司令部、第二高等學校、醫學專門學校、高等工業學校を設く。仙臺平織、八橋織は西陣の織法を傳へて、その術精巧なり。石巻は荻濱鹽竈及び一關附近に

丘陵高原  
は牧場に  
適す

第一六圖  
中山峠水  
力發電所

至る汽船あり。水運の便あれども大船は萩濱に寄泊す。  
**福島縣** 一、東部は磐城高原にて、靈山北境に聳え、丘陵起伏し、到る處馬を牧して三春駒の名高し。阿武隈低地には養蠶製絲盛に又煙草の産多し。福島郡山・須賀川・白河等の都會あり。海岸地方は平附近に炭田あり、小名濱平潟の二港その南に位す。北部の中村は相馬焼に名あり。岩代中部の猪苗代湖及びその下流日橋川（越後川とて阿賀の流域は會津盆地を成し、漆器・陶



百積  
一〇三九  
一方里人口  
八二八

第一七圖  
大船渡港



器等の工業あり。湖北には磐梯・吾妻等著名の活火山聳ゆ。湖水を郡山地方に疏通して灌漑に供す。  
福島町は縣治の中心地にて、生絲の取引多く、共同荷造所・日本銀行出張所の設あり。若松市は南東遙に白河を控へ、險要の地なるを以て、帝國の戦史にその名高し。郡山は湖水の疏通以來電力の利用行はれ、生絲を産す。  
**岩手縣** 府縣中面積最も大に、人口最も粗なる地方とす。高原起伏して、未だ開拓に就かざる所多く、山林の區域廣大なり。又各地に牧場あり。盛岡の東なる外山牧場・岩手山の麓なる小岩井農場等著はる。縣内地味瘠せて、稗粟を耕種する所多し。中部は北上川・馬淵川の縦谷にして傾斜急なれば、水運の便なく、北上川の支流雫石川・和賀川・膽澤川

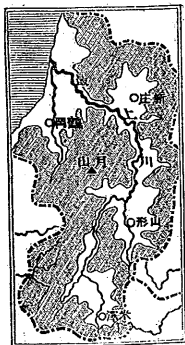
沿岸の水田用水は、水閘を設けて、上流よりこれを導く。一、關附近は蠶業盛なり。海岸は屈曲に富み、宮古・釜石・大船渡等の良灣あり。只陸上交通の便を缺く。水産は奥羽第一に居り、宮古に水産學校あり。釜石附近の鐵山は本邦第一にして、釜石町ために榮ゆ。又和賀川上流に仙人鐵山あり。膽澤川上流の劔山には硫黃を産す。

盛岡市は南部馬の中心市場にて、又生絲・鑄物・林檎の産あり、盛岡高等農林學校をおく。市の西に厨川・柵址・南の水澤に臨時緯度觀測所あり。衣川附近の平泉は清衡以下三代の居館のありし地にて、中尊寺の金色堂は覆堂を設けて保護せらる。

**山形縣** 縣内に湯殿山・月山あり。北西一面海に面すれども砂丘高く、秋田縣に至る間、防風林の設あり。その他は山に

第一八圖  
最上川沿  
岸の盆地

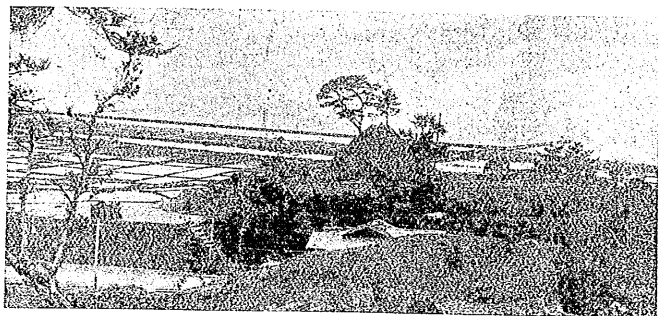
地方の産業  
發達の歴史  
を多に示す



圍まれて、交通不便に、鐵道は縣境に隧道多く、板谷峠最も著名なり。平野は最上川沿岸に開け、數多の盆地に分れて、各中心地を有す。置賜地方の米澤市、最上地方の山形市、庄内地方の鶴岡、これなり。又酒田・新庄・谷地等の盛邑あり。山形・米澤間の上山・赤湯は温泉を以て著はる。縣内米産の多きこと奥羽第一に居り、養蠶機業は福島縣に次ぐ。

山形市は縣治の中心にて、生絲・漆器を産す。米澤市は上杉鷹山の遺業によりて、養蠶・製絲大に發達し、米澤織の名産あり。酒田は日本海航船の寄泊地にて、米穀の積出港とす。**秋田縣** 岩木・火山脈中央部を通じて山深く、山地は全面積の九割を占め、能代川流域には杉林多く、舊藩以來林制整

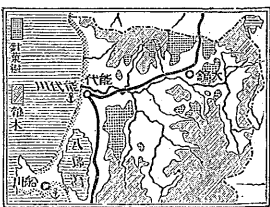
第一九圖  
岸八郎海沿  
の景



ひたるため、秋田杉の名今に高し。又北東境の小阪銅山を初めとして、尾去澤阿仁荒川の銅山あり。南境には院内銀山あり。最も礦産に富む。小阪の産額は足尾に次ぎ、銀は全國の十分の四を産す。御物川能代川流域の平野は米産多く、秋田・土崎・横手・能代の市町あり。南部の子吉川流域は別に一區をなし、本莊をその中心地とす。沿岸は概ね平直なる砂濱なれども、男鹿半島は八郎潟を擁して、山水の明媚なること松島灣に譲らず。その南岸の船川は良港の名あり。

第二〇圖  
秋田縣の  
森林地

秋田市は畝織・八丈縞の産あり、第十六旅團の設置以來市況盛なり。土崎港は秋田市の門口にあたり、北海道との交通繁く、商業の盛なること縣内第一とす。能代は土崎に次ぐ商業地にて、蒸氣力を用ゆる挽材工場あり。春慶塗を産す。



|     |            |    |      |       |      |    |
|-----|------------|----|------|-------|------|----|
| 秋田縣 | 海岸         | 港  | 礦産   | 山林牧場  | 農産   | 水産 |
| 岩手縣 | 平直、陸路の便あり  | 乏し | 銀、銅  | 杉材に富む | 米産多し | 乏し |
|     | 風曲多く陸路の便悪し | 多し | 鐵、硫黄 | 牧場に富む | 米産少し | 多し |

**青森縣** 本州極北の地にて、斗南・津輕の兩半島陸奥灣を擁し、青森・野邊地・大湊の諸港、灣内にあり。沿海は鮑・鱒・昆布の産多し。陸には北に恐山、南に八甲田山、西に岩木山ありて山深く、本州中平均溫度最低の地とす。津輕半島には檜の良材あり。八甲田山以東小河原沼附近は牧場開け、三本木には

青森港の貿易は貨物の輸入に限る

軍馬育成所畜産學校あり。平野は岩木川及び馬淵川の沿岸に廣く、弘前八戸をその中心とす。  
青森市は日本線及び奥羽線鐵道の終點に位し、北州交通の要路にあたる。本州最北の開港場にて、函館・室蘭に定期航海あり。大湊は海軍要港にて、水雷團をおく。日本海東門の防禦地たり。弘前市は岩木川の沿岸津輕平野の中心市場にて、漆器・林檎を産す。又第八師團司令部あり、縣内第一の盛地とす。八戸は鮫港を控へて、鐵道の支線を有す。

#### 四、北海道

**地勢** 北州及び千島列島を含む。北州には樺太山系殆ど南北に連り、千島諸島より來れる千島火山脈と中央部に會し、又タクカムウシユベ・十勝岳等の高峯を起し、石狩・天鹽・

十勝諸大川の分水界を成す。南西部は概ね膽振火山脈に屬する山地にてその脈を本州に延き、火山岩の分布廣大なり。平野は石狩平野最も大にして、よく開け、十勝平野これに次ぐ。天鹽平野は狭くして長し。  
**海岸** 渡島・後志・膽振の三國は山勝ちの半島にて、最も出入に富み、その東部には内浦灣深く彎入して、室蘭・森の二港その灣口に位す。半島の南端は南東に惠山岬、南西に白神岬突出して、函館港その中間に位す。西岸には福山・江差・壽都・岩内の諸港あり。積丹・半島は北西に突出して、小樽灣と岩内灣とを分つ。北端の宗谷岬は樺太に對し、北東の知床岬は低平なる北見根室の海岸を分つ。根室には中部に野付、南に納紗・布岬の斗出あり。これより南に花咲・厚岸・釧路の三港あり。襟裳岬は日高山脈の南端を成す。

第二圖  
北海道の  
流水區域

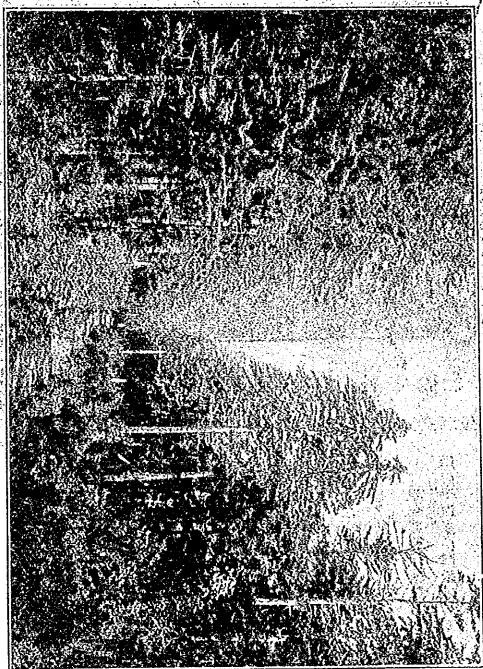
**氣候** 緯度高ければ一般に寒冷にて、上川  
高原の旭川は零下三十六度に下りたること  
あり。十一月末より雪降り初め、年中降雪期間  
百三十日に及び、四月に至りて融解す。沿海地  
方は海流の關係に由りて、東西の氣温に著し  
き差異あり、オコツク海沿岸は冬季氷結す。又東半部は雨少  
く、海岸に流氷あり。親潮の對馬海流支派に會する海上は霧  
多く、燈臺には霧笛を設く。



水産漁獲物は、乾物として製し、食料として国内に供給す。

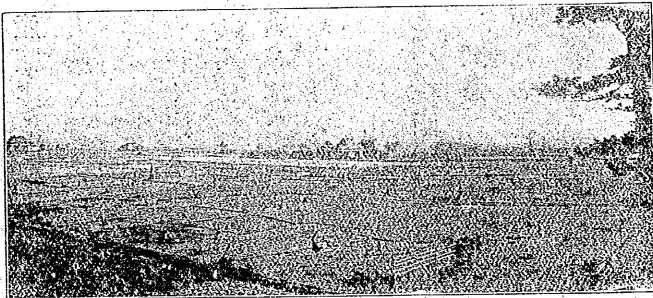
**自然と産業** 沿海は南東岸一帯親潮に洗はれ、西岸に對馬海流の支派を受くるを以て、水産最も豊かに、鯨、鮭、鱒、昆布等の漁利多く、日本海岸の壽都、小樽、増毛の諸港、奥尻、利尻、禮文の諸島及び東岸の根室、國後島は鯨の好漁場たり。島内は到る處蝦夷松、榎松、落葉松繁茂し、平野は伐木して開拓し

蝦夷地、北の深山、最も美觀なり。高千穂、船  
ついでに、北の深山、最も美觀なり。高千穂、船  
ついでに、北の深山、最も美觀なり。高千穂、船

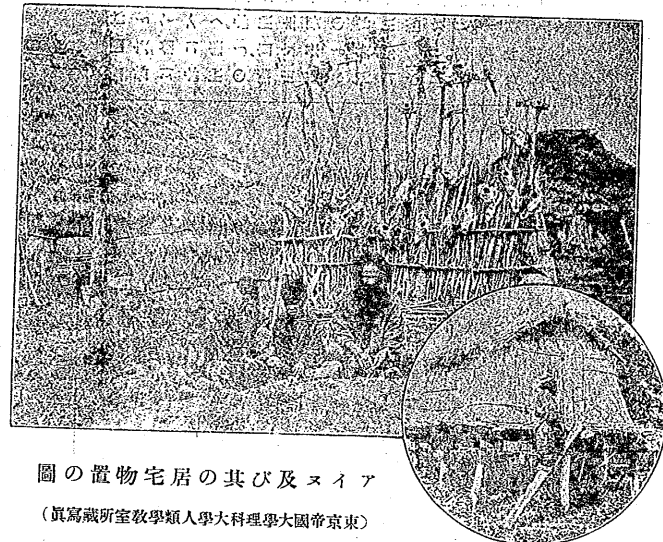


假松偃松林(北見國斜里國有林)

第三  
の  
新開  
農  
村  
の  
景



たる所あれども、内地には斧の入らざる所多く、山林は約六百萬町歩あり。鐵道枕木・摺附木・軸木・經木・紙の原料は殆ど無盡藏とす。又所々に大規模の牧場あり、馬牛を産す。新冠に御料牧場あり。農業は西洋犁を用ひて馬耕を行ひ、大小豆・麥・馬鈴薯の産額年々増加す。水田は廣野の水利便ならざるによりて甚乏しきも、近年漸く増加の模様あり。石狩平野は地味最も肥え、開拓事業亦最も進歩せり。礦産は石狩・釧路等最も石炭、又は硫黄に富み、金は枝幸を初めとして、所々に砂金の産地ありて



圖の置物宅居の其び及ヌイア

(眞寫藏所室教學類人學大科理學大國帝京東)

アイヌは全身多毛にして、男子に鬚髯多く、且つ之れを貴重す。女子は口邊に入鬚を施す。風習粗野にして、開化の度低し。男子は流繩を弄とし、弓箭に長じ、毒矢を用ひて熊を捕へ、嗜みて其の腦を生食す。衣服は楡樹の纖維にて織れるアツシを以て作り、左衽に着す。食物は百合の根にて製したる澱粉、及び粟稗を用ゐ、男子は殊に酒煙草を嗜む。家は土中に柱を建て、茅を以て葺く。大抵「ア」と稱する物置あり。其の構造は床を高くし、鼠害を防ぐべき用意をなせり。現今其の部落は日高國・沙流川沿岸の平取及び附近に多し。

産額多し。工業は摺附木・軸木・酒・澱粉の製造、木材挽割等最も廣く行はる。

### 人口・都會

維新以來奥羽・新潟・北陸地方より移住するもの多く、近年は五・六萬人に達す。年々増加すれども總數百十二萬に過ぎず。面積の大なるに比して、人口極めて粗なり。古來本土に蔓延せしアイヌ族はその數二萬に滿たず、主として膽振・日高地方にあり。得撫以北の千島は無人の地たり。都會は札幌を北州開拓の中心とす。小樽・函館を門口とす。

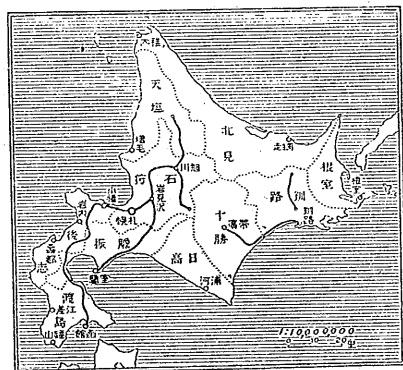
面積 人口 耕地 水産 礦産  
三三、二〇〇、六一九、二九八

交通 道路未だ充分に開けざれど、主要の通路には無人の地と雖も、驛遞の設ありて馬を備へ、且つ旅宿の便に供ふ。石狩川には小蒸汽船航行す。鐵道は炭礦線・手宮に起りて、小樽・札幌を過ぎ、又一支線は室蘭に起りて、苫小牧を經、石狩

帝國の平均人口は十倍以上の増加を容れしむるの必要あり

第三圖 北州の支國別及所在地

平野の中部に會し、附近の諸炭田に至る。上川線はこれと砂川にて連絡し、旭川に至りて天鹽線・十勝線の二となる。又東部には釧路線及び跡佐登・礦山用線あり。西部の北海道線は函館・小樽間に全通す。航路は函館・室蘭より青森に、又函館・小樽より神戸との間に東廻線・西廻線の定期航路開け、函館・青森間に二條の海底電信線及び電話線を通ず。但し東部その他流水區域にあたる所は冬季交通杜絶の觀あり。



沿革 北州は舊蝦夷の地にて、豊臣氏の時蠣崎慶廣・松前氏を稱し、福山に

居りてこれを管す。明治二年全島を十箇國とし、千島諸島を合せて北海道と總稱し、開拓使廳を札幌に置きて管治せしめたり。後開拓使廳を廢し、更に北海道廳をおく、現時その下に十六支廳あり。

札幌區は道廳の所在地にて、又札幌支廳、札幌農學校、札幌神社あり。全道開拓の中心にて、麻、麥、酒、麥粉等の製造盛なり。旭川は上川高原に位し、第七師團司令部、上川支廳をおく。小樽區はもと鯊の一漁場に過ぎざりしが、札幌に通ずる道路鐵道開通して、その門口となり、現今人口約六萬あり。西岸唯一の開港場にて、本州各地及び樺太シベリアに定期航海あり。鯊、石炭、鐵道枕木等を輸出し、米、織物を輸入す。函館區は函館灣に臨み、人口七萬餘、控訴院、函館支廳並に商業學校、商船學校あり、夙に開港場の一にて、樺太シベリア地方に出漁するもの多く、鮭、鱒、昆布、鰯、鱈を輸出す。要塞の設

室蘭港の  
輸入品は砂  
金、銅、鐵  
等、に工  
具、靴、食  
料、等、に  
限らる。

あり。北東の五稜廓は函館奉行の築く所、維新最終の古戰場なり。今は製氷所として名高し。

室蘭は海陸運輸の便あり、開港場の一にて、石炭の輸出多し。根室は東岸第一の都會にて、漁業盛に、又函館、千島間航海の要路に當る。

## 五、樺太

**地勢氣候** 北州の北に當れる一大島にて、その北緯五十五度以南を我が領土とす。中部には本島を縦に貫ける樺太山脈ありて、その南端はノトロ半島に盡く。又その東に當りて、稍、南東に走れる一山脈あり、その南端をテルベニー半島と稱す。以上兩山脈の間は七郎灣に注げるポロナイ川流域の大平野とす。

沿岸は南端に東伏見灣あり。九春古丹その灣頭に位す。又その北には南東に向ひたる七郎灣あり。海豹島灣口の東に横はる。西岸は平直にて出入なく、南部に海馬島あり。東岸は寒流樺太海流南下し、冬季は氷塊を流して、北州沿海に至らしむ。西岸の氣候はシベリアの影響を受けて、寒威殊に強く、間宮海峽は十一月以後に至れば氷上人馬を走らすべし。對馬海峽の餘派を受くる南西岸は稍溫和なり。

**自然と産業** 南西岸の地方は良質の石炭に富み、内地には蝦夷松、榎松等密生して、馴鹿、熊等を産す。農業未だ開けず。水産を以て本島の大富源とす。鯨の漁獲は北州よりも多く、ポロナイ川の鮭、鱒は古來有名なり。海豹島は有名なる膾炙人口の繁殖場とす。

**人口都會** 毎年漁獵の爲め出稼する内地人數千人あれ

第二四圖  
問宮氏族  
行線

ども、定住するものは未だ多からず。土人はアイヌ族を主とすれども、その數二千に滿たず。人口稀にして、都邑の名あるは我が領土中九春古丹、ウラジミロフカ等に過ぎず。九春古丹は民政署の所在地にて、又漁業の中心地なり。されど港は水淺くして、汽船は沖にかゝり、北西風を防ぎ難し。**交通** 陸上にはコルサコフよりウラジミロフカに至るまで、輕便鐵道あり。近海は冬季氷結して、航通を絶ち、春季も流氷と霧とのため航海極めて危険なり。北州に海底電信線を通ず。

**沿革** 本島は徳川幕府の時既に視察探檢したる處にて、文化五年松田傳十郎は西岸を巡視し、問宮倫宗は東岸を巡視して七郎灣岸に至り、更に西岸に出でて、約北緯五十二度の地に達し、翌年海峽を渡りてシベリアに入り、



初めて樺太の離れ島なることを明かにしたり然るに嘉永三年露國は擅に全島を領地とし、使者を我が邦に派して、境界談判を求め、明治八年遂に全部彼の領となりしが、日露戦役の結果、北緯五十度以南を我に屬せしめたり。

### 六、甲信越地方

**地勢** 樺太・崑崙二大山系の會點にあたる甲信二國と日本海に面する越後及び海上の佐渡を含む。東には關東山脈・那須火山脈及び朝日山・飯豊山を戴ける越後山脈あり。西には御岳・乗鞍岳・蓮華山等の御岳火山脈を戴ける飛驒山脈聳ゆ。木曾赤石の二大山脈は南方に蟠り、富士火山脈の八岳・妙高山・焼山等その間に起り、交通の不便少なからず。越後七十里の沿岸は概ね砂丘高く、平直にて、一の良泊地なし。佐渡は南北二條の山脈ありて、平野を挟み、夷・眞野の二灣そ

の兩側に位す。

**氣候** 概ね關東よりも寒く、平均温度は甲府を最高とす。夏季は長野附近にて最高温に達し、冬季松本にて最低温に下る。信越二國は降雪殊に多く、吹雪のために街路を没し、交通を絶つこと稀ならず、諏訪湖は堅氷を結び、人馬その上を往來す。

**自然と産業** 甲信二國は海に瀕せず。火山岩の分布廣く、桑の栽培に適し、養蠶盛に、蠶絲の産額本邦第一に居る。牧馬亦盛なり。富士・天龍・木曾の三川は南流して、甲府平原・伊那谷・木曾谷を流れ、信濃川は信越二國を貫流して、千曲・犀の二支川の流域に佐久平・松本平あり、その會點に善光寺平、又下流に越後平野あり。流域の平地は二百六十方に達す。耕地は關東の半に過ぎざれども、機業一般に盛なり。

松本の極寒  
(一五、一)

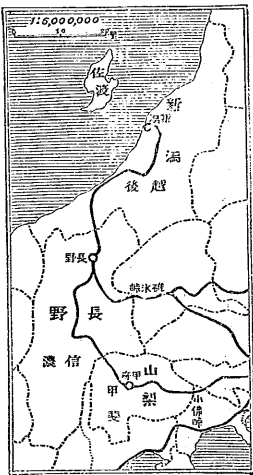
面積全國の  
百分七・四  
人口同七・二

中央東線は  
八王子甲府  
間に笹子最  
長の笹子隧  
道あり千五  
百尺にて十  
汽車に要す  
二分を要す

**人口・都會** 人口は略面積に相當す。都會は河川に沿ひたる平原に發達し、甲府・長野・新潟・長岡の四市を中心地として、人口一萬以上の町十四あり。大平野を有する越後は、その過半を占む。

**交通** 統一せる鐵道中心地なく、信越線は長野・長岡・新潟の三市を縫ひて、信越を連絡す。長野の南には鹽尻に達する篠井線あり。中央東線は鹽尻にてこれと會す。地勢の不便多きに比して、鐵道の敷設大に進歩し、富士・天龍等の水路は漸くその用を減じたり。道路は木曾川に沿へる木曾街道、佐久平・諏訪平を通ずる中仙道あり。妻籠峠・和田峠の峻あれども、夏季は人車を通ずるに足る。水運は長岡以下信濃川に汽船を通じ、新潟・夷は日本海航船の寄泊地たり。又佐渡・越後に海底電線を通ず。

第二五圖  
甲信越地方の區劃地圖



沿革府縣制 鎌倉幕府の時より甲斐に武田氏ありしが、戰國の頃武田信玄出で、越後の上杉謙信と連年兵を川中島に交たり、織田信長・武田氏を滅し、秀吉・上杉氏を會津に移す。徳川氏の時、信越は數多の小藩に分れ、甲斐・佐渡は幕府の直轄となれり、現今三縣に分治す。

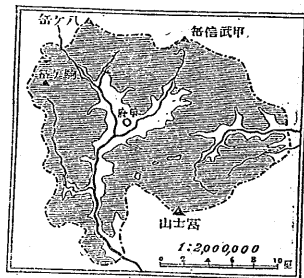
| 縣名 | 管轄區域  | 縣所在地 | その人口 |
|----|-------|------|------|
| 山梨 | 甲斐    | 山梨市  | 四、三  |
| 長野 | 信濃    | 長野市  | 三、六  |
| 新潟 | 越後・佐渡 | 新潟市  | 五、八  |

**山梨縣** 四面山に圍まれ、富士山の麓には風景の美なる山中湖・河口湖あり。富士川の上流笛吹川・釜無川の流域は肥沃の盆地をなせる甲府平原にて、武田氏の據りて威を振ひし自然の城廓なり。東部は郡内地方にて、武田氏の滅亡地なる天目山、及び笹子峠・御坂峠に隔てられ、産業・人情等自

人情風俗  
は歴史の  
感化に基  
くもの多

第二六圖  
甲府平原  
と郡内平原

ら異れり。甲府平原は米産多く、蠶業盛なり。勝沼附近は葡萄を栽培し、市川大門附近は紙の産多し。市川大門以下富士川には水運の利あり、鹹澤をその要所とす。郡内地方は甲斐絹の原産地にて、毎戸殆ど斯業を営まざるものなく、谷村町をその集散地とす。



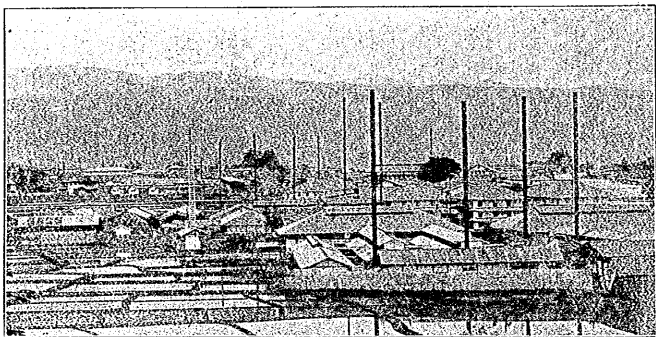
甲府市は縣内の中心市場にて、勸業製絲場を設けてより數個の製絲場起り、生絲の産多し。又北境に金峰山を控へて、水晶細工の名産あり。南境身延山中の久遠寺は日蓮宗の本山とす。

**長野縣** 本邦大縣の一にて、四方に山々重り、全部一大高原を成し中央の和田峠を界として、大河は南北に分流し、沿

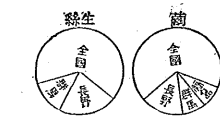
第二七圖  
諏訪湖畔  
の製絲工場

工業の類  
は土地の  
状況に選  
むより要

第二八圖  
繭生蠶額  
比較表  
繭生蠶額  
比較表  
繭生蠶額  
比較表



岸に狹長なる平野を有す。又和田峠の麓なる諏訪湖沿岸は諏訪平といふ。長野市を初め是等平野の中心市場として、松本・上田・飯田・上諏訪・伊那等の都會發達す。縣内水田乏しけれども、畑の多きこと關東諸縣に譲らず、蠶業盛にて、繭蠶卵紙の産多く、生絲は全國産額の二割餘を占む。殊に諏訪地方はその盛大なること、全國無比なり。



木曾山地は天然の大  
美林をなし、檜の良材あ

長野市は海抜六百九十米に位す

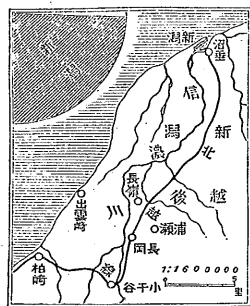
り二千餘の溪流を利用して木曾川を下し、約一年を費して、これを愛知縣下の熱田に出す。福島は林業の中心地にて、檜細工、漆器を出す。

長野市は縣治の中心にて、本州の主要都會中最高地に位すれども、交通の要所を占め、且つ善光寺あるを以て賑ふ。松本・上田は蠶業の中心地にて、繭蠶卵紙の集散多く、上田紬亦名あり。

### 新潟縣

縣境山深くして、三國峠・清水越・親不知・念珠關等の難路あり。海岸には彌彦山・米山あり。(一) 米山以南の長野縣に接する地方は上越後にて、その荒川流域に高田・直江津の都會あり。沿岸の平地は南北に延びて、降雪多し。(二) 阿賀川口より北は下越後にて、新發田をその名邑とす。飯豊山の西麓には八幡製鐵所に屬する赤谷鐵山あり。(三) 中部は中越後に

第二十九圖  
中都會及石油産地の新潟縣

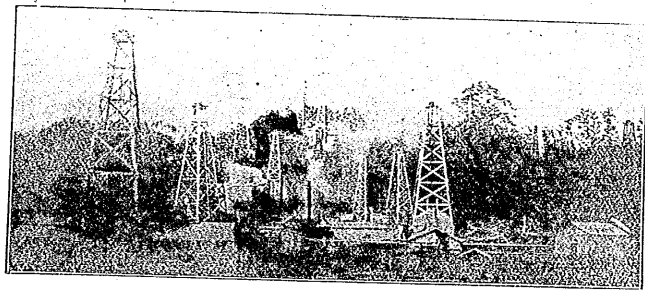


て、信濃川下流及び阿賀川の流域に亘れる越後平野を成し、水田最も多く、米産は巨額に上る。又石油の産多く、越後縮・透綾等の織物多し。新潟・長岡を初めとし、盛なる都會多く、縣内にて人口最も稠密なる地とす。(四) 佐渡は舊幕以來著名の産金地にて、相川町これがために榮ゆ。

北東岸の夷は良港なり。

新潟市は信濃川口の左岸に位し、沼垂に對す。開港場の一にて、越後米の積出地とす。されど川口に砂洲多く、冬季は風波荒し。佐渡の夷港は實に冬季の避難所なり。市内に鐵工場あり、石油鑿井器製油器を製出す。新發田は第十五旅團の設置以來、大に繁榮を増せり。五泉は絹織業の一中心地にて、

第三〇圖  
長嶺西谷  
礦油井



下越後の村上附近と共に、袴地の産出多し。北西の新津は石油の産殊に多し。三條は中越後の中心に位し、商賈多く百貨集散の地たり。長岡市は水陸運輸の便あり。附近の地油井多く、石油業最盛の地とす。又織物の中心市場にて、市況活氣あり。直江津は荒川口の一埠頭にて、大船は冲合にかゝれども、陸上鐵道の便を得て、越後・越中の貨物を集散す。寺泊は佐渡に渡る要津にて、海底電線亦その附近に起る。

### 七、東海地方

#### 地勢

箱根・足柄の連山より、西志摩半島に至る地方にて、本州中央高原を成せる美濃・飛驒を含み、鈴鹿山脈を以て近畿地方と界す。富士火山脈の貫ける伊豆は南に突出し、遠州灘を隔て、遙に志摩半島と相對し、更にその間に三大灣入を成す。即ち伊豆半島と御前崎との間は駿河灣、志摩・知多兩半島の間は伊勢海、知多・渥美兩半島の間は三河灣なり。地勢は南に傾き、富士・大井・天龍・木曾の諸川は皆本州中央の高地より發して南流す。平時水少く、積廣けれども、雨降れば濁流漲る。濃飛高原は東に飛驒山脈、西に白山火山脈を控へて、土地高く、南部の水は飛驒川となりて、木曾川に合し、北部の水は神通・射水兩川の上流となる。伊勢海の西岸一帯の地方を伊勢とす。北西に鈴鹿山脈ありて、四面海なき伊賀に續き、南には紀伊山脈連り、その間の諸川は東流して、伊勢

海に入る。

氣候は緯  
度の外土  
地の高低  
に由りて  
左右せら  
る

飛驒は寒氣  
強りて四月  
入る梅に  
桃李一時  
開く高山  
寒の青森  
度は低し  
りも

東海道線は  
この二驛よ  
り以東に木  
材専用貨車  
を運轉す

氣候　海岸地方は關東よりも暖く、石廊崎附近を最高温地とし、飛驒中部の高山タカヤマを最寒地とす。駿河灣・三河灣・伊勢海附近は温度の變化極めて少く、所々に海水浴場あり。伊勢海岸の夕風は著しき現象とす。降雪は高山は八十日、名古屋は二十日に及ぶも、石廊崎附近は僅に二日に過ぎず。富士山頂の積雪は夏季概ね消失す。

**自然と産業** 濃飛高原は山深く、低地少く、林業、礦業盛にして、木材の搬出には冬季の積雪を利用す。沿海諸縣の山地は南東風を受けて、樹木繁茂し、山林に富む。伊豆は古來船材に名高く、富士山腹の木材は製紙に利用せられ、天龍川大井川上流の木材は東海道天龍川驛、島田驛に集中す。耕地は各縣よく開けて、何れも米産百萬石以上に達す。殊に木曾

川沿岸を最とす。水産は海底の屈曲多き半島、波靜かなる内海を有する靜岡・三重の二縣に盛なり。機業は一般に行はるれども、木綿を主とするを以て金額多からず。

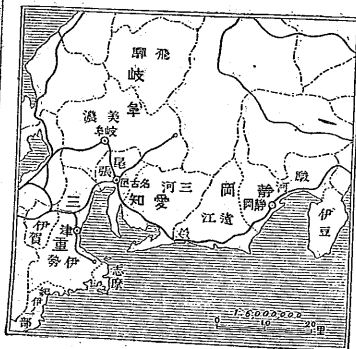
**人口都會** 人口は關東近畿に次ぎて、稠密なる地方にて都會は沿海附近に發達し、名古屋・靜岡を中心市場とし、又岐阜・津・四日市の三市あり。人口一萬以上の町は十八ありて、關東に次ぐ。人情風俗等は名古屋市を界線とし、その以東は概ね東京に類し、以西は専ら西部中心の影響を受く。

**交通** 南部を横に走れる東海道線を幹線とし、東部には南走して伊豆に入る豆相線、中部には北東に向へる豊川鐵道及び南に向へる武豊線これに連絡す。中央西線及び關西鐵道本線は名古屋に起る。又東海道線、關西鐵道本線を連絡する尾西鐵道、津より山田に入る參宮鐵道あり。古來關

東近畿の連絡地なるを以て、道路亦發達し、いはゆる東海道五十三驛は概ねこの域内にあり。大井川は維新前蓮臺渡を以て著はれ、富士川、天龍川は甲、信への通路を成す。美濃は中仙道の通路にあたり、飛驒は最も交通に不便なり。知多半島より、伊勢に海底電線を通ず。

沿革府縣制

この地方は戦国時代に、諸豪傑の崛起したる地にて、戦田も

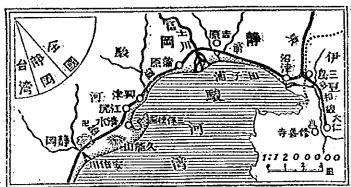


は尾張より出で、その薨するや、豊臣秀吉その遺緒をつぎて、遂に天下を一統す。徳川家康は三河に起り、關原の役後は天下の權を握り、晩年駿府(靜岡)に退隱せり。維新前名古屋、津等の諸藩あり。今四縣に分治す。

|        |      |             |      |     |    |
|--------|------|-------------|------|-----|----|
| 縣名     | 當轄區域 | 靜岡          | 愛知   | 三重  | 岐阜 |
| 駿河遠江伊豆 | 尾張三河 | 伊賀志摩伊勢紀伊の一部 | 美濃飛騨 |     |    |
| 廳所在地   | 靜岡市  | 名古屋市        | 津市   | 岐阜市 |    |
| その人口   | 四、六  | 二八、四        | 三、五  | 三、九 |    |

靜岡縣

静岡縣 一、東部には富士山・天城山等の火山ありて、火山岩の分布廣く、伊豆の海岸は所々に石材を産す。間歇泉に名高き熱海、源頼家幽屏の地たる修善寺は温泉を以て著はる。二、安倍川・大井川・天龍川沿岸の臺地は開拓せられて、茶園となれる所多く、煎茶の産府縣第一に居る。楮・三桮の栽培亦盛なり。天龍川下流及び風光の美なる濱名湖沿岸は、水田開け米・藷を産す。山地は船材及び製紙原料木屑を出し、富士山麓の大宮、伊豆の函南には農林學校あり。三、海岸は駿河灣頭に著名の勝地多し、海上には漁利多く、鯉節は茶と共に縣下の二大物産にて、静岡・濱松を中心市場とす。静岡市は駿府城の在りし所、賤機山を貢ひ、久能山・安倍川を控へ、要勝の地なり。



り。漆器・竹細工を産し、製茶・半紙の取引多し。市外に臨濟寺あり。久能山は初め徳川家康を葬りし地とす。清水港は開港場にて、前面には三保松原斗出し、風波穏かなり。大宮は富士登山の表口にあたる。附近の地木屑の産多く、盛に洋紙を製す。濱松は茶・蘭筵の製造取引盛なり。

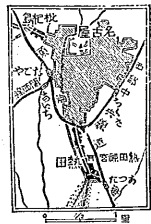
愛知縣 尾張の大部は地味最も肥えたる濃尾平野にて、良米の産多く、名古屋市を中心として、鐵道四方に通じ、熱田一宮・津島・瀬戸等の活氣ある都會あり。三河は豊川・矢作川の沿岸に平地廣く、豊橋・岡崎を繁盛の地とす。北部は丘陵連りて、花崗岩の分布廣し、尾張北東部の瀬戸は良質の陶土を産す。沿海の地は知多・渥美兩半島の丘陵斗出し、水産豊かなり。知多半島には清酒に名ある半田・龜崎開港場・武豊、土管の産ある常滑等著名の産業地あり。縣内紡績・機織・摺附

第三三圖  
名古屋  
市と熱田

第三四圖  
瀬戸  
陶器窯



木・麥稗眞田の工業盛に、陶器は年額二百萬圓以上に達す。名古屋市は東海道・中仙道の要路にあたり、

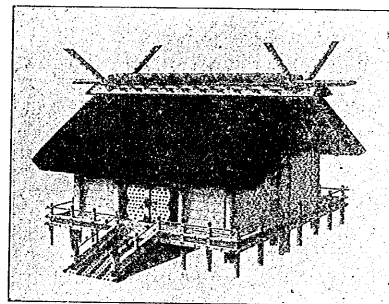


三府との連絡最も密に、熱田港を控へて、水陸交通の便あり。綿絲・絹綿・交織・七寶焼を産し、商工業盛なり。城址に第三師團司令部をおく、金鯢を以てその名高き牙城は、現今離宮となれり。又控訴院・高等工業學校・醫學校あり。熱田は神宮あるを以て宮と通稱す。四日市に汽船の便あり。南東の有松は絞染を産す。瀬戸は

本邦主要の窯業地にて、輸出向製品を出す。陶器學校あり。  
岡崎は徳川氏創業の地にて、味噌の名産あり。豊橋市には  
第十七旅團司令部をおく。

### 三重縣

鈴鹿・雲出・櫛田・宮の諸川、鈴鹿・紀伊の兩山脈間に  
發して、伊勢海に注ぐ。諸川の下流及び沿海の平地は濃尾平



第三五圖  
内宮正殿

原に續きて、良米を産し、津・四日市・宇治  
山田の三市及び松坂・桑名等の都會あ  
り。紀伊山脈は木曾に次ぐ良材を出  
し、伊賀は薪炭を出す。その中部に上野  
あり。志摩半島の人民は多く漁業に  
従事す。英虞灣には有望なる眞珠養殖  
場あり。縣下水産に富むこと、千葉縣  
に比敵す。

第三六圖  
内宮の境

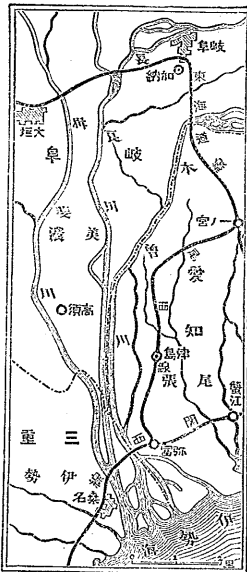
津市は古の安濃津にて、河漕浦に臨める商業地な  
り。宇治山田市は内宮・外宮の在る所にて、參宮の旅  
客四時絶えず。近傍に二見浦・朝熊山等の勝地あり。  
朝熊山東の鳥羽港は外洋の波を避くるに適し、熱  
田・大阪に定期航海あり。四日市市は横濱・神戸間  
第一の良港にて、開港場の一なり。萬古焼を産し、洋  
紙・紡績絲・綿布の工場あり。米穀の輸出、棉の輸入多  
し。

### 岐阜縣

美濃の北部と飛驒は土地高く、森林に  
富む。神通川の上流、高原川附近の神岡・礪波は銀銅  
鉛を産す。交通不便にて、住民質朴、多くは林業・礦業・  
蠶業に従事す。高山は春慶塗・一位細工の産あり。  
南部は木曾・長良・揖斐の三川、これを灌漑し、地味



第三  
木曾川  
流二大  
圖川分  
分外

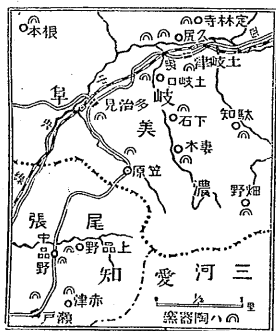


多治見  
業法製  
は製陶  
業は行  
これに  
なるは

平野にあり。東部は瀬戸附近に亘れる花崗岩地にて、陶土に富み、多治見を中心として、製陶業盛なり。主として内國向廉價の製品を出す。

岐阜市は鵜飼を以て名高き長良川に臨み、繭・生絲紙の取引多く、又縮緬・提燈等の産あり。大垣は揖斐川に

第三  
八圖  
業流  
地尾  
窯



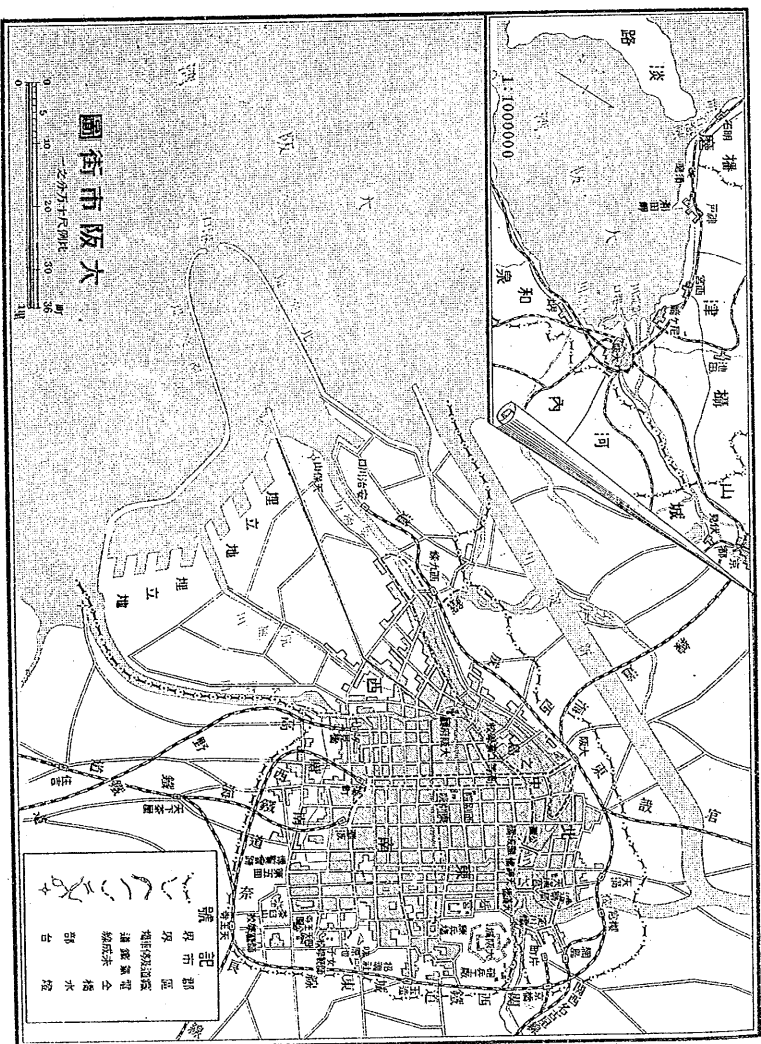
沿ひ、屢々水災を蒙れり。その大垣城は慶長五年關原役の初め、石田三成の本營を置きし所、徳川家康の陣したる赤坂はその北西にあり、良質の大理石を産す。關原その西にあたり。

## 西部日本

西部日本は大阪京都を中心とし、近畿・中國・四國・九州・臺灣等の各地方に分れ、その間に又日本内海を包み北部日本に比すれば交通更に便なり。

### 一、西部中心地

**大阪** 本州西部の大都にて、畿内平野の南部に位し、淀川の三角洲に跨り、大阪灣に臨み、地勢概ね低平、人口九十九萬あり。市街は四區に分れ溝渠縱横に通じ、運漕最も便なり。この地はもと仁徳天皇の都し給ひし浪速津にて、中頃豊臣氏の築城以來繁榮日に増し、今は帝國第一の商工業地となり、港には帆檣林の如く、市街には煤烟雲の如し。大阪城は



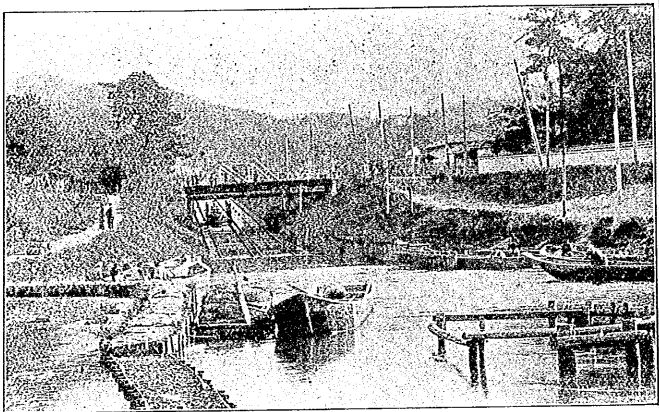
今牙城の壘壁を存し、その中に第四師團司令部をおく。又控訴院・大阪高等工業學校あり。<sup>(4)</sup>工業地としては砲兵工廠造幣局を初めとし、十餘個所の紡績工場あり。全國綿絲總産額の約三分一を出す。又造船摺付木・砂糖・メリヤス・フラネル等の製造場多く、銀行・會社の數六百餘に及ぶ。<sup>(5)</sup>交通は東京と共に鐵道系の二大中心地をなし、東海道線は神戸・京都を連絡して、東京に通ずる幹線となり、市の北部に大阪驛をおく。關西鐵道は名古屋を起點とし、奈良・天王寺を経て、本市の南部湊町に至り、更にその支線・櫻宮線は市の北部に達し、城東線は市の東を廻りて大阪驛と天王寺驛とを連絡す。その他大阪驛より安治川口に向ふ西成線、難波より堺を経て和歌山に至る南海鐵道線、汐見橋に起る高野鐵道線、市の西<sup>シ</sup>神<sup>ゴ</sup>崎<sup>キ</sup>にて東海道線に連絡し、福知山に達する阪鶴鐵道線あり。

電車は市の一部に、電話は東京・廣嶋・長崎等に通ず。海運は大築港の經營略成りて、船舶出入の便愈加はり、大阪商船株式會社・大家合資會社はこの地をその主要航路の起點とし、關西地方北海道・日本海諸港・臺灣等に定期航路あり。商業は以上交通區域の貨物を集散するのみならず、全國殊に西部地方の商業中心となり、清・韓との貿易は神戸市を介して盛に行はる。

京都 畿内平野の北部に位し、北・東西の三面は丘陵にて限られ、南東は東海道に逢阪山、南西には八幡山崎の關門を控へ、帝國第三の都會にて人口三十八萬あり。市街は二區に分れ、街衢は端整なり。この地は桓武天皇奠都以後、千有餘年の帝都たりし所にて、京都御所・二條離宮を初め、史上に由緒ある社寺舊蹟多く、佛教各宗の本山多くここに集り、且つ

平安宮  
東本願寺  
西本願寺  
知恩院  
三十三間堂  
清水寺  
金閣寺

第三園  
疏水  
イイ  
ン

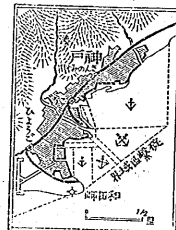


山水の秀麗なるを以てその名高く、内外の旅客四時跡を絶たず。美術工藝は市の生命とも云ふべく、妙技全國に冠絶し、西陣織・鴨川染・京焼・蒔繪等精巧を以て鳴る。又京都帝國大學・第三高等學校・高等工藝學校を置かれ、關西學術の中心地となれり。交通は東海道鐵道線市の南端七條を過ぎ、南は關西鐵道奈良線にて奈良に達し、北西は京都鐵道丹波の園部に達す。市内には電車あり、加茂川の一派

高瀬川は市に水運の便を供す。又琵琶湖畔の大津市より東山を経て、加茂川東岸に至り、更に伏見に達する疏水運河ありて、淀川と連絡し、且つその水力を利用して、市内各種の工場に電力を供給し、大に市の面目を一新したり。

**神戸** 大阪の西汽車一時間程に位し、地勢は山を負ひ海に臨み、東海道山陽二大鐵道線の連絡點に當る。人口二十八萬あり。港内風波穩かにて、京阪の輸出入を成し、商業上の關係大阪と密着し、貿易の盛なること横濱と比敵す。

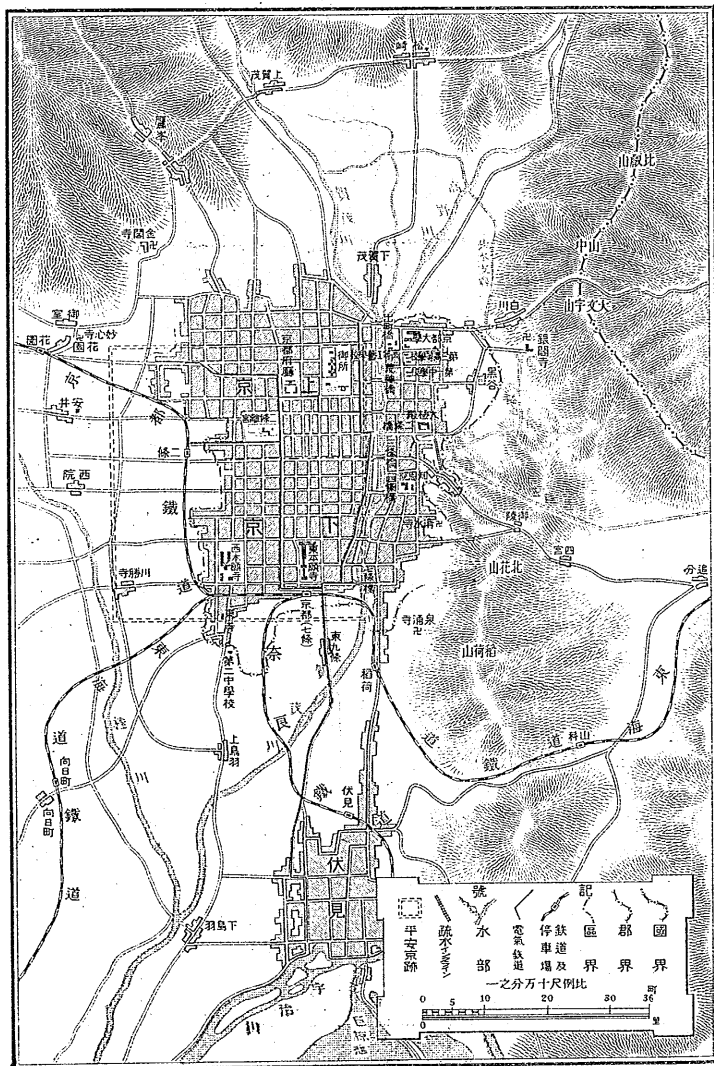
第四〇圖  
神戸



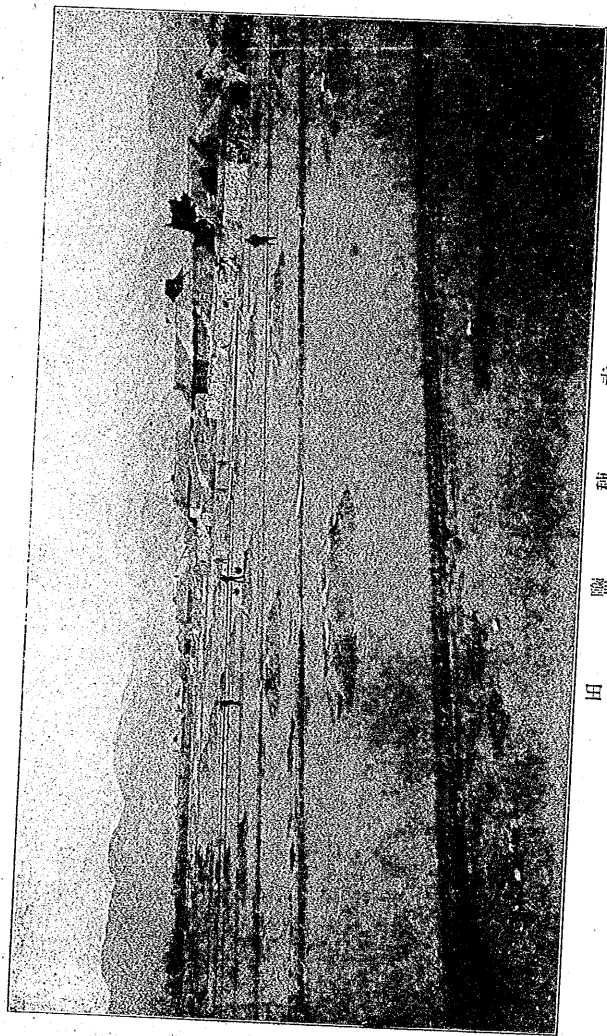
## 二、近畿地方

**地勢** 琵琶湖及び淀川の流域に屬する一帯の地方、中國の一部、及び紀伊半島淡路島を包括す。東は鈴鹿・伊吹兩山

京都市街圖



田 鹽 穂 赤



## 氣候

| 平均溫度  | 雨量    | 雪量  |
|-------|-------|-----|
| 10.5  | 100.0 | 0.0 |
| 11.5  | 100.0 | 0.0 |
| 12.5  | 100.0 | 0.0 |
| 13.5  | 100.0 | 0.0 |
| 14.5  | 100.0 | 0.0 |
| 15.5  | 100.0 | 0.0 |
| 16.5  | 100.0 | 0.0 |
| 17.5  | 100.0 | 0.0 |
| 18.5  | 100.0 | 0.0 |
| 19.5  | 100.0 | 0.0 |
| 20.5  | 100.0 | 0.0 |
| 21.5  | 100.0 | 0.0 |
| 22.5  | 100.0 | 0.0 |
| 23.5  | 100.0 | 0.0 |
| 24.5  | 100.0 | 0.0 |
| 25.5  | 100.0 | 0.0 |
| 26.5  | 100.0 | 0.0 |
| 27.5  | 100.0 | 0.0 |
| 28.5  | 100.0 | 0.0 |
| 29.5  | 100.0 | 0.0 |
| 30.5  | 100.0 | 0.0 |
| 31.5  | 100.0 | 0.0 |
| 32.5  | 100.0 | 0.0 |
| 33.5  | 100.0 | 0.0 |
| 34.5  | 100.0 | 0.0 |
| 35.5  | 100.0 | 0.0 |
| 36.5  | 100.0 | 0.0 |
| 37.5  | 100.0 | 0.0 |
| 38.5  | 100.0 | 0.0 |
| 39.5  | 100.0 | 0.0 |
| 40.5  | 100.0 | 0.0 |
| 41.5  | 100.0 | 0.0 |
| 42.5  | 100.0 | 0.0 |
| 43.5  | 100.0 | 0.0 |
| 44.5  | 100.0 | 0.0 |
| 45.5  | 100.0 | 0.0 |
| 46.5  | 100.0 | 0.0 |
| 47.5  | 100.0 | 0.0 |
| 48.5  | 100.0 | 0.0 |
| 49.5  | 100.0 | 0.0 |
| 50.5  | 100.0 | 0.0 |
| 51.5  | 100.0 | 0.0 |
| 52.5  | 100.0 | 0.0 |
| 53.5  | 100.0 | 0.0 |
| 54.5  | 100.0 | 0.0 |
| 55.5  | 100.0 | 0.0 |
| 56.5  | 100.0 | 0.0 |
| 57.5  | 100.0 | 0.0 |
| 58.5  | 100.0 | 0.0 |
| 59.5  | 100.0 | 0.0 |
| 60.5  | 100.0 | 0.0 |
| 61.5  | 100.0 | 0.0 |
| 62.5  | 100.0 | 0.0 |
| 63.5  | 100.0 | 0.0 |
| 64.5  | 100.0 | 0.0 |
| 65.5  | 100.0 | 0.0 |
| 66.5  | 100.0 | 0.0 |
| 67.5  | 100.0 | 0.0 |
| 68.5  | 100.0 | 0.0 |
| 69.5  | 100.0 | 0.0 |
| 70.5  | 100.0 | 0.0 |
| 71.5  | 100.0 | 0.0 |
| 72.5  | 100.0 | 0.0 |
| 73.5  | 100.0 | 0.0 |
| 74.5  | 100.0 | 0.0 |
| 75.5  | 100.0 | 0.0 |
| 76.5  | 100.0 | 0.0 |
| 77.5  | 100.0 | 0.0 |
| 78.5  | 100.0 | 0.0 |
| 79.5  | 100.0 | 0.0 |
| 80.5  | 100.0 | 0.0 |
| 81.5  | 100.0 | 0.0 |
| 82.5  | 100.0 | 0.0 |
| 83.5  | 100.0 | 0.0 |
| 84.5  | 100.0 | 0.0 |
| 85.5  | 100.0 | 0.0 |
| 86.5  | 100.0 | 0.0 |
| 87.5  | 100.0 | 0.0 |
| 88.5  | 100.0 | 0.0 |
| 89.5  | 100.0 | 0.0 |
| 90.5  | 100.0 | 0.0 |
| 91.5  | 100.0 | 0.0 |
| 92.5  | 100.0 | 0.0 |
| 93.5  | 100.0 | 0.0 |
| 94.5  | 100.0 | 0.0 |
| 95.5  | 100.0 | 0.0 |
| 96.5  | 100.0 | 0.0 |
| 97.5  | 100.0 | 0.0 |
| 98.5  | 100.0 | 0.0 |
| 99.5  | 100.0 | 0.0 |
| 100.5 | 100.0 | 0.0 |

潮岬 一七、〇  
潮岬 二五三八耗  
潮岬 〇〃

彦根 一三四  
神戸 一二九七  
京都 三四

彦根 一三四  
神戸 一二九七  
京都 二四

本邦紡績  
の過半は  
この地方  
の工業に  
出づる  
甚だ盛なり

### 自然と産業

面積との比較上田地多く、米産は關東に次ぎ、滋賀・大阪・兵庫は各百萬石以上の收穫あり。畑は少けれども、二毛作の行はるる水田あるを以て、産額割合に多く、琵琶湖沿岸並に大阪平野には藁ワラの産多し、繭シルクの産亦少からず。牧牛は主として北西部に行はる。林業は南部半島地方に盛に、漁業は淡路島を含める兵庫縣を最とす。工業は中部の平原地に發達して、工場用石炭の消費額、關東の約二倍に當る。大阪は本邦工業の大中心地にて、紡績その他の新工業を興して、その製品を清・韓・南洋諸國に、京都は特有の美術工藝品を内地及び歐米諸國に輸出す。

### 人口・都會

人口密度は關東に及ばずと雖、京阪二大都を

| 面積    | 人口      | 田   | 畑    | 米産   | 麥産   | 繭     | 牧畜     | 絲    | 機織   | 工場用石炭 |
|-------|---------|-----|------|------|------|-------|--------|------|------|-------|
| 近畿六三  | 一一、二〇、八 | 三八  | 一一、九 | 一〇、三 | 六、七  | 牛一二、七 | 紡績五三、三 | 二二、六 | 二八、五 |       |
| 關東七、六 | 一一、五    | 一九〇 | 一三、八 | 二九、四 | 二七、九 | 馬一五、一 | 蠶絲二六、六 | 一九、〇 | 一五、七 |       |

人口密度  
三七四五

含むを以て、全國の一割二分を占む。その他大津・奈良・和歌山・堺・神戸・姫路の諸市あり、鐵道の便を有し、附近に小都會發達す。

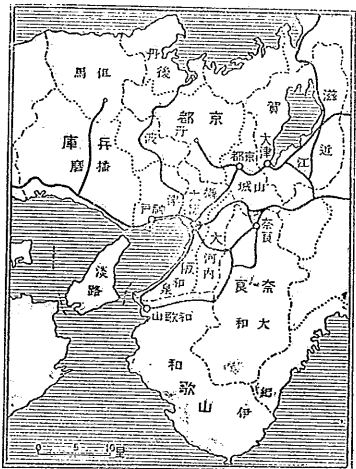
### 交通

鐵道の發達は關東に譲らず、大阪をその大中心とし、京阪二大市附近の諸線の外、東海道線・彦根驛に起りて關西鐵道本線に連絡する近江鐵道線・高野鐵道と關西鐵道本線とを連絡する河南鐵道線・兵庫縣の中部を南北に通ずる播但線あり。水運は大阪・神戸を起點とする諸航路の外、紀伊は大阪・熱田間の沿海航路により、近江は琵琶湖上汽船の航路によりて、運輸の便あり。淀川も亦その一部に汽船を通ず。淡路島は海底電線にて、和歌山・兵庫の二縣及び四國に連絡す。電話は東西各地に通じて、最も便を極む。

### 沿革府縣制

神武天皇都を橿原カシハラに定めたまひてより、大和は十數代帝都

第四一圖  
近畿地方  
の區劃



府縣名  
大阪  
京都  
滋賀  
奈良  
和歌山  
兵庫

管轄區域  
河内和泉攝津の一部  
山城丹波及丹波の一部  
近江  
大和  
紀伊の一部  
播磨但馬淡路及丹波の一部

廳所在地  
大阪市  
京都市  
津市  
奈良市  
和歌山市  
神戸市  
その他人口  
九八、八  
三七、九  
三、八  
三、三  
六、八  
二八、三

の地となり、河内攝津近江亦時に都をおかる。和銅中元明天皇平城に都し、八十餘年にて桓武天皇平安京の奠都ありて、明治に及べり。南北朝の時、吉野は南朝三世の帝都となれり。秀吉の海内を一統するや、大阪に城きてこれに居り、又伏見に城きて京を守れり。徳川氏に至り

川の山上を流  
削りて運搬  
の山を土に  
掘りて土を  
新層を作る

人口密度  
一平方  
キロメートル

京に所司代大阪に城代をおき、和歌山に親藩を封せり。その他彦根郡山崎路等の諸藩あり。維新の後、大阪を府となし、現今二府四縣に分つ。

**大阪府** 南東境には葛城山脈ありて、史上に名高き生駒山・金剛山を起す。その他の大部は淀川・大和川の下流域を占め、地味肥え、米・綿・蠶・葦の産多く、西境池田附近は木炭を出す。淀川は土砂を流して、川口に新地層の成生著しく、大阪築港以來本流の改修中にあり。その一派安治川は他の一派木津川と共に、船の出入多く、川口の日保山には燈臺あり。府下は新工業最盛の地にて、工場用石炭の消費高遙に東京府の上にあり。又村落には寒天の製造盛なり。人口密度は東京に次ぎ、大阪堺の二市あり。堺市は曾て大内氏の明國と通商せし所とす。清酒・段通・双物の産あり。市の東に仁徳天皇の御陵あり。

織物價格  
五三萬圓

第四二圖  
舞鶴港

京都府 山城盆地は淀川の上流宇治川及び加茂・桂・木津三支川の流域にて、比叡・鞍馬・愛宕・笠置の諸山に擁せられ、南西僅に大阪平野に連接す。丹波・丹後は北に延びて、丹後半島・與謝灣の出入あり。山地多く、材木・薪炭を出す。又養蠶盛に、福知山の名邑あり。與謝灣には天橋立の勝地、開港場・宮津港及び舞鶴軍港あり。府下は織物・陶器・茶の産額多く、京都の西陣・織峰山の縮緬等その名高く、織物の産額は府縣第一とす。伏見は豐太閤築城の地、京都南面の要地にて、第十九旅團司令部の設あり。山崎は豐臣秀吉の光秀を敗りし所とす。笠置山に後醍醐天皇行宮の遺址あり。宇治川畔の宇治は茶所としてその名高く、伏見と共に京都南面の要地にて、平等院・鳳凰堂等の古蹟あり。



第四三圖  
砂防工事  
を施した  
る禿山

山林は川なき  
山は水量を調  
整せず植樹  
豫防は洪水に  
要なり



滋賀縣 琵琶湖四周の地にて、四面山を繞らし、形勢山梨縣に似たり。野洲川・愛知川等は周圍の山地に發して湖に入る。山地は禿山多きを以て、屢洪水あり、土砂を流し、河床は附近の平野より高きものあり。かくて次第に湖を埋めて、低地を作り、湖の末流勢多川の谷は次第に深を加ふ。近畿東面の要地にて、國境附近には東海道に逢阪山・鈴鹿峠、中仙道に不破・北陸街道に愛媛の關址あり。古來戰場となれること多く、西境の比叡山、北境の姉川・賤岳等殊に著はる。縣内東部の平野は地肥え、近江米の名高く、又萱・葦麻の産多し。湖水は鮒最も名高し。都

會は多く南東部にあり、民俗商業を尙び、日野・八幡の地方は盛に行商人を出す。附近の地蚊帳の産あり。

大津市は湖の南西角にあり、東海道線の支線を有し、又疏水運河の口に當る、水陸交通の要所とす。附近に三井寺、石山等の勝地あり。彦根は井伊氏の舊城下にて、湖東第一の繁盛地とす。長濱は縮緬機業の中心地なり。

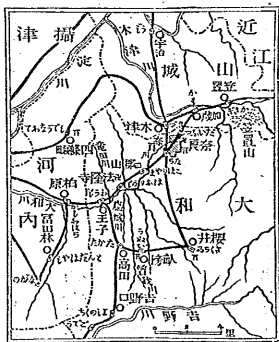
桓  
原  
山  
御  
宮  
吉  
野  
山  
神  
社  
法  
隆  
寺  
談  
山  
神  
社  
春  
日  
寺  
與  
福  
寺

**奈良縣** 南部の吉野地方は紀伊山脈連り、造林業大に發達して、杉の良材を産し、西流する吉野川、南流する北山川、十津川を輸送の通路とす。十津川沿岸にはアンチモニ一の産あり。又北部には笠置山脈ありて、平地は大和川流域にあるのみ。用水は多く池水を用ふ。古來夙に開けて七代の帝都たりし奈良、及び郡山あり。平安京以前歴代の帝都亦概ね縣内にあり。由緒ある社寺に富み、大和巡りと稱して來り遊

第  
四  
四  
圖  
大  
和  
名  
所

ぶ者多し。

奈良市は「古の奈良の都にて、大佛殿・正倉院等、後世美術工藝の模範たるもの多し。又奈良帝室博物館あり。晒木綿奈良漬根來塗を名産とす。吉野には後醍醐天皇を祀れる吉野宮、及びその御陵あり。山中の櫻花は一目千本の勝あり。吉野飛白を名産とす。



**和歌山縣** 本州最南の大半島にて、全部山に掩はれ、嶮崖直に海に迫りて、河流の沿岸僅に平野を存す。常に黒潮の暖風を受けて、樹木の生育に適し、高野山・熊野地方等到處に富み、林業發達す。紀伊川・熊野川は木材輸送の通路にて、川口の和歌山・新宮にてこれを集散す。有田川・日高川沿岸地

は蜜柑を名産とす。海岸は屈曲に富み、漁利少からず。潮岬附近は潮流急にして、航海者の警むる所、その東側大島には安全の錨地あり。縣下漆器の産多く、府縣第一に居り、夙に紀州塗の名を博す。和歌山市の南黒江をその中心とす。和歌山市は徳川氏親藩の地にて、水陸運輸の便あり、綿フラネルの原産地にて、その盛造盛に、木材の取引多し。南西海濱には風光明媚なる和歌浦あり。根來塗の原産地なる根來、及び粉川寺は市の北東に當る。高野山は弘法大師開基の金剛峰寺並に多くの僧坊あり、山頂一小都會を成す。新宮は本縣竝に三重奈良三縣の木材集中地とす。熊野神社あり、附近の本宮竝に那智山と共に熊野三社と稱せらる。那智山腹の那智瀧は熊野浦より望み得べし。

**兵庫縣** 播磨平野は米産に富み、縣下の産額は府縣第二

縣下の米産  
二百萬石

第四五圖  
酒造高  
全國  
兵庫  
三



に位す。平野の中央に姫路市あり。醬油醸造に名高き龍野の西に位す。市、川の上流生野には名高き銀山あり、銀・銅を産す。但馬は牧牛盛に、朝來川流域は柳行李を出す。豊岡その中心地たり。下流の城崎は温泉を以て著はる。内海沿岸は水産多く、製鹽に適し、西部の赤穂最も著はる。又東部は氣候溫和風景絶佳にして、舞子・明石等の播磨名所あり。山間の有馬は温泉を以て著はる。神戸の北東西宮附近は水質酒造に適し、灘五郷及び伊丹の名全國に鳴る。綿絲紡績、摺付木、革類の製造亦盛なり。姫路市は飾磨港を控へ、交通の要路に當り、革細工・染物を産す。その城に第十師團司令部あり。淡路島は全島山勝ちなれども、嶮しからず。地肥え、水産に富み、山頭海邊皆居を卜するに足る。人口稠密なり。特産淡路焼

あり。東端の由良は大阪灣口の防禦地點にて、要塞の設あり。

### 三、北陸地方

#### 地勢

本州中部より日本海に傾ける地方にて、西に中國山脈の一部を受け、東より南は飛驒山脈濃飛高原に接し、立山・白山等の火山その中に聳え、自ら一區域を成す。加賀越中の界は寶達山脈連りて、山中に倶利伽羅峠あり。九頭龍手取・射水・神通・黒部の諸川は概ね北流し、流域の平地廣く、射水・神通二川に亘れる越中平野最も大なり。沿岸は能登半島の大突出ありて、東に富山灣を擁す。又西部に若狹灣あり。能登半島は嶮崖多く、沿海暗礁ありて、航海安からず。珠洲岬の北支線剛岬に燈臺をおく。その他は概ね砂濱にて、川口淺く、水深屢變更するものあり。加賀の沿岸

には河北潟・柴山潟等の海岸湖多し。外國貿易の門口には敦賀・七尾・伏木の三港あり。

金澤の雨雪  
量、平均  
雨雪日三三

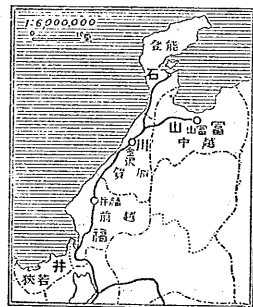
**氣候** 溫度は信越地方に比すべく、福井を最暖とし、能登の北端を最寒とす。冬季北西風強く、日本海の水蒸氣を送りて、深雪を降らす。雪融けの候、諸川何れも出水するを常とす。金澤の雨雪量は本邦第一に上る。

**自然と産業** 若狹越中は南部に火山岩の分布廣く、耕地は比較的に多からず。米産百萬石以上に及ぶは富山縣のみとす。従て工業を主とする地方多し。就中福井縣下の機業最も見るべし。

**人口・都會** 人口は信越・奥羽に比すれば遙に密なり。殊に富山縣を然りとす。都會は沿海河流に沿ひて發達し、金澤以下福井・富山・高岡の三市あり。人情風俗等は多く西部中心

地の影響を受く。

**交通** 沿海平地に北陸街道を通じ、北陸線鐵道は柳瀬隧  
道を経て、本地方に入り、ほぼ國道に沿ひて、富山に達す。又こ  
れに連絡する七尾鐵道・中越鐵道の二線あり。沿海諸港は  
大家合資會社の日本海線航路に當り、敦賀・七尾はウラヂボ  
ストク直航の便あり。



に奉じて、足利尊氏の族高經と争ひ、義貞難に殉ず。尊氏乃ち高經を越前に封じ、その子義將・斯波氏を稱す。朝倉氏その下より起りて、越前の守護となりし

| 縣名 | 管轄區域  | 廳所在地 | その人口 |
|----|-------|------|------|
| 福井 | 若狹・越前 | 福井市  | 四、九  |
| 石川 | 加賀・能登 | 金澤市  | 九、七  |
| 富山 | 越中    | 富山市  | 五、六  |

**沿革・府縣制** 古來京畿を控制する一要區として、鎌倉幕府以來武將の重要視する所たり。

が、織田氏のために滅されたり。關原役後家康は結城秀康を越前に封じて、北陸を扼せしめ、前田利家の子利長に加賀・能登・越中を領せしむ。今三縣に分治す。

織物價額  
一、五五英

第四七圖  
羽二重産

額

全國  
福井  
石川  
福島  
三  
五  
六  
元  
六  
四

**福井縣** 南部は山地多く、九頭龍川本支派の域を主要の

産米地とす。縣内機業大に發達し、福井市・武生を中心地と

して、盛に羽二重を織る。織物の産額京都府に次

げり。越前の南部には立石岬突出して、内に敦

賀開港場あり。若狹は海岸屈曲多く、小濱・青戸

の二灣を擁す。水産の利あり。

福井市は三國港を控へて、漕運の便あり。夙に紬織を産し、明

治二十年以來羽二重業起れり。市内に新田義貞を祀れる藤

島神社、市の東に曹洞宗の本山永平寺あり。敦賀は本州中

部の最狹部に位し、北國無二の良港にて、開港場の一とす。東



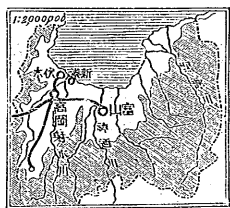
に接する金崎より波止場の設あり。町に第十八旅團司令部をおく。金崎に金崎宮あり、尊良親王を祀る。

**石川縣** 狹長なる地方にて、南東部及び能登半島は山多く、平野は潟に富める西海岸の一部、竝に七尾灣南岸地方にあるのみ。灣頭に七尾あり。都會は金澤市を主とす。又北海岸に輪島、南に小松・大聖寺あり。金澤以下何れも工業地として榮ゆ。山地は漆液の産多く、漆器の産額は府縣の二三位にあり。陶磁器の産亦少からず。能登沿海の製鹽は日本海岸第一位に居る。

金澤市は前田氏の舊城地にて、九谷燒・象眼細工・絹布の産あり。近時工業の盛行と共に市況を恢復し、又第九師團司令部・第四高等學校・醫學專門學校あり。おのづから北陸地方の中心たり。有名なる兼六公園あり。大聖寺には九谷陶器會社

あり。七尾は南灣を開港場とし、縣下の工産物、及び富山縣の農産物を輸出す。北西に和倉温泉あり。輪島は堅牢なる漆器を産す。

### 富山縣



黒部川は水勢急にして、下流は砂洲のために扇狀に分派し、黒部四十八瀨の稱あり。神通射水兩川の下流沿岸は、礪波・富山の二平野あり。地味肥え、米産の多きこと北陸諸縣に冠たり。富山・高岡の二市あり。沿海・鮭・鱒の利多し。魚津・滑川・新湊・氷見等の都會あり。

富山市は神通川下流に跨る。古來製藥業盛にして、その販路は全國に普及し、今は清・韓地方にも及ぶ。高岡市は礪波平野の中心市場にて、その西に史上に名高き倶利伽羅峠を控へ、要勝の地たり。機業盛に、又銅鐵器・漆器を産す。中越鐵道の

第四八圖  
富山縣  
平野と波

便あり。新湊は射水川口の右岸に位し、左岸に開港場伏木港を控へて、高岡市の門口を成す。

#### 四、中國地方

**地勢** 近畿の西に接する地方にて、花崗岩に富める中國山脈、中部を東西に貫き、内海と日本海との分水嶺を成す。又日本海岸に近く白山火山脈あり。大山・三瓶山を起す。山陽は地廣く、吉井川(東大川)・旭川(西大川)・川邊川(大川)・太田川等南流して、その下流及び沿海の地に平野開け、山陰には加露川・日野川・斐伊川等北流し、江川のみ山脈を横切りて日本海に注ぐ。地狭くして、斐伊川沿岸の外平野乏し。江川は中國第一の大河なれども、下流には支流少く、流域簡單なり。沿岸は日本海岸最も單純にて、僅に中海・尖道湖を擁する島

山脈は成分  
水界を又成  
すの外風土  
氣候を分  
なす

雨雪量  
境 二六・七  
味野 七・三  
その日數 一七  
境野 一七

根半島と隱岐とあるのみ。境港を山陰第一の良港とす。これに反し、瀬戸内海には無數の半島ありて、下關・宇品・絲崎・尾道等の良港を有す。

**氣候** 山陰は北陸地方に似たれども、北西風を正面に受けざるが故に稍暖く、雨雪も稍少し。山陽は東海地方に似たれども、南方に四國山脈あるがため雨量少く、晴天稍多し。中國山脈の連れる地方は冬季晴天の夜霧深く、翌日に至りて漸く散ずる所あり。

**自然と産業** 山地には砂鐵の産あり、岡山・島根は又銅に富み、山口縣は石炭を出す。平野は地味肥えて、水田割合に多く、又二毛作行はる。米

- |       |        |        |
|-------|--------|--------|
| 1. 地形 | 中國     | 奥羽     |
| 2. 海  | 東西に長し  | 南北に長し  |
| 3. 山脈 | 南北に帶ぶ  | 東西に帶ぶ  |
| 4. 平野 | 三條・大山脈 | 一條・大山脈 |
| 5. 氣候 | 内海面に大  | 日本海面に大 |
| 6. 礦産 | 寒氣強し   | 溫度高し   |
| 7. 牧畜 | 銅石炭砂鐵  | 銅石炭鐵銀  |
| 8. 製鹽 | 牛多し    | 馬多し    |
| 9. 漁業 | 盛なり    | 振はす    |
|       | 盛なり    | 稍劣る    |

農一般に牛を  
又食用とし  
て輸出する  
の頭数を  
占む割合を  
二割餘を  
三割餘を  
人口密度

人口密度  
二三一二

産は山陽の各縣百萬石以上の收穫あり。總額は奥羽に超え、  
麥はその二倍餘に達す。牧畜頗る盛なり。水産は本州中關  
東に次ぎて産額多く、無數の島々を有する廣島縣、竝に半島  
狀の山口縣殊に盛なり。内海沿岸地方は製鹽盛に行はる。  
工業は岡山・廣島二縣の紡績業盛大にして、蠶絲は山陰地方  
に多し。

**人口都會** 人口密度は甚だ大ならざれども、大平原に乏  
しく、小平地も概ね耕作して、既に地力を盡し、布哇その他諸  
外國に移住するもの多し。都會は岡山・廣島・尾道・吳・鳥取・松江  
下關の七市あり。その三は廣島縣に屬し、廣島市おのづから  
中國の中心地となる。下關はこの地方の門口たり。

**交通** 山陽最もその便を極め、略、山陽街道に沿ひて、山陽  
線鐵道あり、舟坂峠を経て本域に入る。中國鐵道は岡山より

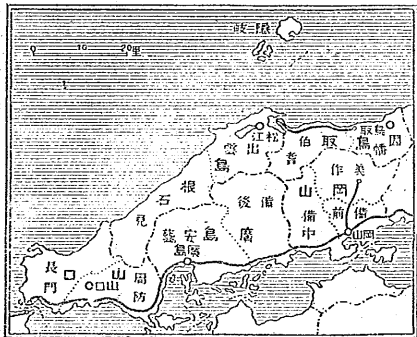
津山及び瀧井に達す。又廣島の東より吳に達する吳線あり。  
内海は諸汽船の航路にあたり、岡山より四國に、下關より九  
州及び韓國釜山に連絡汽船往復す。又二條の海底電線に  
て四國・九州に通ず。山陰地方は山陰街道の大部、海岸に沿  
ひて通ずれども、鐵道は境より東の一部に通ずるのみにて、  
陰陽の連絡全からず。沿海は境、濱田・萩を泊地とし、隱岐は  
島根半島との間に海底電線あり。

**沿革府縣制** 出雲は大國主命の開拓せし所、夙に神代史に著はる。備前備  
中備後美作は古の吉備國にて、沿海には安藝と共に神武天皇東征の寄泊地  
あり。長門は安徳天皇崩御の地なり。賴朝起るに及びて、周防に大内氏興る。  
戰國の頃毛利氏は大内氏の故地を領し、後出雲の尼子氏を滅して、概ね陰陽  
兩道を平定せり。徳川氏の時、毛利氏の封を削り、更めて防長二州を賜ひ、そ  
の他廣島・鳥取・岡山等の諸藩を封せり。今五縣に分轄す。

第四九圖  
中國地方

農產額  
廣島 岡山  
岡山 廣島

牛現存數  
全國 二五〇  
廣島 九、九  
岡山 二、五



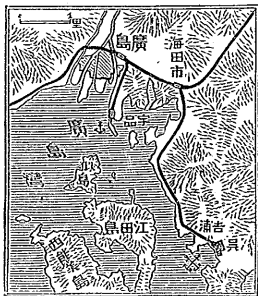
| 縣名 | 管轄區域   | 廳所在地 | その人口 |
|----|--------|------|------|
| 廣島 | 備後安藝   | 廣島市  | 一一、三 |
| 岡山 | 備前備中備後 | 岡山市  | 八、〇  |
| 鳥取 | 因幡伯耆   | 鳥取市  | 三、一  |
| 島根 | 出雲石見   | 松江市  | 三、四  |
| 山口 | 周防長門   | 山口町  | 一、八  |

廣島縣 西部は太田川の流域にて、川口に廣島市あり。南東部は蘆田川の流域にて、下流に福山あり。附近は盛に藺を栽ゑ、備後表花筵の産額は府縣一二に居る。北部は江川の上流域にして、諸川三次町にて相會し、石見に入る。山地廣く、牧牛盛に民有林と牛の多きこと府縣第一とす。又綿麻を産し、綿絲紡績は廣島・福山及び能美島に行はる。沿海水産の多きこと、中國第

第五〇圖  
廣島市及  
呉市

吳先軍の艦に於て甲波隻の船隻を多量に泊り、船の出入は多し、商船の出入は多し、地味は堅く、至るに

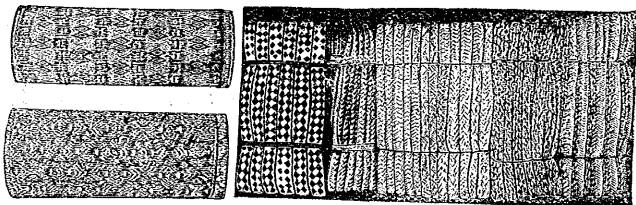
一とす。殊に廣島灣の牡蠣は京阪にその名高く、松永に製鹽試験場あり。廣島市は中國第一の都會にて、舊城地に第五師團司令部あり。又控訴院、廣島高等師範學校あり。南の宇品を市の港とし、山陽線の支線を通ず。征清・征露の出師多くこの地よりせり。灣の西部の嚴島は又宮島といふ。風光を以て著はる。呉市は穩戶・瀬戶・江田島を控へたる軍港ありて榮ゆ。江田島には海軍兵學校あり。尾道市は内海の航運業を以て榮ゆ。但しその地域狹し。西に接する絲崎は開港場なり。



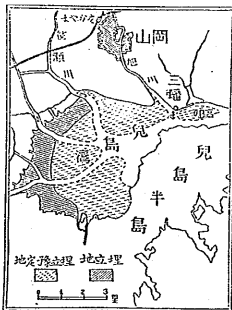
岡山縣 吉井・旭川邊三川の下流域及び沿海の地には平野續き、岡山・玉島・笠岡の都邑あり。吉井川の中流には美作平

第五一圖  
麥稈眞田  
及び花籬田

第五二圖  
立地  
兒島  
埋



野を成す。旭川・川邊川沿岸は盛に藺を栽ゑ、藺筵類の産額廣島縣に次ぐ。又麥稈眞田の産は全國の過半を占む。川邊川中流の高梁をその中心地とし、工場の設あり。牧牛亦盛なり。又各所に銅山あり、吹屋の吉岡銅山最も著はる。南方兒島半島は魚鹽の利多し。兒島灣は水淺く、その一部は既に埋立を終れり。岡山市は旭川に跨り、川口に三蟠港を控ふ。紡績・絲・蘭・筵・花・籬の製造盛なり。第六高等學校・醫學專門學校等あり。市の東なる伊部は伊部焼を産す。津山は美作平野の

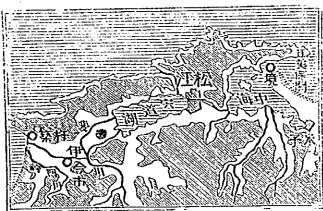


中心にて、足袋を名産とす。

**鳥取縣** 地狹く、丘陵多く、平地は賀露川及び日野川の流域にあるのみ。日野川の東に大山あり。船上山その北に位す。日野川は陰陽交通の要路を成し、上流地方は砂鐵を産す。大山の麓には馬を牧し、倉吉は生絲・木綿・稻扱を産す。

鳥取市は賀露川に沿ひ、川口に賀露港を控ふ。米子は夜見濱半島の頸部にあり、縣内第一の繁昌地とす。半島北端の境港は開港場にて、島根半島に掩はれ、安全の泊地とす。舞鶴との間に定期航路あり、舞鶴鐵道と連絡す。

**島根縣** 山地は砂鐵多く、三瓶山の麓には盛に牛を牧す。その西に大森銀山あり。宍道湖に注ぐ斐伊川、その西を流るる神門川下流



第五三圖  
島根半島  
の地方

の平原は地味肥え、縣下の農産山陰第一に居る。江川は流域狭く、石見は地味瘠せ、甘藷、楮を栽う。日本海上に孤立する竹島（一名リアンコート岩）は日本海海戦以來世に著はる。松江市は宍道湖の吐き口にあり、鳥取縣下の境港と相待ちて、水運の便宜し。布志名焼瑠璃細工の産あり。神門平原の杵築は出雲大社を以て著はる。南西の濱田は開港場にて、紙の取引多し。

隠岐は一大島なる島後、及びその他の島嶼を總稱する島前より成る。住民漁牧を主とし、鰯の産多し。島後の南端に西郷港あり。

**山口縣** 本州南西端の半島部にて、瀬戸内海・日本海に面す。西方一帯を響灘といふ。日本海は鯨獵に名高く、内海沿岸には鹽田よく開け、防府の三田尻附近を第一とし、産額中國

の第一に居る。又韓國近海に出漁する者多し。平野は諸川の沿岸に開けて、良質の防長米を産す。内地には秋吉臺に良質の大理石、大嶺に無烟炭あり。厚東川口の小野田はセメントを産す。都會は下關市の外山口、萩、徳山防府あり、岩國、柳井津は本綿織を以て著はる。

山口町は山間の都會にて、縣廳第廿一旅團司令部、山口高等商業學校あり。徳山には大嶺産の無烟炭を原料とする海軍煉炭製造所あり。下關市は航路十五分間程を隔てたる九州の門司に對して、内海の咽喉を成し、西に彦島を控へて一大灣を擁す。九州・韓國に對する要地にて、米穀・石炭の取引多く、商業活潑なり。開港場の一とす。市内に安徳天皇を祀れる赤間宮あり。壇浦は市の東に當る。

第五四圖  
下關市

## 五、四 國

**地勢** 四國山脈中央部を東西に走りて、**劍山**・**石槿山**等の高峰を起し、諸川の分水界を成す。又東部にはその北に**讃岐山脈**あり。吉野川は四國山脈の南に發し、山脈を横切り、四國・讃岐兩山脈の間を東流して縦谷を開く。その他阿波に那賀川、土佐に仁淀川・渡川、伊豫に肱川あれども、流域の平野は大ならず。

沿岸は北に讃岐及び高繩半島突出して、燧灘を擁し、南に室戸・蹠の二岬太平洋に突出して、土佐大灣を擁す。二岬の附近諸礁多く、航海便ならず。西には遠く海中に出でたる佐田岬、東には紀伊水道の口を成せる蒲生田岬あり。島と灣とは北部及び西部に多し。

## 氣候

北部瀬戸内海沿岸の地は山陽地方と大差なく、南に面する土佐は最も暖く、一年二回稻の熟する所あり。樟・橘・柑・橘等熱帶性の樹木多し。雨量は南北大に異り、四國山脈以南は暖流に面して、土佐は最多雨地方に居り、北部は内海性の寡雨地とす。

## 自然と産業

各縣耕地狭く、米産百萬石に達するものなく、總産額も新潟一縣に及ばず。麥は茨城縣の産額に稍優るのみ。されども藍・甘蔗・薑・櫛等の特産は全國中重要な地位を占む。工業は木綿織紙類を主とす。水産は内海面に製鹽の利あり。漁業は外洋面最も盛大なり。

## 人口都會

香川縣下は最も生産力に富み、人口の密なること府縣第四位にあり。高松・丸龜の二市、竝に小都會多し。その他徳島・高知・松山等一縣一市とす。

雨量多量 七五  
降雪日数 九三  
新高知 八三

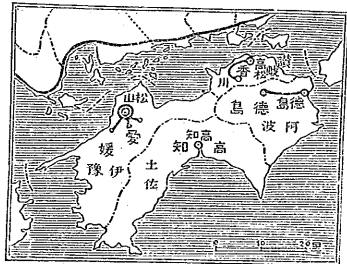
水産は三倍  
餘の面積あり  
するに足れ

**交通** 各縣を連絡する國道の外、徳島・高松・松山には各短距離の鐵道を有するのみ。従ひて中心都會と稱すべきものなし。徳島市稍大なり。高知は水運の便あるのみ。海底電線は香川縣より岡山縣に、愛媛縣より廣島・大分二縣に通ず。

**沿革府縣制**

四國は南海に孤出して天下の大勢に關したる事蹟稀なり。

古來天然の境界に従ひて、四國に分る。戰國の時土佐の長曾我部氏殆ど全島を平定せしが、秀吉之を討ちて土佐一國を興へたり。關原役後は山内氏これに代れり。



**徳島縣**

吉野川沿岸は地味肥えて、米・穀・藍・大豆に適す。殊

| 縣名 | 管轄區域 | 廳所在地 | その人口 |
|----|------|------|------|
| 徳島 | 阿波   | 徳島市  | 六、三  |
| 香川 | 讃岐   | 高松市  | 三、七  |
| 愛媛 | 伊豫   | 松山市  | 三、六  |
| 高知 | 土佐   | 高知市  | 三、四  |

第五四圖  
四國の區劃

第五六圖  
藍の產地  
及産額  
全國三縣  
及徳島

保護獎勵  
は産業發  
達の原因  
なり

に藍は品質産額共に帝國第一に居り、中流の脇町をその中心とし、川口の徳島市にて集散す。西境池田附近は烟草を産す。那賀川流域は茶・蜜柑・甘蔗を産す。又その上流地方は木材の産多く、川口の富岡をその取引地とす。吉野・那賀二川の流域を分てる劍山は四國第一の高峰にて、その北西に別世界を成せる祖谷の山村あり。海岸一帯水産業盛なり。



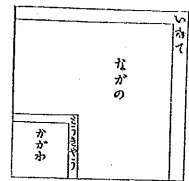
徳島市は神戸・大阪との間に汽船の便あり。葉烟草

藍の集散多く、商業盛なり。織・綿・フラネルを産す。撫養は

蜂須賀氏の保護に由りて發達せる著名の製鹽地なり。

**香川縣** 三面内海に面して、多くの細流に灌漑せられ、地肥え、土地開け、府縣中面積最も小に、人口稠密なる地方にて

第五七圖  
府縣面積  
人口密度  
岩手 八二〇  
長野 二二九  
東京 二二九  
香川 二二九  
東野 二二九  
人口 二二九  
長野 二二九  
東京 二二九  
香川 二二九  
東野 二二九  
人口 二二九



京東  
川香  
野長  
手道

引出田を中心とする砂糖の産は臺灣に次ぎ、製鹽は府縣第一の産額あり。坂出の鹽田最も著はる。又麥稈眞田の産あり。高松丸龜の二市、龜の南に位し、讃岐線鐵道にて連絡す。海上の小豆島は石材、醬油の産及び寒霞溪の勝あり。鹽飽諸島は夙に海事の發達を以て知らる。

高松市は築港完成以來、水陸交通の便最もよく、多度津と共に中國地方と連絡の要點たり。保多織を産す。市の東に屋島古戰場あり。善通寺は弘法大師の遺蹟あり。第十一師團司令部の設置以來漸く盛なり。琴平町は象頭山下にあり。船員の崇敬厚き金刀比羅宮あるを以て榮ゆ。

第五八圖  
銅産額  
全國 三三  
秋田 二六  
栃木 二六  
愛媛 二六

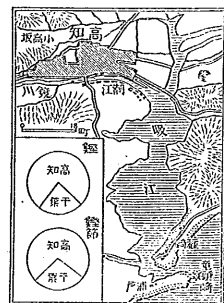
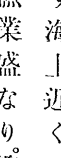


愛媛縣 高繩半島と佐田岬との突出ありて、本縣を三部に分つ。一、東部には小阪に次げる別子銅山、市川アンチモ二一礦山あり。新居濱に別子礦山の製煉場をおき、その間に專用鐵道を設く。來島海峽の東口に當れる今治は製鹽業盛なり。二、中部は重信川の流域にして、平野開け、機業、紡績業盛に又砥部焼を産す。松山市は中部に位し、伊豫鐵道の便あり。三津濱を控ふ。市外に有名な道後溫泉あり。肱川の沿岸は楮櫨の産多し。三、佐田岬以南は海水深く、陸地に入り込み、島多く良灣あれども、陸上交通の便なし。宇和島はその名邑にて、九州に渡る要津なり。附近に製紙業發達す。

高知縣 北境山多く、杉、檜の良材あり。その一部は吉野川を下して、徳島に出す。物部川、仁淀川は吸江に通ずる溝渠あり。

第五九圖  
高知市  
鱈產額  
高知縣  
鱈產額  
高知市  
鱈產額  
高知縣  
鱈產額

りて、中部地方灌漑の利あり。高知市この平野に位す。附近の地日本紙の製造・産額、府縣の第一とす。海上近くには黒潮流れ、土佐灣中部に須崎の漁港ありて、漁業盛なり。鰹節は品質産額共に他府縣にその比を見ず。又室戸岬附近には野中兼山の開きたる漁港ありて、捕鯨盛なり。沖、島近海は珊瑚採集船群集し、柏島カシノには愛媛山口並に九州一部の漁船輻輳す。



高知市は鏡川を帶び、吸江に臨む。その灣口水淺くして、砂洲移動し、汽船の出入に苦む。ここに浦戸港あり。

## 六、九州地方

地勢 九州及び北西の壹岐・對馬・南西の薩南諸島を包括し、帝國の十分一を占む。地勢は北部に丘陵狀の筑紫山脈、南

部に市房山の高峰を戴ける九州南部山脈あり。北東の別府灣頭より西岸中部の球磨川口に至る一線を以て、この兩山脈の境界とし、阿蘇山を盟主とせる阿蘇火山脈ここに噴起す。南部には霧島山を主峰とする霧島火山脈ありて、遙に南に連り、地勢複雑を極む。全島山多く、火山岩の分布廣大にして、平野は南西に流るる筑後川に沿ひて、筑紫平野あり。西流する菊地川・白川・緑川の沿岸地に熊本平野あり。南部の川内川・球磨川は大河なれども流域平野乏し。

沿岸は西部に有明海を擁する島原半島、大村灣を擁する西彼杵半島、伊萬里・唐津二灣を分てる北松浦・東松浦の二半島あり。海中道は福岡灣を擁し、鐘岬は響灘と玄海灘とを分つ。殊に北西部は極めて不規則にして、平戸・五島・天草・上島等多くの島々海上に散布すること、恰も瀬戸内海の如し。その間

に長崎・佐世保の良港を初め、貿易港多し。東部は極めて單純にて、他地方の大平洋面に反せり。南には薩摩・大隅の兩半島・鹿兒島灣を圍む。その南に種子・屋久の二大島あり。奄美諸島又その南西に連る。大島最も大なり。

**氣候** 平均温度は大島最も高く、嚴島最も低けれども、暖流の影響を受けざる熊本は零點下九度に下ることあり。概ね温暖にて降雪少く、柑・橘・樟・竹の類繁り、特に南部は本邦最多雨地方にて、榕樹・檳榔等の熱帶植物繁茂するを以て、珈琲・幾那等の試作をなす所あり。

北部の雨量は適度を得たり。

| 平均温度    | 雨       | 雪    | 降雪日 |
|---------|---------|------|-----|
| 大島 三、五  | 大島 二〇、七 | 宮崎 〇 |     |
| 嚴原 一四、四 | 熊本 一三、四 | 熊本 七 |     |

**自然と産業** 筑紫・熊本の兩平野は本邦有数の米產地なれども、その他には大平野を見ず。水利に乏しき島地は甘藷を栽培して、常食とするものあり。牧畜は牛・馬を農耕に使

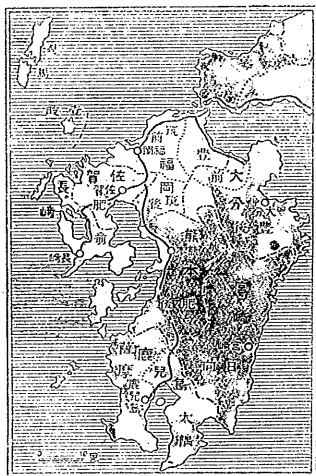
用するを以て、大に發達し、馬は奥羽地方の上に出て、牛は中國地方に比敵す。林業は温暖に富める宮崎・鹿兒島二縣を有望とす。石炭は北部一帯に産し、製鐵・紡績・造船等の大工業勃興して、工場用石炭の消費多きこと、他地方にその比を見ず。將來本邦主要の工業地を以て目せらる。機業亦盛なり。漁業は島・半島に富める長崎・鹿兒島を最盛とし、總産額北海道に次ぐ。

**人口・都會** 南東部は人口粗にして、鹿兒島の一市ある外、宮崎・大分の二縣は未だ市制を施けるものなし。産業の發達せる北西部は人口稠密にて、福岡縣の都市には急劇の進歩を爲せるものあり。福岡・久留米・門司・小倉の四市を有す。長崎・佐世保は良港に由りて發達せり。佐賀・熊本の二市は農産多き平野の中心市場とす。

**交通** 九州鐵道は主要の交通線にて門司に起り、福岡・佐賀・長崎を連ね、一支線は南進して、久留米・熊本を經、八代に達し、南の方鹿兒島より來る鹿兒島線に連絡せんとす。又福岡縣下の炭田に通ずる諸支線、豐州線・唐津線・伊萬里線あり。北部及び西部の交通最も便なるに反し、南東部は未だ全く鐵道の敷設を見ず。長崎は内外諸港に、鹿兒島は大阪に定期航海あり。又大阪・沖繩間の航路に當る。電話は長崎・佐世保・福岡より中國・近畿・關東に通ずべし。海底電線は中國・四國に連絡し、又東松浦半島より壹岐・對馬・朝鮮に、佐世保より大連に、長崎より上海・ウラヂボストクに、鹿兒島より種子屋久・琉球を經て、臺灣に達す。

**沿革** 府縣制 九州古來九國に分れ、壹岐・對馬亦各一國を成す。南部には神代の遺跡多く、北部には對外關係の史蹟多し。鎌倉幕府の時蒙古來寇し、

第六〇圖  
九州地方  
區劃圖



壹岐・筑前肥前その難を蒙る。戰國の時、島津氏薩摩日向大隅に據りて、九國を壓する勢あり。秀吉これを降し、薩摩大隅等を與ふ。徳川氏の時、鹿兒島・熊本・福岡・佐賀の諸藩あり。今七縣に分つ。

| 縣名  | 管轄區域         | 廳所在地 | その人口 |
|-----|--------------|------|------|
| 福岡  | 筑前・筑後及び豐前の一部 | 福岡市  | 七、〇  |
| 佐賀  | 肥前の一部        | 佐賀市  | 三、四  |
| 長崎  | 肥前の一部・壹岐・對馬  | 長崎市  | 一五、一 |
| 熊本  | 肥後           | 熊本市  | 五、五  |
| 大分  | 豊前の一部・豊後     | 大分市  | 一、二  |
| 宮崎  | 日向           | 宮崎町  | 一、一  |
| 鹿兒島 | 薩摩・大隅        | 鹿兒島市 | 五、八  |



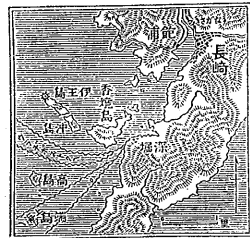
住江の貿易は輸出のみに限る

地にて、その起原最も古く、高價なる美術品を出す。北西に伊萬里あり、鐵道にて連絡す。住江は有明灣岸の新開港場なり。

第六三圖  
長崎港

**長崎縣** 肥前の南西なる不規則の半島部及び九州北西の島嶼を含む。長崎・佐世保・口津・竹敷等樞要の港灣あり。沿海は烏賊・鰯・海鼠の漁利多く、水産は靜岡縣に次ぐ。五島近海は捕鯨を以て著はる。陸上は山勝ちにて平野狭く、農産乏し。有明海と千々石灘とを分てる島原半島には中部に溫泉岳あり、多良岳その北に當る。

長崎市は三里に達する長き灣内にあり、泊船の利最も宜く、清・韓・濠洲との交通の衝に當る。維新前よりの通商港にて、西洋



學術傳來の門戸をなせり。控訴院・醫學專門學校・高等商業學校あり。又灣内に規模壯大なる造船所あり。灣口附近は石炭を産す。佐世保は軍港にして、佐世保市これが爲に勃興し、人口五萬を越ゆ。口津は開港場にて、三池石炭の輸出口をなす。

壹岐は陸に大豆の産あり、海に魚介の利多し。對馬は上下二島に分れて、その間に淺茅浦を挟み、竹敷の要港を成す。日本海の防禦上最も肝要なる所とす。上島東岸の嚴原は島廳警備隊の設あり、下島の鹿見・佐須奈と共に開港場たり。

**熊本縣** 北部に阿蘇大活火山あり、中央火口丘の周圍は平野廣く、宮地町に農業學校あり。山中より發する白川は北の菊地川、南の綠川と略平行して流れ、その流域に臺地低地あり。畑の多きこと千葉縣に比敵す。低地は良質の肥後

第六圖  
阿蘇火山の噴煙



米を産する熊本平野にて、麥、烟草、大豆の産亦多し。熊本市その中部に位す。別世界を成せる五家莊の山地に發する球磨川は、著名の急流にて、人吉盆地の外平野流を缺き、川口には頭大の石礫あり、林正盛の經營にて、十六里間僅に通船の利あり。沿岸中部に宇土半島の突出あり、その端に位する三角港は開港場の一とす。天草下島は甘藷、甘蔗の農産あるに過ぎざれども、天草灘に臨みて魚鹽の利あり。又無烟炭を出す。縣下山丘多く、牧馬の盛大なること府縣中の一二にあり。熊本市は白川に跨り、飛白織を産す。近傍に第五高等學校あり。

馬現存數  
全國 三〇  
熊本 二〇  
鹿兒島 九  
岩手 九

火山地方  
は温泉に  
富む

琉球表産額  
全國 三〇  
大分 九

り。明治十年役にその名高き熊本城址に第六師團司令部をおく。市の北植木・田原坂亦この役に著はる。北西の隈府には菊地氏一族を祀れる菊地神社あり。八代には懷良親王を祀れる八代宮あり。又球磨川上流に産する木屑を原料として、紙を製す。

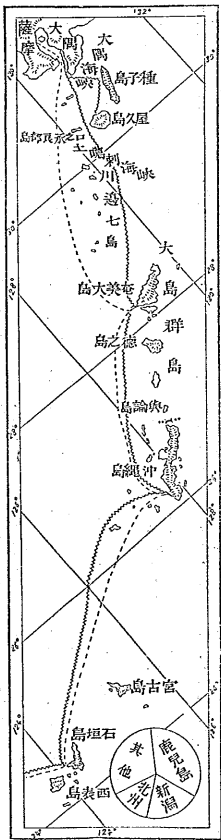
**大分縣** 阿蘇の裾野は本縣の西部に延び、又南境に祖母山、北西境に英彦山あり。平野は別府灣に注ぐ大野川附近を稍、大なりとす。火山多くして温泉に富み、地形極めて錯雜にて、大分・臼杵・中津竝に筑後川上流盆地の日田等の小都會分立し、未だ市制を施けるものなし。縣下製絲織物業盛に、琉球表の産は府縣第一に居る。

大分は檜物細工の産あり、宇和島・大阪間の航路に當る。北西に温泉を以てその名高き別府あり。中津の東なる宇佐は

官幣大社宇佐八幡宮を以て名高く、鐵道の便あり。  
**宮崎縣** 九州南部山脈を以て熊本縣と限り、地勢東に傾き、五箇瀨川・大淀川等東流す。南西境には霧島活火山あり、硫黃の採掘多く、その裾野は都城附近に達す。縣内山林原野大部分を占め、未だ開拓せられざる所多く、海岸亦平直にて遠淺なれば、交通の便悪く、皇祖發祥の地なれども、人口粗にして、都邑と稱すべきものは宮崎・延岡の二に過ぎず。海港は北の細島港、南の油津港稍著はる。山地には良材あり、又樟腦を産す。沿海には鯉・鰯の漁獲漸く多し。

**鹿兒島縣** 鹿兒島灣を擁する二大半島地、種子島・屋久島及び川邊七島・大島群島、竝に琉球に近接せる輿論島を包含す。その一部は霧島火山脈に當れり。又薩摩の西に甑島あり。域内山丘起伏し、小平野分立すれども、都會は鹿兒島の一市

第六五圖 諸島南緯 金産額 新島三 北海道



あるに過ぎず。縣内畑地の多きと、牧馬の盛なるとは府縣第一に居り、芹野・鹿籠等著名の金山ありて、産額多し。鹿兒島の南なる谿山は本邦唯一の錫の産地とす。又西海岸は鯉・鰯の漁利多し、南端の坊津は鰯漁の一根據地たり。屋久島には杉の良材あり。大島は大島紬・砂糖・疊表を産す。鹿兒島市は城山を負ひ、櫻島を控ふ。鹿兒島線鐵道の起點にて、第七高等學校造士館の設あり。飛白織を産す。北東の國分は烟草の産を以て知られ、北西の伊集院附近は薩摩焼を

産す。

### 七、沖縄縣

**地勢** 琉球列島は帝國の地勢に従ひて薩南諸島の南西に連れる五十餘の島々にて、沖縄群島及び宮古八重山二群島より成れる先島列島の二に分る。石灰岩に富み、海岸には珊瑚礁多けれども、沖縄島の運天港開港場那覇港、西表島イリモエの船浮港等の良港灣あり。

**氣候** 熱帯に近きを以て氣候熱く、年中霜雪を見ず。夏・秋の候颶風多く、人家は低き平家造にて、周圍に石垣を廻らす。**自然と産業** 島内丘陵連りて、椰子・蘇鐵・芭蕉竹等四時繁茂し、米は二回の收穫あれども、水利乏しく産額少し。農民は甘藷を作りて常食に供し、甘蔗を栽ゑて砂糖を製す。又盛に

豚を飼ふ。芭蕉布・飛白・漆器等の工産あり。

**人口・都會** 人口四十七萬あり。琉球人は教育普及の結果言語風俗等他府縣と大差なし。那覇區は開港場の一にて、縣下の産物を輸出し、米穀を輸入す。港は水淺く、大船を容れ難し。首里區は舊藩王尙氏の城地にて、泡盛酒を産す。

**交通** 海底電線は奄美大島を経て鹿児島縣に、八重山群島を経て臺灣に達し、又大阪に定期航海あり。

琉球には酒  
造税を課せ  
ず出港税を  
課す

**沿革** 琉球は天孫氏の開く所と稱す。後源爲朝の子尊敦國內を一統して、舜天王と稱し、孫義本に至りて位を天孫氏の裔に譲る。慶長中島津家久これを討ちて、永くその所屬とせり。明治五年朝廷尙泰を藩王に封じ、後華族に列し、同十二年沖縄縣をおく。されど行政上舊慣を參酌する所多し。

### 八、臺灣

**地勢** 琉球の南西に位し、臺灣海峡を隔てて南清地方に近接す。西に澎湖列島、南東に紅頭嶼・火烧嶼等の屬島あり。數條の山脈より成れる臺灣山系は、南北に走りてシルヴァ山・新高山等の高峰を起す。又北端に大屯火山彙あり、脈を澎湖列島に延く。山脈の西部は地廣く、次第に下りて大平野を成し、淡水河・西螺溪・大突溪・下淡水溪等その間を流る。沿岸概ね平砂にて、砂丘發達す。東部は傾き急にして、海に迫れる絶壁に終り、大河を養ふべき餘地なし。

**氣候** 新高山以南は熱帶にて、夏季永くして溫度高く、三十六度に上る所あり。北部には冬季北東風多く、南部には夏季大雨を來す南西風あり。澎湖島は風力殊に強し。

**自然と産業** 溫度高く濕氣多きを以て、植物の發育極めて盛にて、高山地方には檳榔の大森林あり。平地は檳榔・榕樹・



臺灣檳榔樹林の圖



東京帝國大學理科大學人類學教室所藏

臺灣蕃人及其其の圖

臺灣の蕃人は其の種族十  
以上に及ぶ、何れも馬來  
種に屬す。其風俗言語の相  
違あるのみ。圖に示せるは  
北部に住して、自らタイヤ  
ルと稱する蕃人の男女に  
て、男は頭部に鉢巻を用ひ、  
額及び下顎に直線狀の黥  
を施し、女は兩頬に網狀の  
黥を施す。又耳朶に小き管  
を挿入し、之に裝飾品を貫  
く。好みて烟草を用ひ、衣は  
筒袖の上衣を用ひ、又粗き  
毛布を纏ふ。性質最も樸  
にして、俗に首狩を行ふ。

第六圖  
臺灣茶產  
比較年較



く、甘蔗、樟腦と共に本島  
の大富源を成す。その輸  
出盛なり。牧畜は到る

處に盛に、水牛、山羊、豚を飼ひ、水牛  
は農耕に用ふ。礦産は北部に砂  
金、石炭、硫黄あり。水産は盛なら

ず。食鹽は政府の專賣なり。澎湖島は地平坦にて川なく、又  
喬木なく、飲料水に乏し。耕作物は只甘藷、落花生のみなり。

人口都會 人口三百萬あり。その内、内地人は四萬餘に  
過ぎず。臺灣人大多數を占め、馬來種に屬する蕃人これに次

樟、竹等茂り、林業有望なり。農業

臺灣

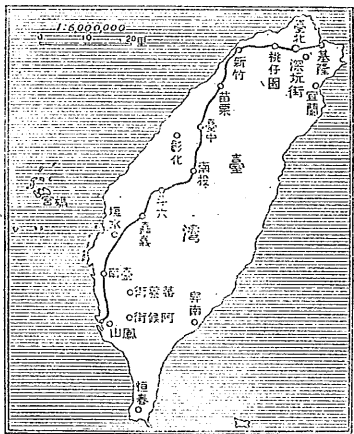
北海道

- |      |          |          |
|------|----------|----------|
| 一、位置 | 南清と近接す   | 露領と近接す   |
| 二、地勢 | 一大山系と火山帯 | 二山脈と火山脈  |
| 三、河道 | 急流にて洪水多し | 屈曲多く流水あり |
| 四、林産 | 樟腦       | 軸木、枕木、木屑 |
| 五、礦産 | 石炭、金、硫黄  | 石炭、金、硫黄  |
| 六、水産 | 乏し       | 極めて豊富なり  |
| 七、畜産 | 水牛、山羊、豚  | 馬、牛      |
| 八、製造 | 茶、砂糖     | 麥酒、麥粉、麻  |
| 九、土人 | 蕃人       | アイヌ      |
| 十、門口 | 基隆、淡水    | 函館、小樽    |

ぐ。蕃人には平野に農耕を營む熟蕃と、山間に住する生蕃とあり。北部及び西部の平原地方は風土大に開けて、臺北を初め、臺南、嘉義、彰化等繁盛の都會多く、沿岸には基隆、淡水、鹿港、安平、打狗の諸開港場あり。東部は風土未だ開けず、蕃人の住所となれる所多し。

**交通** 河流は大雨のために、屢、出水して氾濫し、水利の便あるは唯淡水河あるのみ。道路は不完全にて、旅客は轎に乗り、川には竹筏を用ふ。鐵道は臺北より基隆、淡水、及び新竹の南に、又打狗より臺南、嘉義、彰化、臺中に達し、南北の全通近きにあり。水運は神戸、基隆、門司經由、直航の定期航路、基隆を起點とする東廻り、西廻り航路あり。海底電線は安平より澎湖島に、又基隆より鹿兒島縣に、淡水より南清地方に達す。

**沿革政治** 本島は足利氏の末年、我が南西地方の冒險家が根據とせる處なりしが、海外通商の禁嚴なるに及びて、全く蘭人の經營に歸せり。清朝の初め、鄭成功父子蘭人を逐ひて、これに據り、清朝に抗す。その滅ぶるに及びて、遂に清領となる。明治四年、征臺の師に次ぎ、明治二十七年、我軍澎湖島を占領し、講和成るに及びて、本島並に諸屬島を我に收む。現時臺北に臺灣總督府をおく。その下に二十廳あり。又臺南に混成旅團をおきて守備せしむ。近年その經營大に進歩した



第六七圖  
臺灣の  
所在地

臺北は淡水河の上流新店溪、大嵙崁溪の會點に位す。市街に石壘あり、樓門を設く。城内に總督府、覆審法院、國語學校、臺北

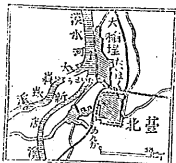
第六八圖  
臺北市街

第六九圖  
基隆港

廳あり。門外の大稻埕及び艋舺は烏龍茶の產出取引多し。淡水港は本島貿易額の七割を占むる開港場にて、茶、樟腦を輸出し、綿布、阿片を輸入す。その市街地を滬尾といふ。基隆は内地に對する門口にて、要塞の設あり。石炭、砂



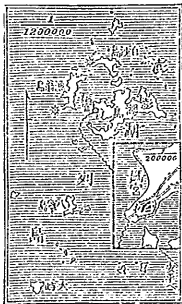
金の産地を控へたる開港場にて、冬季波荒く、築港經營中なり。大肚溪口の塗葛窟は淡水安平に次ぎて貿易盛に、その南なる鹿港は支那船の出入多し。臺南は製糖業の盛なる臺南平野にあり、本島第二の都會にて、その西に砂糖、樟腦の輸出多き開港場安平港を控ふ。附近の海岸は天日製鹽盛にて、その南に位する開港場打狗は砂糖、食鹽の輸出大なり。



臺灣には塗葛窟鹿港の外舊港後壠下湖口北港漢東石港東港蘇澳及び澎湖島媽宮等の特別開港場あり、當分の内支那形船に限りて出入し得るものなり。

第七〇圖  
澎湖列島

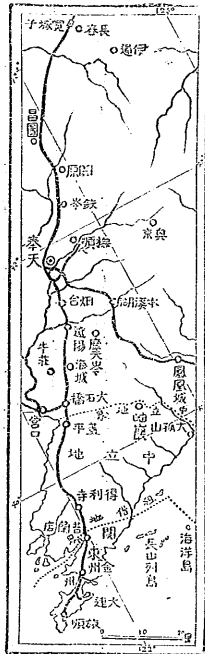
澎湖島は帝國南門の要地にて、澎湖漁翁白沙三大島の間に碇泊極めて安全なる澎湖海を擁す。その媽宮に要塞の設あり。



### 九、遼東租借地

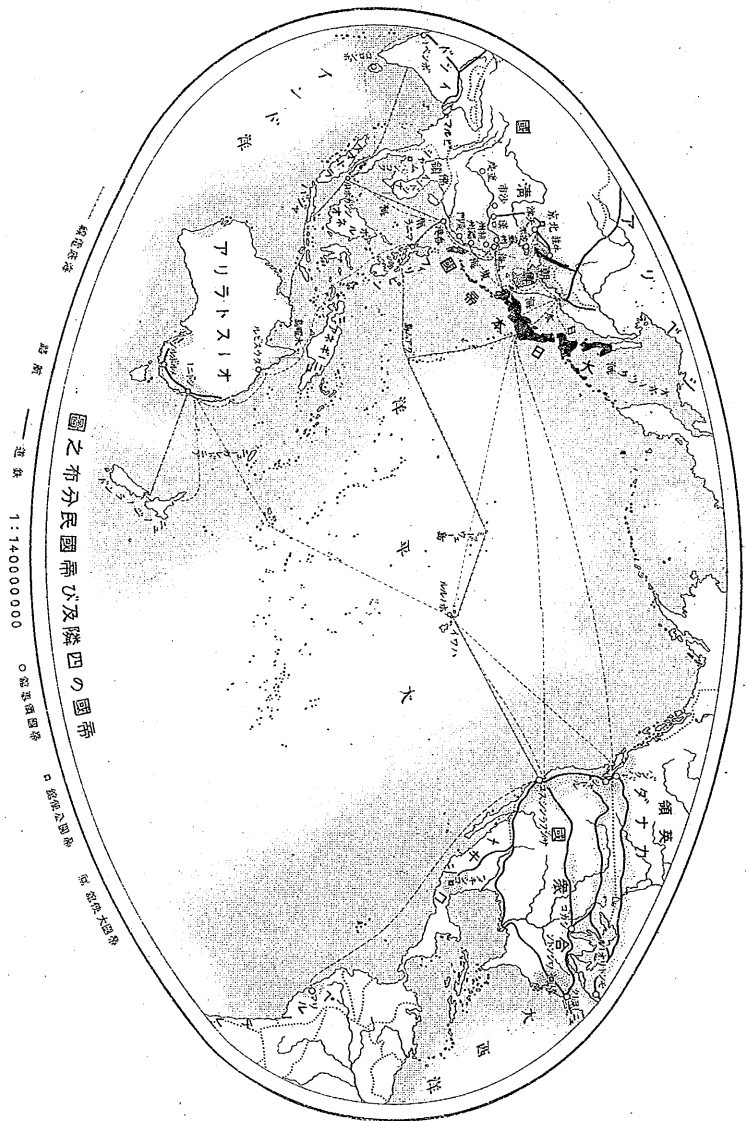
清國遼東半島の一部にして、明治三十八年日露條約によりて、旅順・大連より南の方長春に達する鐵道及びその支線竝

第七一圖  
遼東東路鐵道及支線

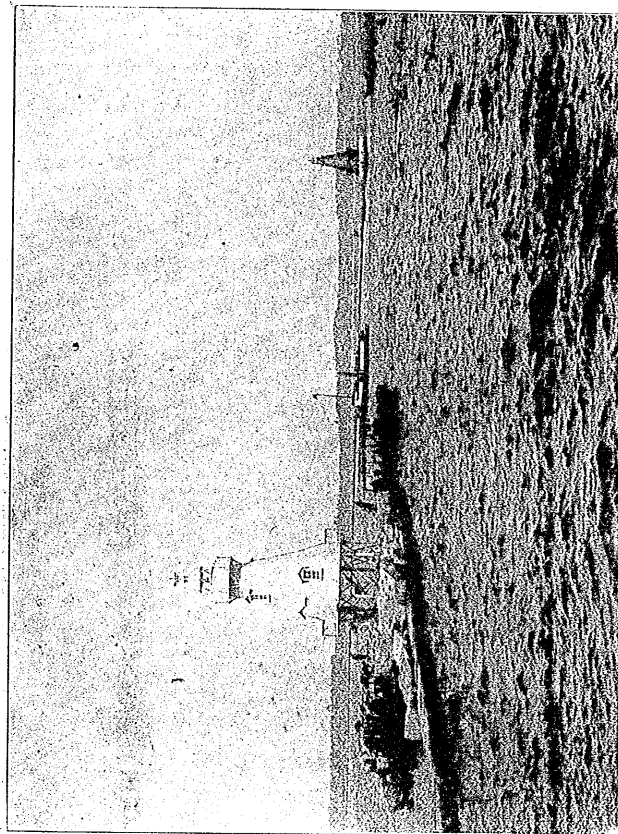


びに附屬炭坑と共に、露國の租借權を我が邦に讓與せしも

のとす。大連は東亞の一門口に位する自由港にして、關東都督府の設あり。旅順は日露戦史にその名高し。海軍鎮守府の設あり。鐵道は南滿洲鐵道株式會社の經營に係る。



室燈堤南水北東濱樺



位置北緯三五度二七分 構造北東同 燈質北不動紅白  
光達距離東九哩 初照上高四丈二尺 初照年四月

## 海の日本

我が國は北大平洋中、アジア洲の東岸に沿ひ、三個の弓形を  
なして連れる海國にして、樺太の北部のみ僅に陸地にて界  
す。四面の海洋は皆我が國人の活動すべき舞臺にして、そ  
の大切なること陸地に譲らず。  
帝國海岸の全長七千七百里に達し、面積に比して海岸線の  
長きこと、世界中類稀なり。

一、大平洋面 我が國の表玄関にして、諸外國に對し最も  
重要な海面なり。東には遙に北米大陸の合衆國、及び英領  
カナタ、並にその中間の洋中にハワイ群島あり。南方には  
本州の南に當り、豆南諸島、小笠原島等ありて、大洋州の諸群  
島に連り、臺灣の南には、フリピン群島あり、バシー海峡を隔

てて相對す。更に南に到れば大洋洲にオーストラリア、アメリカ洲にメキシコ、ペルー等の諸國あり。

**海底** 太平洋面は世界に名高き深海多く、殊に千島南東のタスカロラ海床は深さ約九杆に達し、駿河灣にても二杆を超ゆる所あり。

**島** 我が國民の海洋に於ける活動の根據地となるものにて、遠洋中の一孤島と雖も、頗る大切なり。太平洋面にて我が領土に屬するものに二島列あり、豆南諸島、千島列島是なり。豆南諸島は大島、八丈島等の伊豆七島、小笠原島、硫黃島、島鳥島等の總稱にて、大島には三原山の活火山あり、八丈島は絹生牛を出す。小笠原島は氣候甚だ溫かにて、砂糖、甘蔗、鳳梨、海

第七二圖  
豆南諸島



龜等の熱帶性動植物を産し、歸化人の子孫少からず。北米合衆國領グアム島に達する海底電線の中繼所にて、又遠洋漁業者の根據地たり。

千島列島は根室の北東よりカムチア、カ半島の間に連り、オホツク海を控制する要地なり。國後、色丹、擇捉、新知、占守等の諸島あり。何れも火山岩にて、平地乏しく、新知島にブロートン灣、色丹島に斜古丹港あり。國後島には鯨の漁業盛なり。

**海流・水産** 我が太平洋の近海に寒、暖二種の海流あり。暖流黒潮は、フィリピン附近より北流し、臺灣の東岸を洗ひ、琉球の西部にて對馬海流を分ち、九州、四國、本州の南海を通過して、南東に向ふ。この海流の流るる海面には海産物多く、土佐沖、遠州灘の鰹、九十九里濱沖の鰻、金華山沖、鹿島灘の鯨、獵等有名なり。寒流親潮は千島の東を南下して、牡鹿半島

附近に到る。又樺太の東岸に沿ひて南下する樺太寒流あり。寒流に洗はるる海面には鯨・鮭・鱈・昆布・鰺・鰯・鰱・鰻・鰺等々の海産物に富む。

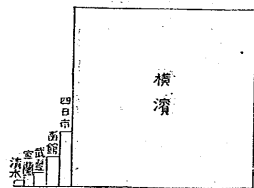
第七三圖  
横濱港

港 海外貿易港としては輸出貿易の首位を占むる横濱港あり、全國の生絲・絹織物・茶・銅・竝に北日本の海外輸出品は多くこの港より輸出す。又北米合衆國より棉花・石油・麥粉・英國より鐵類、



第七四圖  
大開港場  
易比較面

ドイツより砂糖等を輸入す。その貿易は日本内海の神戸港と共に全國の約八割を占む。この洋面の主なる開港場の輸出入品は左の如し



横濱 (輸出品 生絲・羽二重・茶・絹手巾・銅等  
輸入品 棉花・鐵・麥粉・砂糖・石油等)  
四日市 (輸出品 棉花・鐵・麥粉・砂糖・石油等  
輸入品 大豆・糖・大豆・石油・麥粉等)

交通 大太平洋面は東西諸外國就中米國との交通最も盛なる海面にして、その中心を横濱とす。重なる海外航路は左の如し。

函館 (輸出品 昆布・硫黄等  
輸入品 石油・麥粉等)

その他釧路・室蘭・青森・清水・武豊等あり

日本郵船株式會社

東洋汽船株式會社

イ、歐洲線 (起點) 横濱

1、サンフランシスコ線

(起點) 神戸・横濱經由

ロ、上海線 横濱

2、南米線

横濱

ハ、濠洲線 横濱

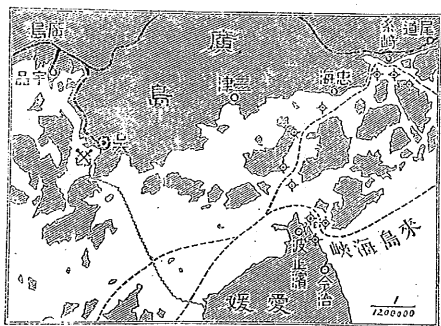
ニ、米國線 香港・横濱經由

海底電線は東京灣より起り、豆南諸島附近を経て南下し、北米合衆國領グアム島にて、上海・アメリカ線と會し、東西諸外國との交通に便す。

警備 大太平洋面の大部即ち紀伊半島以東の海面は、横須

賀軍港を根據とする横須賀鎮守府の所管に屬し、長津呂豆、潮岬、伊都井崎、日向、佐多岬、大隅、金華山、前等、に海軍望樓を置き、海面の警備に任ず。

二、日本内海 大平洋の一大入海にして、近畿中國・四國・九州の間に位し、四海峽（鴨門、紀淡、豊後、馬關）を以て外洋に通ず。長さ二百四十哩、幅狭き所は僅に三哩、廣きも三十哩を出でず。その淡路島以西は特に瀬戸内海の稱あり。



第七五圖  
濠洲海峡

航路と風景 海上は風波穩に、沿岸良泊多く、交通の便利なること遙かに陸上に勝り、古より本州西部交通の要路となり、又清・韓及び諸外國

航路標識  
は燈標識  
三種あり

への航路に當り、船舶の往來頻繁なり。従ひて港灣の修築、航路の標識よく備はり、沿岸繁盛の都會多し。就中神戸・大阪は内海交通の中樞たり。

沿岸は砂白く、松緑にして、大小無數の島嶼その間に散點し、風光絶佳、航海者の樂園と稱せらる。外國船中には特に晝間を撰びてこの間を航海し、又絲崎に迂回して、船客を悦ばしむるものあり。

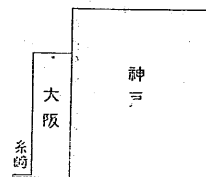
神戸・大阪を起點とする重要航路左の如し。

大阪商船株式會社

日本郵船株式會社

|            |        |            |        |
|------------|--------|------------|--------|
| イ、漢口線      | （起點）大阪 | い、孟買線      | （起點）神戸 |
| ロ、大連線      | 大阪     | ろ、北清線      | 神戸     |
| ハ、ウラヂポストク線 | 大阪     | は、韓國北清線    | 神戸     |
| ニ、天津線      | 大阪     | に、ウラヂポストク線 | 神戸     |
| ホ、安東縣線     | 大阪     | ほ、鎮南浦線     | 大阪     |

第七六圖  
内海諸  
港貿易  
比較



**港** 神戸は輸入貿易港の首位を占め、大阪と相待ちて帝國西部の商業貿易を支配す。又長崎と共に東洋貿易の中継港として、將來最も有望なり。輸出品は西部日本の特産たる棉絲、摺付木、花筵、麥稈、眞田樟腦等とし、印度より棉花、東洋諸國より米、滿洲より大豆等を輸入す。内海に屬する開港場及び輸出入品は左の如し。

神戸 輸出品 棉絲、摺付木、花筵、眞田樟腦、麥稈、大豆、石油等

大阪 輸出品 銅、棉布、棉絲、摺付木、紙卷、煙草等

糸崎もこの海面に屬す

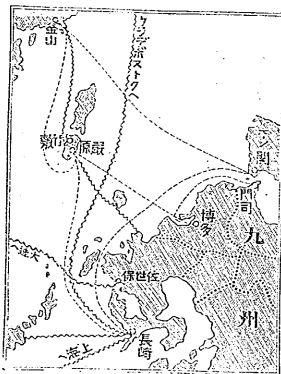
**製鹽** 沿岸は砂濱連り、潮汐の干満大に、年中晴天多く、雨量少ければ、おのづから製鹽に適し、十州鹽田尻に開け、赤穂齋田坂出・三田尻等著名の製鹽地あり。漁利亦大にして、内海の鯛は京阪人の殊に賞味する所なり。

**警備** 日本内海及び大平洋面の紀伊半島以西、宮崎鹿兒島二縣の縣界に至る間は、吳軍港を根據とする吳鎮守府の所管に屬す。廣島灣、藝海峽、並に下關、紀淡鳴門の諸海峽には要塞の設けあり。又内海の門口に當れる日岬、伊鶴、見崎、豊六連島等には海軍望樓をおく。

**住民の特長** 内海沿岸及び島々の住民は水に慣れ、漁業航海の業に就くもの多く、戰國の頃河野氏、伊豫に據りて海賊の勢強く、鹽飽島民は大内氏に屬して明國に渡航貿易し、太閤の征韓にはその運輸の任にあたれり。近時は出でて清韓方面に遠洋漁業を試みるもの多し。

**三、日本海・東海** 我國と清韓諸國との間に位し、對馬海峽により兩海を分つ。日本海は宗谷・津輕・下關の三海峽により、東海は主として臺灣海峽によりて大平洋面に通ず。又

第七七圖  
對馬海峡



東海の北には黃海あり。直隸海峡によりて渤海灣に通ず。以上の諸海はアジア大陸との關係上、我が國にとりて最も重要な海面なり。韓國・滿洲地方との連絡は全くこれ等の海面による。

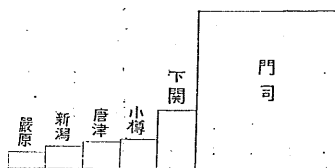
**海底** 一般に淺くして、若し現時の海底を隆起せしむること二、三米ならば、帝國の領土は悉く大陸の地續となり、僅に日本海の中央に一大湖を残すのみとなるべし。

**海流水産** 暖流對馬海流は琉球の西部に於て、本流黒潮と分れ、東海を経て日本海に入り、本州及び北州に沿ひて北流し、津輕・宗谷兩海峡にて略消滅す。又大陸に沿ひて南下する寒流あり。暖流の流るる海面は烏賊を名産とし、寒流

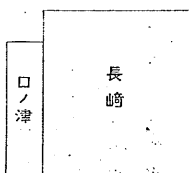
には鰺・鮭・鱈殊に明太魚等を名産とす。韓國・シベリアの沿海は凡て我が國民の漁業區域に屬す。

**港** 清・韓・シベリア諸國に對する貿易港甚だ多く、日本海には門司・下關・小樽等、東海には長崎・口津・淡水等あり。長崎の貿易は横濱・神戸・大阪に次ぐ。兩海面に屬する開港場及び輸出入品は左の如し。

第七八圖  
諸日本海貿易  
額比較



門司(輸出品 石炭・棉絲)  
下關(輸出品 石炭・棉花)



長崎(輸出品 石炭・鰹・樟腦等)  
口津(輸出品 石炭)

その他小樽・新樽・伏木・七尾・敦賀・宮津・境・濱田・若松・博多・唐津・原鹿・見佐・須奈・三角・住・江那・那基・隆淡・水安・平打・狗等あり。

### 交通

兩海面は我が國の諸港と、對岸の貿易港上海・大連・仁川・釜山・ウラヂボストク等との間に交通頻繁にして、兩岸地方の關係日に密接す。その主要航路は左の如し。

大阪商船株式會社

大家合資汽船會社

一、大連線

(起點) 長崎

い、日本海線(甲)

(起點) 小樽

二、韓國線

長崎

ろ、日本海線(乙)

門司

三、福州線

淡水

四、漢口線

上海

兩海の對岸に通ずる數條の海底電線あり、長崎を中心とし、上海・ウラヂボストク等を連絡す。その他臺灣より清國に達するもの、及び帝國の重なる島嶼間に通ずるものあり。

### 警備

對馬海峽及び東海の海面は佐世保軍港を根據とせる佐世保鎮守府日本海面は下關海峽附近及び津輕海峽の西口附近以北を除くの外は舞鶴を根據とせる舞鶴鎮守

府これを警備す。遼東租借地近海の警備には別に旅順口鎮守府あり。兩海面には國防上重要な海峽・島嶼多く、津輕海峽に大湊要港、對馬海峽に竹敷要港、佐世保長崎並に媽宮に要塞あり。その他對馬には警備隊を置き、野母崎・肥前・福江・島平・戸島・壹岐・對馬・隱岐・皆月・岬・能登等に海軍望樓を設く。

### 歴史

兩海面殊にその連絡點なる對馬海峽附近は、古來屢、外寇の衝に當り、元寇の襲來、日本海海戰の如き、我が國運を賭したる大決戰は多くこの海面に起れり。

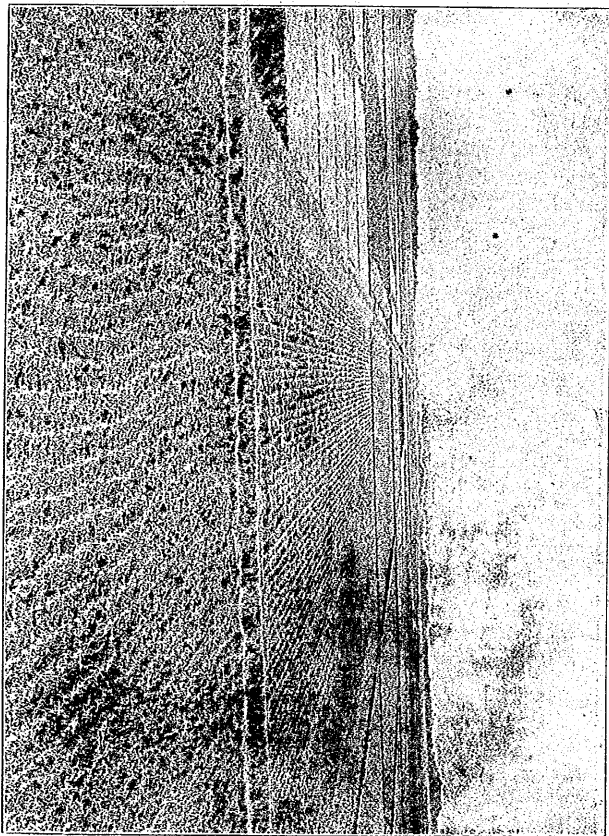
### 括論

耕地面積の増進は、灌漑の整備と排水の増進によるものである。

山林面積の増進は、全山林面積の十分の一に達するものである。

一、農業 我が邦古來農を以て、國の大本とせしかば、國民の大半これに従事す。耕地は全面積百分の十二を占めたり。小金原・那須野及び福島縣郡山附近は維新後開墾せられ、北州は年々拓殖の業進歩す。その他尙ほ開拓の餘地あり。耕地整理亦極めて必要なり。米は農産の第一に位し、平年産額四千餘萬石に達す。麥の産額は米の約二分の一とす。共に國民の常食に供し、酒造の原料とす。近年外國米の輸入少からず。茶は貿易の主要品にて、約一千萬貫の産出あり。

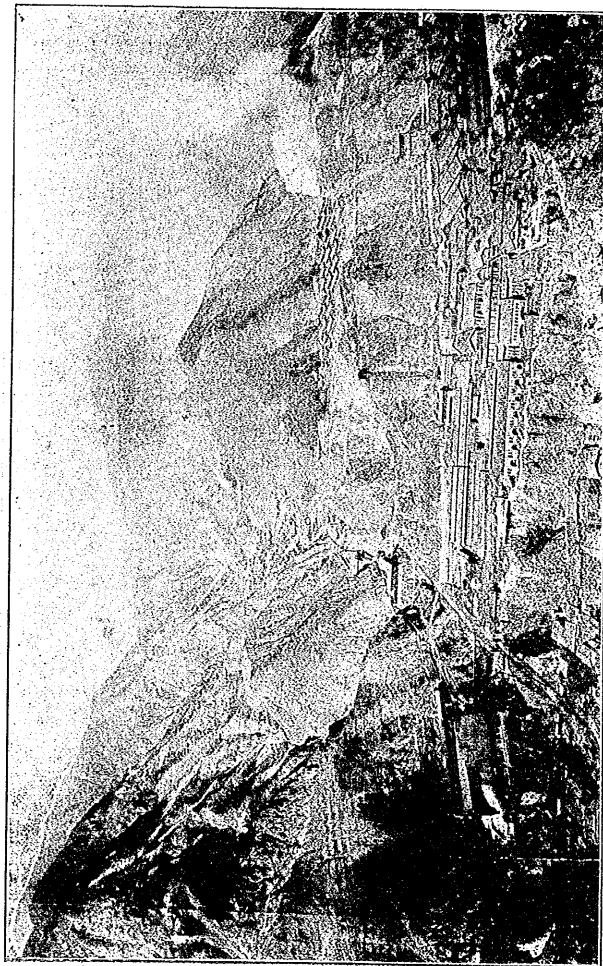
二、林業 山林は生産地中最も廣大にて、御料林・國有林・民有林の區別あり。木材・竹材・薪炭の外、樟腦・漆汁等の副産物を出す。國有林は本州・四國・九州を十六大林區に別ちて管理



埼玉縣鴻巣市新地公園の風景

整理區域四百餘町歩に亘り其の結果耕地面積五割餘を増加したけれども勞力餘りあり且つ二毛作を爲すを得

足尾銅産額年(山)一千一百萬斤を起超(ゆ)



す。又治水の必要上、保安林の設定あり。造林亦漸く行はる。

**三、牧畜** 奥羽・中國九州の地方稍盛に、南部馬・但馬牛は良種と稱せらる。されど善良なる外國種を入れ、改良繁殖を圖る必要あり。青森・鹿兒島二縣に種馬牧場、その他數所に種馬所を設け、馬政局をおきてこれを管す。豚は臺灣・沖繩に稍多きに過ぎず。

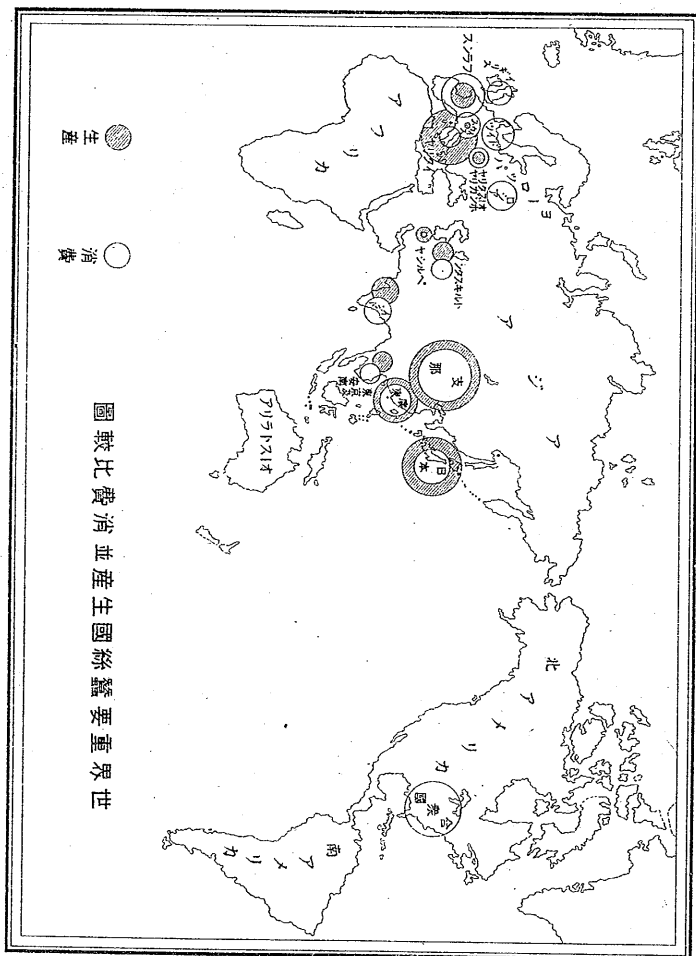
**四、礦業** 石炭の産額第一に居り、銅はこれに次ぎて數多の大礦山あり。金銀の産亦少なからず。鐵は岩手縣を主とし、石油は新潟縣の獨占にて、二品の輸入大なり。

**五、漁業** 水族に富めること、世界屈指の一に居り、鱈・鯉・鯨・鰹・昆布等を主要の漁獲物とす。清國の一部、韓國全海岸、並にシベリアの太平洋沿岸は皆我が通漁地にて、又對岸には清國の如き海産物の大需要地を控ふ。されば水産業は將來ま

すます振興の機運に進むべく、漁具の改良、水産教育の普及等、施設すべきこと甚だ多し。遠洋漁業には奨励金下賜の制あり。

**六、工業** 機械工業漸く進歩して、石炭の消費額次第に増加し、水力の利用亦漸く盛んならんとす。諸工業中最も注意すべきは綿絲紡績・蠶絲・織物等とす。綿絲は現今約八十の紡績工場あり、北米合衆國・印度及び清國産の棉花を原料とするを以て、棉花輸入の便ある地方に多く發達し、内國に需要する外、盛に清國に輸出す。蠶絲は長野縣以下蠶業の盛大なる地方に盛にて、輸出品の第一位を占む。織物は京都の絹織・群馬の絹綿交織・福井の羽二重・愛知の木綿・滋賀の麻織等各特色あり。製鐵・製鋼等は専ら官業にて行はる。

**七、商業** 商業は帝國の内外商業を左右する二大中心地



世界主要蠶絲生産並消費比較圖



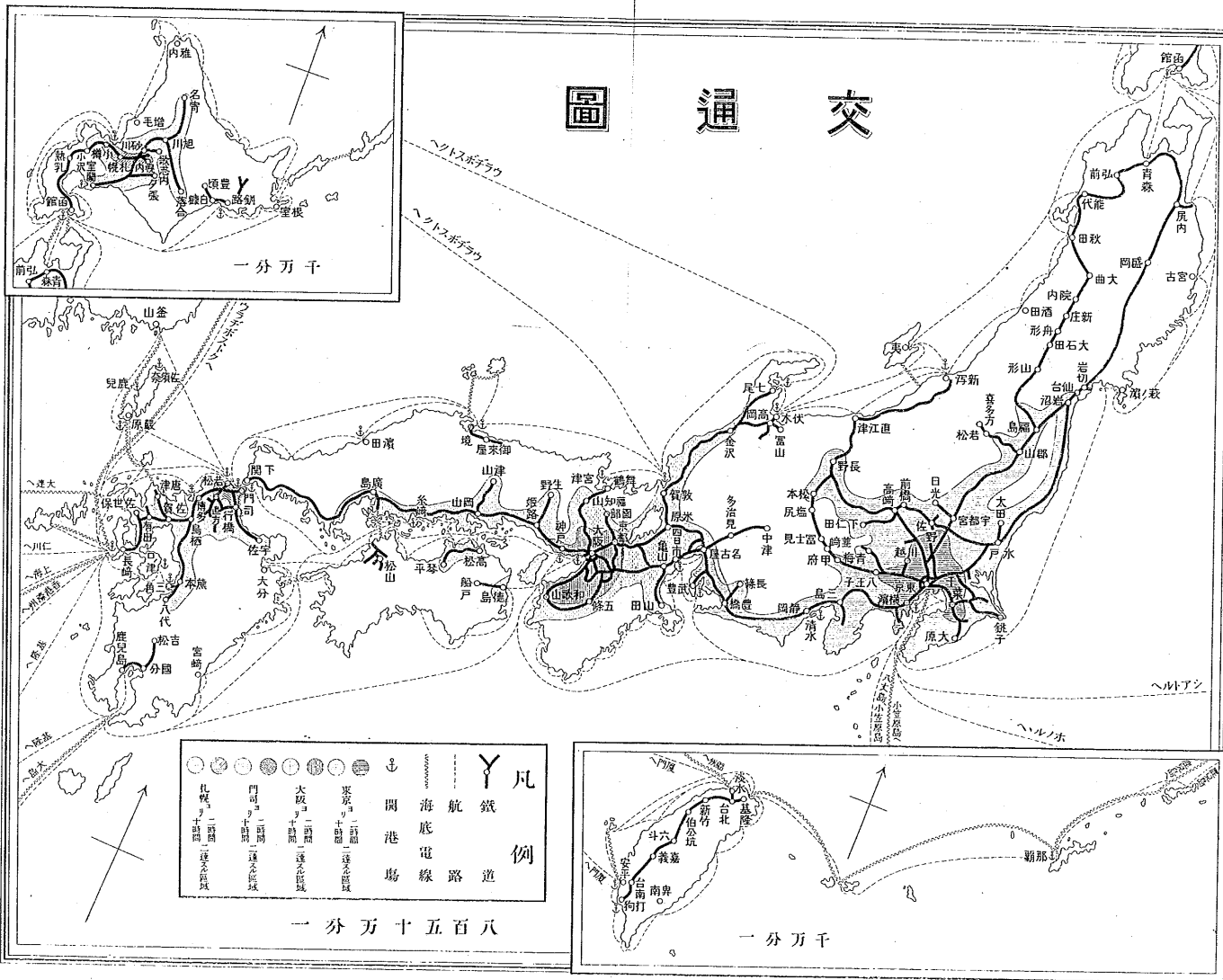
地の交通愈便なり。水運は近年戦役の結果船艦の増加に伴ひて、大に發達の機運に向ひ、神戸・横濱を大中心として、盛に内外諸港を往復す。されど外國取引の貨物は今尚ほ外國船にて輸送するもの多し。

郵便・電信は各地通ぜざる所なく、帝國郵便は萬國郵便聯合に加入し、清・韓兩國にもその線路を延長し、北京・上海・京城等に及ぶ。海底電信線は帝國諸大島を連絡し、四隣の諸外國に通ず。九州・臺灣間には無線電信の設備成れり。電話は大都會に普く架設せられ、東京より宇都宮、竝に佐世保に、青森より函館に、長距離電話の便あり。

**人口・族制** 帝國の人口は五千餘萬人にて、年々六十餘萬入つつの増加あり。過半は本州に居住す。北州樺太は人口最も粗なり。近時商工業の發達と共に、都會人口の増加著しく、

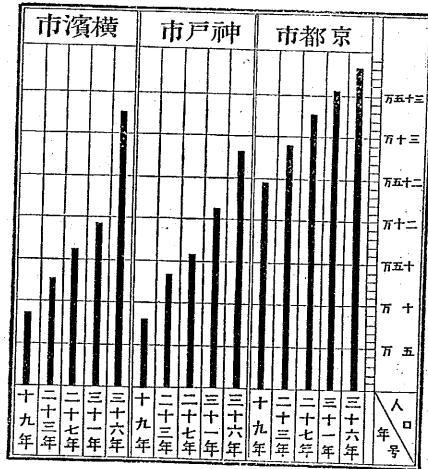
交 通 圖

**主要航路** 日本郵船會社 歐洲線 米國線 濠州線 清國上海線 以上 橫濱起點 台灣線 ウラヂボストク線 以上 小樽線 東京及び西起 神戸起點



大阪商船會社  
釜山線 仁川線 以上 大坂起點  
釜南浦線 臺灣東起線 以上 基隆起點  
同 西貢線 神戶基隆線 橫濱打狗線  
上海漢口線 漢口宜昌線 東洋航船會社  
香港ヲシラシスコ線  
楊子江線 上海蘇州杭州線

第八〇圖  
都會人口  
比較の増比



公侯伯子男の五等あり、政治上多少の特權を有す。

教育 國運の進歩に伴ひて、各種の教育大に發達し、初等教育は寒村僻邑と雖も行はれ、不就學兒童甚だ僅少なり。中等教育は近年長足の進歩をなし、各府縣數多の中學校・高

横濱・神戸・小樽・門司等殊に甚し。又外人の居留する者一萬五千人あり。清國人その半を占め、英米人に次ぐ。

族制には皇族・華族・平民の別あり。皇族は皇室典範に定められたる天皇の御一族とす。華族はその爵に

等女學校あり。高等教育には二國立大學あり。七個の高等學校は大學に入るべき豫備をなし、又高等の學術を教授す。高等専門教育の官私立諸學校亦多し。その他臺灣に國語學校あり。各府縣には實業學校の設け漸く盛なり。

東京帝國大學は法理醫文工農の六分科大學、京都帝國大學は法醫文理工の四分科大學より成る。又東京は學藝教育の大中心地にて、帝國學士院、東京帝國大學の外、東京高等師範學校第一高等學校、高等商業學校、高等工業學校、商船學校、外國語學校、美術學校、音樂學校あり。又陸軍大學校、士官學校、海軍大學校、海軍兵學校は陸海軍將校を養成し、學習院は華族の子弟女子を教育す。

**神社・宗教** 我が邦古來國家人民の爲に功績の著しき人をば尊崇して、祭祀する風あり。近くは故北白川宮を臺灣神社に合祀せられ、又靖國神社を建て、維新後國事に死したる人々を合祀せらるるが如し。神社には官幣社、國幣社、府縣

社、郷社等の社格あり。

宗教は外國の如く盛ならず。神道は我が邦固有の教義に基けるものにて、十數派に分る。佛教は眞・眞言・淨土・天台等十二宗に分れ、到る處寺院の設あれども、現今その勢振はず。耶蘇教は未だ普及せず。

**政體** 帝國は東洋唯一の立憲君主制にて、天皇は一國の元首として、萬機を總攬し給ひ、その下に立法・行政・司法の三大機關、及び樞密院、會計検査院あり。

(4) 立法權は帝國議會これに參與し、貴族・衆議の兩院より成り、法律案及び豫算を議決す。

(5) 行政權は中央政府これを掌る。内閣及び外務・内務・大藏・陸軍・海軍・司法・文部・農商務・逓信の九省あり。内閣總理大臣及び各省の長官たる國務大臣を以て内閣を組織す。地方には

臺灣に總督、遼東租借地に都督、北海道樺太に長官、保護國韓に統監あり。又全國を三府四十三縣に分ち、知事をおきてこれを管す。郡・市・町・村には各その長あり、下級行政を掌る。

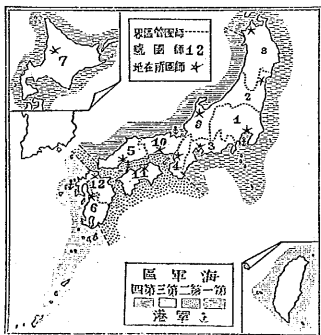
司法權は裁判所これを掌る。その最下級を區裁判所とし、その上に地方裁判所、控訴院、大審院あり。三審制度とす。

又行政裁判所あり。行政に關する訴訟を判決す。臺灣には覆審法院、地方法院の二種あり、一切の事件を裁判す。

**軍備** 帝國の軍隊は天皇の統帥し給ふ所にて、元帥府をその最高顧問とし、陸軍に參謀本部、海軍に軍令部をおきて、國防用兵の事を掌る。

陸軍の兵種は歩・騎・砲・工・輜重、及び憲兵、軍樂隊より成り、臺灣樺太を除きて、全國を十二師管に分ち、近衛師團及び十二師團を編制して衛戍せしむ。一師團は概ね歩兵二旅團、四箇聯

第八一圖  
陸海軍管區圖



隊、騎兵、野戰砲兵、各一聯隊、工兵、輜重兵、各一大隊より成る。

又日露戰役中に編成せる第十三、第十四、第十五、第十六の四師團あり。

海軍は全國を四海軍區に分ち、區毎に軍港をおき、各軍港並に旅順口に鎮守府を設く。艦艇は戰鬪艦、巡洋艦、砲艦、水雷驅逐艦、水雷艇等約四十萬噸あり。各鎮守府に分屬す。

陸海軍の兵員は徵兵法によりて徵す。帝國臣民にして滿十七歳より滿四十歳までの男子は、總て兵役に服する義務あり。兵役の種類、服役年限等は次の表にて知るべし。

|                                                              |        |        |                                                        |                 |                |               |      |        |
|--------------------------------------------------------------|--------|--------|--------------------------------------------------------|-----------------|----------------|---------------|------|--------|
| 警備隊を<br>おきたる<br>島地の<br>壯丁は<br>一年間<br>その<br>警備隊<br>に服役<br>せしむ | 國民兵役   |        | 補充兵役                                                   | 後備兵役            | 常備兵役           | 現役            | 服役年限 | 服役者の種類 |
|                                                              | 第<br>二 | 第<br>一 | 陸軍<br>十二年四月<br>一年                                      | 陸軍<br>五年        | 陸軍<br>三年<br>四十 |               |      |        |
|                                                              |        |        | 陸軍<br>五年                                               | 陸軍<br>三年<br>四十  | 陸軍<br>四年<br>四月 | 現役を終りたる者之れに服す |      |        |
|                                                              |        |        | 其年所要の現役兵員に超過せる者の中所要の人員之れに服す                            | 常備兵役を終りたる者之れに服す |                |               |      |        |
|                                                              |        |        | 陸軍に於ては後備兵役又ハ召集せられたる補充兵にして其役を終りたる者海軍に於ては後備兵役を終りたる者之れに服す |                 |                |               |      |        |
|                                                              |        |        | 以上各種の兵役に在らざる者之れに服す                                     |                 |                |               |      |        |

9220 B-24

新日本中等地理本邦之部

上製定價金六拾五錢

東京市京橋區南傳馬町二丁目  
合資會社 吉川弘文館

230  
6  
155

